

アニュアル
レポート

2021 【公表版】

国立大学法人
東京学芸大学

目 次

I. 教育活動

(1)学部入試状況	2
(2)入学者の都道府県別選抜経過表	4
(3)退学・休学別の状況	5
(4)学部進路状況	7
(5)大学院教育学研究科・特別専攻科入試状況	8
(6)大学院教育学研究科・特別専攻科進路状況	9
(7)大学院連合学校教育学研究科	10
(8)附属学校入学者選抜状況	12
(9)教員免許取得状況	13
(10) 諸資格取得者数	14
(11) 附属学校の教育実習生受入状況	14
(12) F D研修会	15
(13) 単位互換制度	16
(14) 学生支援	17
(15) キャリア支援	19

II. 研究活動

(1)文部科学省機能強化経費事業	21
(2)文部科学省等受託研究	22
(3)文部科学省等補助金事業	23
(4)科学研究費助成事業	24
(5)産学連携研究	26
(6)特別開発研究プロジェクト	28
(7)センターの研究活動	29
(8)附属学校の研究活動	34
(9)附属学校研究会	35
(10) 研究活動受賞者	36

III. 社会貢献活動

(1)地域連携事業	38
(2)免許状更新講習	39
(3)プロジェクト別現職教員研修	40
(4)受託事業	42
(5)公開講座	43
(6)附属学校現職教員研修講座	44

IV. 国際交流活動

(1)大学間交流協定校	46
(2)協定校派遣留学状況	48
(3)短期留学状況	48
(4)外国人留学生受入状況	49
(5)教員・研究者の派遣受入状況	50
(6)留学生センター事業	50

V. 大学運営

(1)役員会 議題一覧	52
(2)経営協議会 議題一覧	54
(3)教育研究評議会 議題一覧	55
(4)委員会等一覧	57
(5)令和2年度収入・支出予算額	61
(6)男女共同参画の現状	62
(7)教職員の年齢構成	65

付：関係資料

(1)令和3年度機構図	67
(2)役職員	68
(3)第3期中期目標・中期計画工程及び令和3年度計画	69
(4)大学の目的	81
(5)ミッションの再定義	81
(6)行動規範	84
(7)点検評価規程	85

I . 教育活動

I - (1) 学部入試状況

①一般選抜（令和3年度）

類	選修・専攻	入学定員	募集人員	日程	日程別募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数		
										男	女	計
A類	国語	80	65	前	55	111	2.0	105	57	54	18	36
					後	10	93	9.3	31	13	11	5
	社会	70	70	前	50	129	2.6	127	52	51	39	12
					後	20	144	7.2	64	22	20	12
	数学	65	65	前	50	109	2.2	108	52	50	38	12
					後	15	87	5.8	35	16	16	12
	理科	85	85	前	60	97	1.6	94	64	62	34	28
					後	25	124	5.0	48	27	26	16
	音楽	25	25	前	17	23	1.4	23	18	18	4	14
					後	8	33	4.1	9	8	7	0
	美術	25	18	前	15	31	2.1	29	17	17	0	17
					後	3	40	13.3	14	3	3	1
	保健体育	40	30	前	30	73	2.4	70	32	32	20	12
	家庭	15	12	前	12	21	1.8	19	14	14	1	13
	英語	15	8	前	8	13	1.6	13	9	9	4	5
	学校教育	20	20	前	15	38	2.5	38	17	16	5	11
					後	5	70	14.0	31	5	5	3
	学校心理	20	20	前	12	26	2.2	25	14	14	6	8
					後	8	51	6.4	17	9	8	1
	国際教育	15	12	前	12	22	1.8	22	14	14	0	14
情報教育	20	20	前	15	29	1.9	28	17	15	10	5	
				後	5	38	7.6	13	7	6	3	3
環境教育	20	20	前	15	27	1.8	27	17	17	12	5	
				後	5	36	7.2	15	5	4	2	2
ものづくり技術	10	7	前	7	11	1.6	11	8	8	4	4	
幼児教育	20	16	前	16	25	1.6	25	18	17	1	16	
計	545	493	前	389	785	2.0	764	420	408	196	212	
				後	104	716	6.9	277	115	106	55	51
B類	国語	20	15	前	15	67	4.5	67	17	17	8	9
					後	20	40	2.0	39	23	20	17
	社会	25	25	前	20	40	2.0	39	23	20	17	3
					後	5	53	10.6	21	7	5	4
	数学	25	25	前	20	68	3.4	66	22	20	19	1
					後	5	44	8.8	18	5	3	2
	理科	45	45	前	30	62	2.1	59	32	30	17	13
					後	15	66	4.4	23	18	17	13
	音楽	20	20	前	12	37	3.1	35	13	13	4	9
					後	8	29	3.6	20	8	8	3
	美術	20	15	前	15	33	2.2	32	17	17	2	15
	保健体育	20	10	前	10	31	3.1	30	12	12	10	2
	家庭	10	8	前	8	12	1.5	12	9	8	0	8
	技術	10	8	前	8	7	0.9	6	7	6	4	2
英語	15	8	前	8	28	3.5	27	9	9	2	7	
書道	20	16	前	16	36	2.3	31	18	18	4	14	
計	230	195	前	162	421	2.6	404	179	170	87	83	
				後	33	192	5.8	82	38	33	22	11
C類	特別支援教育	40	35	前	30	53	1.8	50	32	31	7	24
					後	5	36	7.2	11	5	5	0
D類	養護教育	10	6	前	6	18	3.0	17	7	7	0	7
学校教育系合計	825	729	前	587	1,277	2.2	1,235	638	616	290	326	
				後	142	944	6.6	370	158	144	77	67
				計	729	2,221	3.0	1,605	796	760	367	393

類	コース	入学定員	募集人員	日程	日程別募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数		
										男	女	計
E類	生涯学習	35	35	前	30	53	1.8	51	33	31	11	20
					後	5	57	11.4	12	6	6	1
	カウンセリング	20	13	前	13	28	2.2	26	15	15	3	12
	ソーシャルワーク	20	18	前	18	33	1.8	32	19	18	2	16
	多文化共生教育	40	40	前	30	40	1.3	39	32	30	6	24
					後	10	112	11.2	31	10	7	2
	情報教育	15	15	前	10	29	2.9	28	12	10	1	9
後					5	48	9.6	27	6	5	4	1
表現教育	20	15	前	15	35	2.3	32	17	16	3	13	
生涯スポーツ	35	18	前	18	56	3.1	54	20	19	12	7	
教育支援系合計	185	154	前	134	274	2.0	262	148	139	38	101	
				後	20	217	10.9	70	22	18	7	11
				計	154	491	3.2	332	170	157	45	112

総計	1,010	883	前	721	1,551	2.2	1,497	786	755	328	427
			後	162	1,161	7.2	440	180	162	84	78
			計	883	2,712	3.1	1,937	966	917	412	505

③編入学（令和3年度） 募集なし

④国費留学生（令和3年度）

類	選修・専攻	入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
E類	多文化共生教育	/	/	1	/	1	1	1
計				1	/	1	1	1

⑤一般選抜 追試験（令和3年度）

類	選修・専攻	入学定員	募集人員	日程	日程別募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
B類	社会	/	/	前	/	1	/	1	0	0
					後	1	/	1	1	0
	書道	/	/	前	/	1	/	0	0	0
計						3	/	2	1	0

⑥学校推薦型選抜 追試験（令和3年度）

類	選修・専攻	入学定員	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
A類	国語	/	/	1	/	1	0	0
計				1	/	1	0	0

②特別選抜(令和3年度)

類	選修・専攻・コース	入学定員	学校推薦型選抜					高大接続プログラム特別入試					帰国生選抜				私費外国人留学生選抜				国際バカロレア選抜					
			募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数			
A類	国語	80	15	41	40	15	15	1	1	1	1															
	社会	70																								
	数学	65						1	1	1	1															
	理科	85																								
	音楽	25																								
	美術	25	7	17	17	8	8																			
	保健体育	40	10	16	16	11	11	1	1	1	1															
	家庭	15	3	3	3	2	2																			
	英語	15	7	17	17	7	7																			
	学校教育	20																								
	学校心理	20														1	1	1	1							
	国際教育	15	3	11	11	3	3																			
	情報教育	20																								
	環境教育	20																								
	ものづくり技術	10	3	6	6	3	3																			
幼児教育	20	4	19	19	4	4																				
計	545	52	130	129	53	53	3	3	3	3	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0		
B類	国語	20	5	30	30	5	5																			
	社会	25						1	1	1	1				1	1	0	0								
	数学	25										1	1	1	1											
	理科	45																								
	音楽	20																								
	美術	20	5	15	14	5	5																			
	保健体育	20	10	26	26	10	10	1	1	1	1															
	家庭	10	2	3	3	2	2																			
	技術	10	2	1	1	0	0																			
	英語	15	7	21	21	7	7					1	1	0	0	1	1	0	0							
	書道	20	4	13	13	4	4																			
	計	230	35	109	108	33	33	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
C類	特別支援教育	40	5	19	19	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
D類	養護教育	10	4	19	19	4	4	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
学校教育系合計		825	96	277	275	95	95	6	6	6	6	2	2	1	1	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0	
E類	生涯学習	35																		1	0	0	0	0	0	
	カウンセリング	20	7	28	28	7	7																			
	ソーシャルワーク	20	2	15	15	2	2					1	1	0	0											
	多文化共生教育	40										2	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	
	情報教育	15																								
	表現教育	20	5	17	17	5	5									1	1	1	1							
	生涯スポーツ	35	7	16	16	7	7																			
※ SA		10	10	10	10	10																				
教育支援系合計		185	31	86	86	31	31	0	0	0	0	3	2	1	1	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	
総計		1,010	127	363	361	126	126	6	6	6	6	5	4	2	2	6	6	3	3	2	1	1	1	1	1	

※ SAはスーパーアスリート推薦選抜。

I - (2) 入学者の都道府県別選抜経過表

(令和3年度)

都道府県	学校教育系						教育支援系					
	志願者			入学者			志願者			入学者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
01 北海道	15	9	24	6	2	8	8	6	14	5	5	10
02 青森県	11	7	18	3	5	8	2	2	4	0	0	0
03 岩手県	9	14	23	2	6	8	3	5	8	2	3	5
04 宮城県	9	10	19	5	6	11	6	8	14	2	2	4
05 秋田県	6	10	16	3	6	9	2	3	5	1	2	3
06 山形県	6	7	13	3	4	7	1	1	2	0	1	1
07 福島県	25	13	38	10	5	15	2	8	10	1	4	5
08 茨城県	39	32	71	11	13	24	6	17	23	1	5	6
09 栃木県	27	22	49	13	10	23	7	6	13	1	4	5
10 群馬県	35	16	51	13	5	18	9	7	16	2	4	6
11 埼玉県	179	100	279	49	39	88	17	34	51	1	14	15
12 千葉県	50	50	100	12	11	23	5	13	18	0	2	2
13 東京都	413	457	870	114	149	263	57	94	151	11	31	42
14 神奈川県	138	91	229	39	27	66	22	30	52	6	7	13
15 新潟県	13	17	30	5	6	11	2	3	5	0	1	1
16 富山県	7	5	12	2	4	6	1	3	4	0	2	2
17 石川県	2	4	6	0	1	1	0	0	0	0	0	0
18 福井県	5	9	14	2	8	10	0	0	0	0	0	0
19 山梨県	7	12	19	2	6	8	1	2	3	1	1	2
20 長野県	23	17	40	11	10	21	4	12	16	0	4	4
21 岐阜県	3	7	10	2	5	7	0	5	5	0	2	2
22 静岡県	27	35	62	14	20	34	8	5	13	2	2	4
23 愛知県	23	16	39	10	7	17	5	7	12	1	2	3
24 三重県	2	3	5	1	1	2	1	0	1	1	0	1
25 滋賀県	2	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26 京都府	2	2	4	1	1	2	0	1	1	0	0	0
27 大阪府	4	5	9	2	0	2	1	2	3	0	1	1
28 兵庫県	3	8	11	0	3	3	0	3	3	0	0	0
29 奈良県	2	3	5	1	2	3	0	0	0	0	0	0
30 和歌山県	1	1	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0
31 鳥取県	3	3	6	3	1	4	1	2	3	1	1	2
32 島根県	3	4	7	2	3	5	0	2	2	0	1	1
33 岡山県	4	2	6	0	0	0	1	1	2	0	0	0
34 広島県	12	18	30	3	9	12	0	6	6	0	3	3
35 山口県	5	5	10	0	3	3	1	0	1	1	0	1
36 徳島県	2	4	6	0	2	2	0	1	1	0	1	1
37 香川県	4	5	9	3	1	4	3	1	4	0	0	0
38 愛媛県	3	0	3	1	0	1	1	0	1	0	0	0
39 高知県	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
40 福岡県	7	7	14	2	4	6	3	3	6	1	3	4
41 佐賀県	4	0	4	2	0	2	0	0	0	0	0	0
42 長崎県	3	0	3	1	0	1	3	1	4	1	1	2
43 熊本県	1	6	7	0	3	3	4	2	6	2	0	2
44 大分県	2	2	4	2	1	3	0	1	1	0	1	1
45 宮崎県	1	3	4	1	0	1	1	1	2	1	1	2
46 鹿児島県	6	3	9	2	0	2	1	3	4	0	1	1
47 沖縄県	10	4	14	3	2	5	0	0	0	0	0	0
検定	7	3	10	4	1	5	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1,168	1,053	2,221	367	393	760	190	301	491	45	112	157

(注) 学校推薦型選抜、スーパーアスリート推薦選抜、高大接続プログラム特別入試、帰国生選抜、外国人留学生選抜、国費留学生、追試験は含まない。

I - (3) 退学・休学別の状況

①教育学部(令和2年度)

類	選修・専攻	学生数	退学者数					休学者数				
			1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
A類	国語	343				1 (1)	1 (1)				4 (3) <1>	4 (3) <1>
	社会	303	1 【1】			3 (2)	4 (2) 【1】	1			6 (4) <1>	7 (4) <1>
	数学	292				2 (2)	2 (2)		1			1
	理科	361	1				1		2		2 (2)	4 (2)
	音楽	106									1 (1)	1 (1)
	美術	106							1		2 (2)	3 (2)
	保健体育	172			1	2 【1】	3 【1】			1	2 (1) <1>	3 (1) <1>
	家庭	69	1				1					
	英語	63									1 <1>	1 <1>
	学校教育	87				1 (1)	1 (1)					
	学校心理	87								1		1
	国際教育	77		1			1				3 (1) <2>	3 (1) <2>
	情報教育	90										
	環境教育	84										
	ものづくり技術	48									3 (2) <1>	3 (2) <1>
幼児教育	88											
B類	国語	90		1		3 (1) 【2】	4 (1) 【2】				2	2
	社会	116									2 (2)	2 (2)
	数学	114				1 (1) 【1】	1 (1) 【1】				1 (1)	1 (1)
	理科	194	1		1		2				5 (4) <1>	5 (4) <1>
	音楽	85								1	1	2
	美術	97				1	1			1	3 (1)	4 (1)
	保健体育	88				1 (1) 【1】	1 (1) 【1】			1	2 (2)	3 (2)
	家庭	45										
	技術	47				2 (1)	2 (1)				1 (1)	1 (1)
	英語	70									2 (1) <1>	2 (1) <1>
	書道	94				3 (3) 【1】	3 (3) 【1】			2	1 (1)	3 (1)
C類	特別支援教育	179									3 <2>	3 <2>
D類	養護教育	43				1 (1)	1 (1)			1	1	2
教育系 / 学校教育系・計		3,638	4 【1】	2	2	21 (14) 【6】	29 (14) 【7】	1	4	8	48 (29) <11>	61 (29) <11>
E類	生涯学習	145								1		1
	カウンセリング	89									1	1
	ソーシャルワーク	83	1	1			2	1			1 (1)	2 (1)
	多文化共生教育	190				1 (1)	1 (1)		2 <1>		3 (1) <1>	5 (1) <2>
	情報教育	67							1		2 (2)	3 (2)
	表現教育	93							2		3 (2)	5 (2)
	生涯スポーツ	149				1 (1) 【1】	1 (1) 【1】				2 (2) <1>	2 (2) <1>
N類	生涯学習	1										
F類	環境教育	2										
	自然環境科学	1										
	表現コミュニケーション	1										
教養系 / 教育支援系・計		821	1	1	0	2 (2) 【1】	4 (2) 【1】	1	5 <1>	1	12 (8) <2>	19 (8) <3>
総計		4,459	5 【1】	3	2	23 (16) 【8】	33 (16) 【8】	2	9 <1>	9	60 (37) <13>	80 (37) <14>

令和2年5月1日現在の学生数。
 () は卒業延期者で内数。休学は重複カウントしない。退学者には除籍者を含む。
 【 】 は休学中に退学した者で内数。
 <> は語学研修等のため休学した者で内数。

②修士課程(令和2年度)

専攻	学生数	退学者数			休学者数		
		1年	2年	計	1年	2年	計
学校教育	5 (5)	-	0	0	-	0	0
学校心理	0 (0)	-	-	-	-	-	-
特別支援教育	0 (0)	-	-	-	-	-	-
家政教育	1 (1)	-	0	0	-	0	0
国語教育	6 (6)	-	1	1	-	1	1
英語教育	7 (7)	-	1 【1】	1 【1】	1 ※	1	2
社会科教育	8 (8)	-	3 【1】	3 【1】	-	3	3
数学教育	1 (1)	-	0	0	-	1	1
理科教育	4 (4)	-	1	1	-	1	1
技術教育	0 (0)	-	-	-	-	-	-
音楽教育	5 (5)	-	0	0	-	3	3
美術教育	7 (7)	-	0	0	-	2	2
保健体育	7 (7)	-	2 【1】	2 【1】	-	2	2
養護教育	6 (6)	-	0	0	-	2	2
総合教育開発	13 (13)	-	2	2	-	3	3
次世代日本型教育システム研究開発	42 (0)	-	0	0	0	1	1
教育支援協働実践開発	172 (0)	-	4 【2】	4 【2】	1	5	6
計	284 (70)	0	14 【5】	14 【5】	2	25	27

令和2年5月1日現在の学生数。

() は修了延期者及び在籍3年以上の長期履修学生で内数。休学は重複カウントしない。退学者には除籍者を含む。

【 】 は休学中に退学した者で内数。

※「短期特別コース」の学生のため1年に記載。

③教職大学院(令和2年度)

専攻	学生数	退学者数			休学者数		
		1年	2年	計	1年	2年	計
教育実践専門職高度化専攻	357	6	1	7	6	5	11
教育実践創成	2	—	0	0	—	0	0

令和2年5月1日現在の学生数。

④特別支援教育特別専攻科(令和2年度)

	学生数	退学者数	休学者数
特別支援教育	21	0	0

令和2年5月1日現在の学生数。

I - (4) 学部進路状況

進路状況(令和2年3月卒業生)

[学部]

<課程別進路状況(学校教育系・旧教育系)> 令和2年9月30日現在
(人)

進路先	課程	初等教育教員養成課程(A類)	中等教育教員養成課程(B類)	特別支援教育教員養成課程(C類)	養護教育教員養成課程(D類)	合計
教員 (非常勤含む)	幼稚園	13	0	0	0	13
	小学校・義務教育学校	208	18	10	4	240
	中学校・中等教育学校	32	35	0	4	71
	高等学校	27	37	0	0	64
	特別支援学校	1	0	12	0	13
	教員小計	281	90	22	8	401
日本人学校		13	1	1	0	15
保育園等		6	0	0	0	6
企業・団体		140	67	9	1	217
公務員		23	12	2	0	37
進学		65	50	4	3	122
その他		31	17	2	0	50
	小計	278	147	18	4	447
	計	559	237	40	12	848

*留学生及び前年9月卒業生は除く

<課程別進路状況(教育支援系・旧教養系)>

(人)

進路先	課程	生涯学習コース(E類)	カウンセリングコース(E類)	ソーシャルワークコース(E類)	多文化共生教育コース(E類)	情報教育コース(E類)	表現教育コース(E類)	生涯スポーツコース(E類)	旧教養系	合計
教員(非常勤含む)		0	0	0	6	1	0	3	0	10
保育園等		0	0	0	0	0	0	0	0	0
企業・団体		21	3	10	22	4	14	26	6	106
公務員		8	1	9	1	1	0	3	1	24
進学		3	14	1	4	5	1	1	0	29
その他		4	1	1	3	1	5	1	1	17
	計	36	19	21	36	12	20	34	8	186

I - (5) 大学院教育学研究科・特別専攻科入試状況

①修士課程(令和3年度)

専攻	プログラム	募集人員	志 願 者										受 験 者															
			一般	現職 教員	派遣 教員	社会 人	教育 支援 人材	留学生等 外国 教育 を受けた 者	一般 (第2 次募 集)	北京 DP	ソウ ル DP	10 月 入 学	合計	一般	現職 教員	派遣 教員	社会 人	教育 支援 人材	留学生等 外国 教育 を受けた 者	一般 (第2 次募 集)	北京 DP	ソウ ル DP	10 月 入 学	合計				
次世代日本型教育システム研究開発		20	18					30							48	15							23					38
	計	20	18					30							48	15							23					38
教育支援協働実践開発	教育AI研究	35	21	1		2	7		14					45	20	1		1		6		13					41	
	臨床心理学	20	36				3							39	30					3							33	
	教育協働研究	34	22		1	7	22		18					70	20		1	5		20		16					62	
	計	89	79	1	1	9	32		32					154	70	1	1	6		29		29					136	
合 計		109	97	1	1	9	62		32					202	85	1	1	6		52		29					174	

専攻	プログラム	募集人員	合 格 者										入 学 者														
			一般	現職 教員	派遣 教員	社会 人	教育 支援 人材	留学生等 外国 教育 を受けた 者	一般 (第2 次募 集)	北京 DP	ソウ ル DP	10 月 入 学	合計	一般	現職 教員	派遣 教員	社会 人	教育 支援 人材	留学生等 外国 教育 を受けた 者	一般 (第2 次募 集)	北京 DP	ソウ ル DP	10 月 入 学	合計			
次世代日本型教育システム研究開発		20	13				9							22	11					8							19
	計	20	13				9							22	11					8							19
教育支援協働実践開発	教育AI研究	35	20	1		1	3		9					34	19	1		1		3		8					32
	臨床心理学	20	22				0							22	22					0							22
	教育協働研究	34	15		1	4	5		6					31	12		1	4		4		5					26
	計	89	57	1	1	5	8		15					87	53	1	1	5		7		13					80
合 計		109	70	1	1	5	17		15					109	64	1	1	5		15		13					99

②教職大学院(教育実践専門職高度化専攻)(令和3年度)

入学定員:210名

選抜試験日程	募集人員	志 願 者					受 験 者					合 格 者					入 学 者					
		特別	一般	現職 教員	派遣 教員	計	特別	一般	現職 教員	派遣 教員	計	特別	一般	現職 教員	派遣 教員	計	特別	一般	現職 教員	派遣 教員	計	
A 日程	205	37	163	18	27	245	37	136	18	27	218	37	115	15	27	194	37	101	15	27	180	
B 日程	5				11	11				11	11				11	11					11	11
計	210	37	163	18	38	256	37	136	18	38	229	37	115	15	38	205	37	101	15	38	191	

③教職大学院・入学者の状況

出身大学	人数
東京学芸大学	69
その他国公立大学	18
私立大学	51
計	138

出身大学の人数は現職教員を含まない。

派遣元機関	人数
東京都教育委員会	23
神奈川県教育委員会	2
埼玉県教育委員会	2
静岡県教育委員会	2
広島県教育委員会	1
高知県教育委員会	1
さいたま市教育委員会	2
相模原市委員会	1
附属学校	4
計	38

④教職大学院・入学者の教員免許取得状況(学生数197名)

のべ人数	
幼稚園	16
小学校	84
中学校	162
高等学校	207
特別支援学校	12
養護教諭	3
計	484

のべ人数には2種免許状取得者を含まない

⑤修士課程・10月入学(令和3年度)

なし

⑥特別支援教育特別専攻科(令和3年度)

入学定員(募集人員)	志願者	受験者	合格者	入学者
30	25(2)	23(2)	21(2)	20(2)

()の数字は現職教員等の特例措置適用者を内数で示す。

I - (6) 大学院教育学研究科・特別専攻科進路状況

① 大学院修士課程(教職大学院を除く)進路状況(令和2年3月修了生)

(令和2年9月30日現在)

進路先	専攻																合計
	学校教育専攻	学校心理専攻	特別支援教育専攻	家政教育専攻	国語教育専攻	英語教育専攻	社会科教育専攻	数学教育専攻	理科教育専攻	技術教育専攻	音楽教育専攻	美術教育専攻	保健体育専攻	養護教育専攻	総合教育開発専攻		
教員	3	3	9	4	16	10	14	8	8	1	8	5	7	2	4	102	
企業・団体	7	10	1	0	2	1	6	1	9	0	6	2	7	2	11	65	
公務員(スクールカウンセラー等を含む)	0	10	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	13	
進学等	2	1	2	0	0	0	1	0	4	0	0	1	4	0	1	16	
その他	0	4	2	0	0	0	4	0	1	1	4	1	0	1	2	20	
計(卒業生数)	12	28	14	4	18	11	25	9	23	2	18	10	18	5	19	216	

※現職教員及び留学生は含まない。

② 教職大学院進路状況(令和2年3月修了生)

令和2年9月30日現在

教育実践創成専攻／ 教育実践専門職高度化専攻		現職	一般	計
教員 (非常勤含む)	幼稚園	1	0	1
	小学校	11	9	20
	中学校・中等教育学校	4	9	13
	高等学校	7	11	18
	特別支援学校	0	0	0
	教員小計	23	29	52
教育委員会		6	0	6
進学		0	0	0
その他		0	0	0
合計		29	29	58

③ 特別支援教育特別専攻科進路状況(令和2年3月修了生)

令和2年9月30日現在

専攻科		計
教員 (非常勤含む)	小学校	1
	中学校	1
	特別支援学校	10
	教員 小計	12
企業・団体		2
進学		3
その他		2
合計		19

※現職教員及び留学生は含まない。

I - (7) 大学院連合学校教育学研究科

①指導教員有資格者数および入学者選抜経過(令和3年度)

入学定員:30名

講座名	指導教員 有資格者数 [主指導/副指導]	志願者	受験者数	合格者数	入学者数	配置大学			
						学芸	埼玉	千葉	横国
教育構造論	17 [14 /3]	9 (0・3)	9 (0・3)	5 (0・1)	4 (0・1)	3 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・1)	0 (0・0)
教育方法論	21 [21 /0]	12 (3・5)	11 (3・5)	5 (1・3)	5 (1・3)	4 (1・2)	0 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・1)
発達支援	13 [13 /0]	4 (0・1)	4 (0・1)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)
言語文化系教育	35 [35 /0]	12 (1・5)	11 (1・5)	5 (1・3)	5 (1・3)	3 (1・2)	0 (0・0)	0 (0・0)	2 (0・1)
社会系教育	28 [27 /1]	4 (1・0)	4 (1・0)	4 (1・0)	4 (1・0)	1 (1・0)	0 (0・0)	1 (0・0)	2 (0・0)
自然系教育	44 [40 /4]	4 (0・2)	4 (0・2)	3 (0・1)	3 (0・1)	3 (0・1)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)
芸術系教育	40 [40 /0]	8 (1・0)	7 (1・0)	3 (0・0)	3 (0・0)	1 (0・0)	1 (0・0)	0 (0・0)	1 (0・0)
健康・スポーツ系教育	18 [18 /0]	7 (0・3)	5 (0・3)	3 (0・2)	3 (0・2)	3 (0・2)	0 (0・0)	0 (0・0)	0 (0・0)
生活・技術系教育	34 [34 /0]	5 (1・1)	5 (1・1)	4 (0・1)	4 (0・1)	2 (0・0)	1 (0・1)	0 (0・0)	1 (0・0)
計	250 [242 /8]	65 (7・20)	60 (7・20)	32 (3・11)	31 (3・11)	20 (3・7)	2 (0・1)	2 (0・1)	7 (0・2)

()内の左側は外国人留学生、右側は現職教員で内数。

②学位授与率

講座名	平成8~30年度 までの 入学者数	令和2年度 までの学位 授与者数	学位授与率 (%)	令和2年度 学位授与者数	令和2年度 標準修業年 限修了者数	令和2年度 標準修業年 限修了者率 (%)	平成27~ 令和2年度 学位授与者数	平成27~ 令和2年度 学位授与者 平均在学年数 (休学期間を含む)
	(A)	(B)	(B)/(A)	(C)	(D)	(D)/(C)		
教育構造論	62 (9)	36 (6)	58.1 (66.7)	2 (1)	0	0.0	10	5.3
教育方法論	70 (8)	47 (6)	67.1 (75.0)	2 (1)	1 (1)	50.0	18	4.1
発達支援	67 (4)	60 (3)	89.6 (75.0)	2	1	50.0	22	3.6
言語文化系教育	78 (24)	51 (18)	65.4 (75.0)	3 (1)	2 (1)	66.7	14	4.1
社会系教育	52 (10)	13 (3)	25.0 (30.0)	0	0	0.0	1	9.0
自然系教育	62 (3)	43 (2)	69.4 (66.7)	1	1	100.0	10	3.5
芸術系教育	78 (9)	39 (7)	50.0 (77.8)	1	0	0.0	11	5.0
健康・スポーツ系教育	65 (1)	35 (1)	53.8 (100.0)	3	0	0.0	11	5.0
生活・技術系教育	75 (11)	42 (7)	56.0 (63.6)	4	1	25.0	12	4.9
計	609 (79)	366 (53)	60.1 (67.1)	18 (3)	6 (2)	33.3 (66.7)	109	0.0

()内は外国人留学生で内数。

③ 修了生の就職先・就職率(開設～令和3年3月)

講座名	種別	修了・退学者数	大学教員	短大教員	研究員, 教員 以外の研究職	小・中・高校 教員	非常勤講師	進学	その他	未定	常勤就職率 (%)	研究職就職率 (%)
教育構造論	修了	36	22	3	1	2	5	0	2	1	83.3	72.2
	単位修得満期退学	18	7	1	2	2	3	0	2	1	77.8	55.6
	退学	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0.0	0.0
	計	55	29	4	3	4	9	0	4	2	80.0	65.5
教育方法論	修了	47	30 (2)	1	4	1	8	0	1	2	78.7	74.5
	単位修得満期退学	15	6	2	3	2	0	0	1	1	93.3	73.3
	退学	3	2	0	0	1	0	0	0	0	100.0	66.7
	計	65	38 (2)	3	7	4	8	0	2	3	83.1	73.8
発達支援	修了	60	36 (1)	0	4	7	6	0	6 (1)	1	88.3	66.7
	単位修得満期退学	4	1	0	1	1	0	0	0	1	75.0	50.0
	退学	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0	0.0
	計	65	37 (1)	0	5	8	6	0	6 (1)	3	86.2	64.6
言語文化系教育	修了	51	24 (1)	0	1	6 (1)	14 (1)	0	2	4 (1)	64.7	49.0
	単位修得満期退学	16	8	0	0	1 (1)	4	0	0	3 (1)	56.3	50.0
	退学	5	0	0	0	1	1	0	1	2 (1)	40.0	0.0
	計	72	32 (1)	0	1	8 (2)	19 (1)	0	3	9 (3)	61.1	45.8
社会系教育	修了	13	7	0	0	1	3 (1)	0	1	1	69.2	53.8
	単位修得満期退学	27	8	0	2	6 (1)	2	0	3	6	70.4	37.0
	退学	3	0	0	0	0	0	0	1	2	33.3	0.0
	計	43	15	0	2	7 (1)	5 (1)	0	5	9	67.4	39.5
自然系教育	修了	43	26	0	2	11 (1)	3	0	1	0	93.0	65.1
	単位修得満期退学	9	2	0	2	3	1	1	0	0	77.8	44.4
	退学	2	0	0	0	1	0	0	0	1	50.0	0.0
	計	54	28	0	4	15 (1)	4	1	1	1	88.9	59.3
芸術系教育	修了	39	21	0	0	4 (1)	8	0	2	4	69.2	53.8
	単位修得満期退学	24	9	1	2	1	3	1	4 (1)	3	70.8	50.0
	退学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	---	---
	計	63	30	1	2	5 (1)	11	1	6 (1)	7	69.8	52.4
健康・スポーツ 系教育	修了	35	30 (3)	2	0	1	1	0	0	1	94.3	91.4
	単位修得満期退学	20	13 (1)	1	0	2	3 (2)	0	1	0	85.0	70.0
	退学	2	0	0	0	0	0	0	1	1	50.0	0.0
	計	57	43 (4)	3	0	3	4 (2)	0	2	2	89.5	80.7
生活・技術系 教育	修了	42	29 (2)	0	1	4	2	0	5 (2)	1	92.9	71.4
	単位修得満期退学	19	7	0	1 (1)	3	2	0	2	4 (1)	68.4	42.1
	退学	4	0	0	1	2	0	0	1	0	100.0	25.0
	計	65	36 (2)	0	3 (1)	9	4	0	8 (2)	5 (1)	86.2	60.0
総計	修了	366	225 (9)	6	13	37 (3)	50 (2)	0	20 (3)	15 (1)	82.2	66.7
	単位修得満期退学	152	61 (1)	5	13 (1)	21 (2)	18 (2)	2	13 (1)	19 (2)	74.3	52.0
	退学	21	2	0	1	5	2	0	4	7 (1)	57.1	14.3
	計	539	288 (10)	11	27 (1)	63 (5)	70 (4)	2	37 (4)	41 (4)	79.0	60.5

1. ()内は令和2年度中に新たに決まった人数で内数。

2. 常勤就職率は、「大学教員」から「小・中・高校教員」までの合計に「その他」を加えた就職者数を「修了・退学者数」で割った数値。

3. 研究職就職率は、「大学教員」から「研究員・教員以外の研究職」までの合計就職者数を「修了・退学者数」で割った数値。

I - (8) 附属学校入学者選抜状況

(令和3年度)

学校名	入学定員		募集人員	入学志願者			受験者(A)			合格者(B)			受験倍率(A/B)			入学者			
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	全体	男	女	計	
幼稚園	小金井	3才	50	男女あわせて50	30	31	61	29	31	60	24	23	47	1.2	1.3	1.3	24	23	47
				障 若干名	2	2	4	1	2	3	1	2	3	1.0	1.0	1.0	1	2	3
	竹早	4才	30	男15 女15	218	179	397	194	165	359	15	15	30	12.9	11.0	12.0	15	15	30
小学校	世田谷	105		応募多 ^が 53 他方を52	650	583	1,233	534	432	966	53	52	105	10.1	8.3	9.2	53	52	105
	小金井	内	105	応募多 ^が 53 他方を52	13	16	29	12	16	28	2	3	5	6.0	5.3	5.6	2	3	5
		外			528	514	1,042	391	371	762	51	49	100	7.7	7.6	7.6	50	47	97
	大泉	90		男女各45	681	715	1,396	681	715	1,396	45	45	90	15.1	15.9	15.5	45	45	90
	竹早	内	70		15	14	29	15	14	29	15	14	29	1.0	1.0	1.0	15	14	29
外		男女各20程度		1,396	1,382	2,778	1,396	1,382	2,778	20	21	41	69.8	65.8	67.8	20	21	41	
中学校	世田谷	内	140		40	46	86	40	46	86	37	44	81	1.1	1.0	1.1	37	44	81
		外		男女あわせて約60	113	115	228	81	84	165	45	35	80	1.8	2.4	2.1	34	24	58
	小金井	内	140	男女あわせて約100	45	44	89	45	44	89	45	44	89	1.0	1.0	1.0	45	44	89
		外		男25 女26	78	74	152	61	56	117	25	26	51	2.4	2.2	2.3	25	26	51
	国際中等教育学校	内	105	45	29	27	56	29	27	56	21	24	45	1.4	1.1	1.2	21	24	45
				約60	143	229	372	127	208	335	12	54	66	10.6	3.9	5.1	12	48	60
		帰	編入	2年 数名	6	7	13	6	7	13	3	3	6	2.0	2.3	2.2	3	3	6
		帰	編入	3年 数名	4	6	10	4	6	10	3	3	6	1.3	2.0	1.7	3	2	5
		帰	編入	4年 数名	5	16	21	2	8	10	0	7	7	/	1.1	1.4	/	3	3
		帰		5年 数名	1	3	4	1	3	4	1	2	3	1.0	1.5	1.3	1	2	3
	帰	編入	6年 数名	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
竹早	内	140		33	30	63	33	30	63	33	30	63	1.0	1.0	1.0	33	30	63	
	外		男約40 女約40	191	163	354	137	132	269	40	43	83	3.4	3.1	3.2	37	40	77	
高等学校	高等学校	内	320	男100程度 女100程度	122	120	242	119	118	237	101	100	201	1.2	1.2	1.2	101	100	201
				男女あわせて106 (男女ほぼ同数)	411	351	762	371	312	683	121	100	221	3.1	3.1	3.1	47	50	97
		留	若干名	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	帰	15	男女あわせて15 (男女ほぼ同数)	39	50	89	27	26	53	18	15	33	1.5	1.7	1.6	9	9	18	
特別支援学校	幼稚部	5	4才児男女あわせて若干名	2	3	5	2	3	5	2	1	3	1.0	3.0	1.7	2	1	3	
			5才児男女あわせて若干名	1	0	1	1	0	1	0	0	0	/	/	/	/	/	/	
	小	3		2	1	3	2	1	3	2	1	3	1.0	1.0	1.0	2	1	3	
			募集なし	0	0	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
	中	6		0	1	1	0	1	1	0	1	1	/	1.0	1.0	/	1	1	
			男女あわせて若干名	7	9	16	7	9	16	2	4	6	3.5	2.3	2.7	1	4	5	
高	8		1	5	6	1	5	6	1	5	6	1.0	1.0	1.0	1	5	6		
		男女あわせて若干名	3	2	5	3	2	5	3	1	4	1.0	2.0	1.3	3	1	4		

I - (9) 教員免許取得状況

(令和3年3月卒業者)

類	選修・専攻	卒業 者数	免許 取得 者数	免許種							一人当たり免許状取得数					平均 取得 数
				小学校	中学校	高校	幼稚園	特別支援	養護	計	1枚	2枚	3枚	4枚	5枚	
A類	国語	84	83	83	69	65	21	1	0	239	10	7	49	17	0	2.9
	社会	71	69	69	55	106	2	0	0	232	14	0	4	49	2	3.4
	数学	70	69	69	59	58	6	2	0	194	7	4	54	3	1	2.8
	理科	92	90	90	69	71	6	1	0	237	18	3	63	6	0	2.6
	音楽	24	24	24	23	23	9	1	0	80	1	0	14	8	1	3.3
	美術	22	22	22	15	20	5	0	0	62	6	2	6	6	2	2.8
	保健体育	39	38	38	24	27	0	0	0	89	11	3	24	0	0	2.3
	家庭	16	16	16	12	12	7	0	0	47	2	3	6	4	1	2.9
	英語	14	14	14	12	12	7	1	0	46	1	1	6	5	1	3.3
	学校教育	23	23	23	5	5	11	3	0	47	6	11	5	1	0	2.0
	学校心理	21	21	21	5	4	10	3	0	43	6	9	5	1	0	2.0
	幼児教育	21	21	18	0	0	21	1	0	40	2	19	0	0	0	1.9
	国際教育	23	23	23	8	9	6	1	0	47	12	4	3	3	※	2.0
	情報教育	22	22	22	13	13	2	0	0	50	9	0	11	2	0	2.3
	環境教育	19	19	19	14	20	5	0	0	58	2	3	6	8	0	3.1
ものづくり技術	13	12	12	7	7	9	0	0	35	2	3	1	6	0	2.9	
B類	国語	20	19	1	20	19	1	0	0	41	0	16	3	0	0	2.2
	社会	30	30	0	30	54	0	0	0	84	0	6	24	0	0	2.8
	数学	26	26	0	26	26	0	0	0	52	0	26	0	0	0	2.0
	理科	44	42	9	43	43	3	0	0	98	0	32	6	4	0	2.3
	音楽	21	21	5	21	21	0	0	0	47	0	16	5	0	0	2.2
	美術	19	19	2	18	32	0	0	0	52	2	3	12	2	0	2.7
	保健体育	24	24	10	24	24	0	0	0	58	0	14	10	0	0	2.4
	家庭	9	9	2	10	10	0	0	0	22	0	7	1	0	1	2.4
	技術	11	10	1	11	11	0	0	0	23	0	8	1	1	0	2.3
	英語	17	17	3	17	17	1	1	0	39	0	13	3	1	0	2.3
	書道	19	19	4	20	38	0	0	0	62	0	1	13	4	1	3.3
C類	特別支援教育	45	44	44	10	9	26	44	0	133	0	14	21	3	6	3.0
D類	養護教育	11	10	0	7	7	0	0	10	24	3	0	7	0	0	2.4
教育系・学校教育系/計		870	856	644	647	763	158	59	10	2,281	114	228	363	134	17	2.7

E類	生涯学習	35	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	カウンセリング	24	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	ソーシャルワーク	21	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	多文化共生教育 多言語多文化サブコース	33	18	0	17	18	0	0	0	35	1	17	0	0	0	1.9
	多文化共生教育 地域研究サブコース	10	2	0	2	3	0	0	0	5	0	1	1	0	0	2.5
	情報教育	16	6	0	0	6	0	0	0	6	6	0	0	0	0	1.0
	表現教育	25	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	生涯スポーツ	39	31	0	20	31	0	0	0	51	11	20	0	0	0	1.6
F類	環境教育専攻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
教養系・教育支援系/計		204	57	0	39	58	0	0	0	97	18	38	1	0	0	1.7

総計	1,074	913	644	686	821	158	59	10	2,378	132	266	364	134	17	2.6
----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	-------	-----	-----	-----	-----	----	-----

免許取得者数等は一括申請分(大学で卒業年次の学生の免許申請をとりまとめ、東京都教育委員会へ申請したもの)のみ。

※A類国際教育は、6枚取得者が1人。

I - (10) 諸資格取得者数

区分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和2年度の内訳	
										教育系・学校教育系	教養系・教育支援系
司書教諭	225	146	125	165	118	84	122	150	138	133	5
司書	53	29	39	24	27	27	18	29	40	11	29
社会教育主事	54	36	36	34	38	42	36	34	29	0	29
学芸員	45	43	30	28	32	32	26	35	31	10	21
社会福祉士 (受験資格)	13	13	13	15	18	20	16	19	17	0	17
スクールソーシャルワーカー		2	3	5	2	2	3	6	9	0	9
保育士 (幼児教育選修のみ)	22	20	22	25	21	22	21	19	21	21	

学部学生のみ数。

I - (11) 附属学校の教育実習生受入状況

(令和2年度)

学校名	教員数	学級数	園児・児童・ 生徒数	教育実習生配当数					
				必修前半	必修後半	必修合計	選択	教養系	計
幼稚園小金井園舎	8	6	138	11	8	19			19
幼稚園竹早園舎	3	2	60	0	2	2			2
世田谷小学校	27	18	617	86	73	159	10		169
小金井小学校	27	18	623	83	80	163	10		173
大泉小学校	30	22 <4>	582 (20)	82	78	160	10		170
竹早小学校	19	12	406	57	50	107	8		115
世田谷中学校	23	12	420	60		60	61		121
小金井中学校	22	12	420	56		56	61		117
竹早中学校	23	12	431	57		57	60		117
高等学校	56	24	986 (34)	77		77	125		202
国際中等教育学校	52	24	730 (34)	74		74	109		183
特別支援学校	33	11	67	28		28	18		46
計	323	173 <4>	5,480 (88)			962	472	0	1,434

< >内は、帰国児童学級の数で内数。()内は、海外帰国児童・生徒の数で内数。

I - (12) FD研修会

(令和2年度)

NO	日時	場所	研修会名	担当部局
1	9月16日(水) 13:00~14:20	オンライン	東京学芸大学FD研修会(第1回) 『本学における遠隔授業について』	PD推進本部
2	12月11日(金) 18:00~20:00	オンライン	東第39回東京学芸大学教育実習研究シンポジウム	次世代教育 研究センター
3	1月18日(月) ~2月12日 (金)	オンライン (オンデマ ンド方式)	東京学芸大学FD研修会(第2回) 『遠隔授業を実施する先生のための著作権入門』	PD推進本部

I - (13) 単位互換制度

①多摩地区国立5大学単位互換に伴う派遣・受入学生数(学部)

年 度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数	人数	科目数
一橋大学	派遣	2	4	1	1	6	9	4	7
	受入	1	1	0	0	1	2	—	—
東京外国語大学	派遣	1	1	4	8	5	7	—	—
	受入	1	2	0	0	0	0	—	—
電気通信大学	派遣	0	0	0	0	0	0	—	—
	受入	1	1	0	0	1	1	—	—
東京農工大学	派遣	0	0	2	3	3	6	1	5
	受入	2	5	0	0	0	0	—	—
計	派遣	3	5	7	12	14	22	5	12
	受入	5	9	0	0	2	3	—	—

「多摩地区国立5大学単位互換に関する協定書」及び「多摩地区国立5大学単位互換に関する実施要項」に基づく単位互換。
令和2年度「—」は、新型コロナウイルス感染拡大防止にともない中止。

②多摩地区国立大学大学院単位互換に伴う派遣・受入学生数(大学院)

年 度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目	人数	科目	人数	科目	人数	科目
東京外国語大学	派遣	3	5	4	4	1	1	0	0
	受入	2	2	0	0	0	0	0	0
電気通信大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	1	1	0	0	0	0
東京農工大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	1	1	0	0	0	0	0	0
計	派遣	3	5	4	4	1	1	0	0
	受入	3	3	1	1	0	0	0	0

「多摩地区国立5大学単位互換に関する協定書」及び「多摩地区国立大学大学院単位互換に関する実施要項」に基づく単位互換。

③その他の単位互換(大学院)

年 度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度	
協定校	派遣・受入	人数	科目	人数	科目	人数	科目	人数	科目
東京女子大学	派遣	1	2	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0
日本女子大学	派遣	0	0	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0
計	派遣	1	2	0	0	0	0	0	0
	受入	0	0	0	0	0	0	0	0

東京女子大学及び日本女子大学とは、それぞれに単位互換の協定を締結している。
東京女子大学は、同大学院人間科学研究科人間文化科学専攻日本文学文化分野及び現代日本語・日本語教育分野と本学大学院教育学研究科国語教育専攻との単位互換である。

I - (14) 学生支援

①教職特待生

年度	29年度		30年度		31年度	
区分	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数
学部	24	11	10	7	12	6

※特待生は更新ありません。(令和2年度・3年度は募集停止)

②むさしの奨学金

年度	30年度		31年度		R2年度	
区分	緊急支援	学資支援	緊急支援	学資支援	緊急支援	学資支援
学部	6	56	3	49	0	10
修士課程	0	12	1	6	0	6
教職大学院	0	0	0	5	0	1
特別専攻科	0	0	0	0	0	0

③-1日本学生支援機構奨学金

年度	30年度				31年度				R2年度			
区分	申請者数	1種	2種	併用	申請者数	1種	2種	併用	申請者数	1種	2種	併用
学部	314	129	141	34	264	112	113	32	306	128	112	56
修士課程	66	52	10	2	21	16	3	2	20	16	0	3
教職大学院	4	2	2	0	34	24	6	2	37	31	4	2
博士課程	6	6	0	0	7	6	1	0	9	6	3	0
特別専攻科	3	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0

予約採用者も申請者数と各採用者数に含む。
併用は重複カウントせず1名と数える。

③-2日本学生支援機構奨学金(給付型)

年度	R2年度	
区分	申請者数	採用者数
学部	649	372

※国の高等教育の修学支援新制度により令和2年度より実施

④入学料免除及び徴収猶予

年度	30年度			31年度			R2年度					
区分	申請者数	全額	半額	申請者数	全額	半額	申請者数	全額	2/3	半額	1/3	
入学料免除	学部	2 (2)	2 (2)	0	5 (5)	2 (2)	0	100	35	26	0	17
	修士課程	57 (3)	4	17 (1)	31	3	8	22	1	4		
	教職大学院	0	0	0	21 (1)	4 (1)	4	31 (1)	4	9		
	博士課程	6	1	1	5	1	1	6	1	2		
	特別専攻科	1	0	1	1	0	0	0	0	0		
徴収猶予	学部	15	14		9	6		5	5			
	修士課程	1	0		2	2		0	0			
	教職大学院	0	0		0	0		0	0			
	博士課程	0	0		0	0		0	0			
	特別専攻科	0	0		0	0		0	0			

学部学生の入学料免除は、R2年度から実施された、国の高等教育の修学支援新制度による免除分を含む。

教職特待生の免除分は含まない。()は被災学生に係る免除枠で内数。

⑤授業料免除

年度	30年度				31年度				R2年度					
区分	申請者数	全額	半額	不許可	申請者数	全額	半額	不許可	申請者数	全額	2/3	半額	1/3	不許可
学部	972 (28)	585 (16)	201 (8)	186 (4)	981 (29)	503 (14)	296 (10)	182 (5)	991 (9)【11】	549 (4)【5】	102	116 (2)【2】	66	158 (3)【4】
修士課程	323 (5)	187 (2)	64	72 (3)	242 (7)	115 (4)	95	32 (3)	151 (1)【14】	93 (1)【4】		34 【5】		24 【5】
教職大学院	9	6	2	1	50 (2)	21 (2)	12	17	106 (3)【2】	64 (2)【1】		15		27 (1)【1】
博士課程	82 (2)	42 (2)	27	13	69 (2)	29 (2)	23	17	62 【2】	34 【2】		16		12
特別専攻科	2	2	0	0	3	0	2	1	1	0		0		1

学部学生の授業料免除は、R2年度から実施された、国の高等教育の修学支援新制度による免除分を含む。

教職特待生の免除分は含まない。卓越した学生に対する免除分を含む。

()は被災学生に係る免除枠で内数。

【 】は新型コロナウイルスによる家計急変世帯学生に係る免除枠で内数。

⑥-1 保健管理センターの利用状況

年度	30年度	31年度	令和2年度
保健管理センター	2,947	2,656	1,529

診察・相談・処置等の延べ人数で、定期健康診断・教職員の利用を除く。

⑥-2 保健管理センター月別利用状況(令和2年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	10	17	37	59	69	171	294	434	87	111	126	114

診察・相談・処置等の延べ人数で、定期健康診断・教職員の利用を除く。

⑦-1 学生相談室の利用状況

年度	30年度	31年度	R2年度
学生相談室	1,699 (265)	1,750 (263)	1,069 (144)

延べ人数。()は実人数。

⑦-2 学生相談室月別利用状況(令和2年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	30	34	63	84	71	57	119	110	131	117	107	146

延べ人数。

⑧-1 障がい学生支援室の利用状況

年度	R1年度	R2年度
障がい学生支援室	875	1,747

相談・対応のべ人数。(学生サポーターとの連絡・調整は含まず)

⑧-2 障がい学生支援室月別利用状況(令和2年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	191	422	144	124	71	62	170	114	128	116	123	82

相談・対応のべ人数。(学生サポーターとの連絡・調整は含まず)

⑧-3 学生サポーターの説明会およびサポート講習会の開催

年度	R2年度
障がい学生支援室	24回

【R2年度新型コロナウイルス感染症に係る経済支援】

⑨-1 東京学芸大学 緊急貸与奨学金

学部	22
修士課程	3
教職大学院	5
特別専攻科	0
合計	30

※困窮学生へ10万円を貸与

⑨-2 東京学芸大学 緊急給付奨学金

学部	86
修士課程	5
教職大学院	5
博士課程	0
特別専攻科	1
合計	97

※困窮学生へ10万円を給付

⑨-3 文部科学省 学生支援緊急給付金給付事業(「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』)

年度	R2年度	
	申請者数	採用者数
学部	591	591
修士・教職	131	131
博士	33	33
特別専攻科	7	7

※困窮学生へ10万円を給付(非課税世帯は20万円)

⑨-4 日本学生支援機構 新型コロナウイルス感染症対策助成事業

学生寮学生	295
教職特待生	23
合計	318

※学生寮学生および教職特待生への食事支援(学生食堂利用補助)

I - (15) キャリア支援

キャリア支援行事

	行事名	対象
キャリア支援 ガイダンス等 セミナー	3年生キャリア支援セミナー	学部3年生(教員就職志望者) 学部3年生(企業・公務員就職志望者)
	4年生キャリア支援セミナー	学部4年生(教員就職志望者) 新学部4年生(学部3年生)(企業就職志望者)
	教育支援ボランティア・学校インターンシップ説明会	学年等不問
	企業・官公庁等インターンシップガイダンス	2年生以上が望ましい
	職務適性検査	学年等不問(3年生以外)
教員関係説明会	東京都教員採用試験説明会(春季)	学部3年生以上
	横浜市教員採用試験説明会(春季)	学年等不問
	かながわティーチャーズカレッジ説明会	〃
	さいたま市教員採用試験説明会(春季)	〃
	神奈川県教員採用試験説明会(春季)	〃
	相模原市教員採用試験説明会(春季)	〃
	特別区幼稚園教諭採用説明会	〃
	全国教育委員会教員採用試験説明会	〃
	大阪府教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
	相模原市教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
	岡山市教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
	千葉県・千葉市教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
	香川県教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
	神奈川県教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
	さいたま市教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
	埼玉県教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃
山形県教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃	
東京都教員採用試験説明会(秋・冬季)	〃	
東京教師養成塾	東京教師養成塾説明会	学部3年生以下, 大学院1年生
埼玉教員養成セミナー	埼玉教員養成セミナー説明会	〃
教採対策講座等	論文の書き方講座	学年等不問(特にR2年度実施教採受験予定者)
	教員採用試験対策講座	R2年度実施教採受験予定者
	面接試験特別講座	東京都教員採用試験1次合格者
	教員採用試験対策説明会	学年等不問(特にR3年度実施教採受験予定者)
	教員採用一次試験対策学内模試	R3年度実施教採受験予定者
	人物試験対策講座	学年等不問(特にR3年度実施教採受験予定者)
	教採1次試験対策WEB講座(教職教養・面接)	学年等不問
教師力養成特別講座	第28回 教師力養成特別講座(有料・全15回)	R2年度実施教採受験予定者
	第29回 教師力養成特別講座(有料・全12回)	R3年度実施教採受験予定者
辟雍会共催事業	近県学校等訪問事業(埼玉県・東京都・神奈川県)	学年等不問
企業・公務員就職対策講座	企業・公務員就職対策講座 「エントリーシート対策～インターンシップも意識して～」	学年等不問
	企業・公務員就職対策講座 「就職活動準備講座」(職務適性テスト結果解説付き)	〃
	企業・公務員就職対策講座「就活に備える自己分析・自己PRの仕方」	〃
	企業・公務員就職対策講座「夏休みから始めよう! 業界・企業研究」	〃
	企業・公務員就職対策講座「就活本番スタートアップ講座」	〃
	企業・公務員就職対策講座(動画) 「元人事部採用責任者が説き明かす一面接突破への秘策(準備を含む)を伝授!!」	〃
	企業・公務員就職対策講座「自己分析ステップアップ講座」	〃
	企業・公務員就職対策講座「業界研究ステップアップ講座」	〃
	企業・公務員就職対策講座「業界研究～実践編(学内業界説明会)」	〃
	企業・公務員就職対策講座「内定者に質問・相談してみよう」	〃
	企業・公務員就職対策講座「エントリーシート対策」	〃
	企業・公務員就職対策講座「グループディスカッション対策」	〃
	企業・公務員就職対策講座「面接対策～基礎編」	〃
	企業・公務員就職対策講座「面接対策～実践編」	〃
	企業・公務員就職対策講座「3.1解禁 企業エントリー直前対策」	〃
公務員説明会等	企業・公務員就職対策講座「公務員就職ガイダンス」	学年等不問
	企業・公務員就職対策講座「公務員試験対策勉強法」	〃
	国家公務員採用試験制度説明会	〃
	東京都職員採用試験説明会	〃
	特別区職員採用試験説明会	〃
合同説明会等	「企業・官公庁」合同学内説明会	学年等不問
面接指導	(企業公務員)面接特別指導※主に個人面接 1回上限5名×1日4回×合計3日間	学年等不問
	(企業公務員)面接特別指導※主に集団面接 1回上限6名×1日4回×合計4日間	学年等不問
コロナ禍限定特別講座	【生配信】進路相談会	学年等不問
	【生配信】進路相談会	〃
	【生配信】進路相談会	〃
	【生配信】進路相談会	〃
	MATCHplus受検を基に自己分析・自己PR作成講座	〃
	WEB説明会・面接対策講座	学年等不問

Ⅱ. 研究活動

Ⅱ－(1) 文部科学省機能強化経費事業

(令和2年度)

研究題目
① 外国人留学生の受入れによるグローバルキャンパス構築と世界に通用する人材育成に資するグローバル人材の養成 -TGU International Student Step Up Program-
② 特別支援教育に関わる大学発信型現職教員研修システムの開発
③ 「子どもの貧困」支援及び教員・教育支援者養成システムに関するコンソーシアム型研究開発
④ 次世代型コンピテンシー育成のための教育方法開発とその国内外への発信 — 新学習指導要領への対応とOECD・Education2030事業の枠組に基づくカリキュラム内容の提案を中心に —

※平成27年度までは特別経費であったが、平成28年度以降機能強化経費に名称変更。

Ⅱ－（２）文部科学省等受託研究

区分	委託機関名(契約締結時の名称)	事業名	事業期間
文部科学省	総合教育政策局	令和2年度学校図書館の振興に向けた調査研究	R2.5.20 ~ R3.3.25
	大臣官房	諸外国の支援実践とMIMの比較から追求するインクルーシブ教育	R2.8.11 ~ R3.3.31
	初等中等教育局	令和2年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業 「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」 (発達障害の可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業)	R2.4.1 ~ R3.3.31
	初等中等教育局	幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究(幼児教育における学校評価に関する調査研究)	R2.8.5 ~ R3.3.31
	国立教育政策研究所	教育課程研究指定校事業	R2.6.30 ~ R3.3.20
	スポーツ庁	令和2年度武道等指導充実・資質向上支援事業	R2.12.3 ~ R3.3.10
地方公共団体	調布市教育委員会	不登校支援事業業務委託(SWITCHプロジェクト)	R2.4.1 ~ R3.3.31
	東京都教育委員会	令和2年度 地域交流拠点(コミュニティハウス)の運営効果に関する調査研究事業	R2.7.22 ~ R3.3.31
独立行政法人等	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所	発達障害児の聞き取りの困難さの要因を探る実証研究	R2.4.1 ~ R3.2.28
	国立研究開発法人 科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業 (投影型CT用マルチビーム光学系の開発)	H29.10.1 ~ R4.3.31
	国立大学法人千葉大学	メタン発生量評価のための南アジア域メタン濃度連続観測	H30.4.1 ~ R3.3.31
	国立大学法人東京大学 国立大学法人北海道大学 国立研究開発法人海洋研究開発機構	上部対流圏および成層圏循環と日本周辺域の異常天候との関連についての解析	H31.4.1 ~ R3.3.31
	国立大学法人九州大学	聴覚障害者の社会参加を促進するための手法に関する研究 (セルフアドボカシー指導の実践と効果の検証)	R2.4.1 ~ R3.3.31

Ⅱ－（３）文部科学省等補助金事業

区分	委託機関名 (契約締結時の名称)	事業名	事業期間
（主に研究活動） 文部科学省	高等教育局	令和2年度国際化拠点整備事業費補助金(大学の世界展開力強化事業) 東アジア教員養成国際大学院プログラム(キャンパス・アジア)	R2.4.1 ~ R3.3.31
	高等教育局	令和2年度大学改革推進等補助金(デジタル活用教育高度化事業)	R3.3.29 ~ R4.3.31
	高等教育局	令和2年度年度研究拠点形成費等補助金(Society5.0に対応した高度技術人材育成事業)成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT)	R2.4.1 ~ R3.3.31
（主に大学運営） 文部科学省	高等教育局	令和2年度国立大学法人情報機器整備費補助金(大学等における遠隔授業の環境構築の加速による学修機会の確保)	R2.4.1 ~ R3.3.31
	高等教育局	令和2事業年度授業料等減免費交付金	R2.4.1 ~ R3.3.31
	総合教育政策局	令和2年度学校保健特別対策事業費補助金(感染症対策のためのマスク等購入支援事業)	R2.4.1 ~ R3.3.31
	総合教育政策局	令和2年度学校保健特別対策事業費補助金(学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業)	R2.4.1 ~ R3.3.31
	総合教育政策局	令和2年度学校保健特別対策事業費補助金(感染症対策等の学校教育活動継続支援事業)	R2.12.15 ~ R3.3.31
	総合教育政策局	令和元年度国立大学法人先端研究等施設整備費補助金「GIGAスクール構想の実現(校内通信ネットワーク設備)」	R2.4.1 ~ R3.3.31
	総合教育政策局	令和元年度国立大学法人情報機器整備費補助金「GIGAスクール構想の実現(PC等の整備)」	R2.4.1 ~ R3.3.31
	総合教育政策局	令和2年度国立大学法人情報機器整備費補助金「GIGAスクール構想の加速による学びの保障(家庭学習のための通信機器整備・学校からの遠隔学習機能の強化のための設備整備・GIGAスクールサポート配置)」	R2.4.1 ~ R3.3.31
総合教育政策局	令和2年度教育支援対策整備事業費交付金(国立大学附属幼稚園緊急環境整備事業)	R3.1.1 ~ R3.3.31	

Ⅱ－（４）科学研究費助成事業

①新規採択研究課題

（令和2年度）

	研究種目	研究課題名
総合教育 科学系	基盤研究(C)	総合的な学習の時間の電子ルーブリックを用いた資質・能力の評価法に関する基礎研究
	基盤研究(C)	幼児の音楽的モチベーションを高める表現遊び指導法の開発
	基盤研究(C)	手話活用児童の英語の音韻形成と英単語書字に関する研究
	基盤研究(C)	持続的な対人葛藤をもたらすプロセスの解明：被害的認知に着目して
	基盤研究(C)	再評価の多様性に着目した感情コントロールのための教材開発
	基盤研究(C)	知的障害児・者の「不器用」に対する包括的評価システムの開発
	基盤研究(C)	がん教育に向けた学校図書館・病院患者図書館による保健体育支援モデルの構築
	研究活動スタート支援	領域知識によるワーキングメモリ能力の補償—文章読解におけるその要因とメカニズム
人文社会 科学系	研究活動スタート支援	聴覚障害児の書いた文章の評価における読み手の情報処理に関する研究
	基盤研究(C)	The Everyday Aesthetics of American Cute and Japanese Kawaii: Historical Development and Contemporary Expressions
	基盤研究(C)	共生社会に向けた「社会とつながる教育評価」の構築—つながりによることばの力の承認
	基盤研究(C)	地球市民を育てる小学校外国語教育のための教師教育プログラムの構築と普及
	基盤研究(C)	困難さを伴う「死別」経験に対する物語論的アプローチを用いた実践的研究
	基盤研究(C)	国際バカロレア「言語A」概念理解における読解力育成の効果測定と実践開発研究
	基盤研究(C)	経済的に困難な地域にある公立小学校でのスタートプログラムの作成
	基盤研究(C)	立憲主義的法教育「法理学アプローチ」の実用化に向けた単元・授業開発研究
	基盤研究(C)	社会科における公正な社会的判断力の育成に関する実証的比較研究
	若手研究	唐宋における楽府及び小説の継承と展開に関する物語の場と視点についての研究
	研究活動スタート支援	日本近世の武家社会における儒学的教養の形成と闇齋学
自然科学系	研究活動スタート支援	グローバルシティズンシップ教育の多元主義的理念の解明—カント教育学を手がかりに—
	基盤研究(B)	走化性方程式系における爆発現象の構造的な研究
	基盤研究(C)	探究的学習のためのスマートフォンの活用法の開発と提案
	基盤研究(C)	低速陽電子によるブラックチタニアの研究
	基盤研究(C)	フラレンの多重開口反応による湾曲ナノカーボン分子のトップダウン合成
	基盤研究(C)	多様な繁殖段階で生じる形質置換の進化過程の解明
	基盤研究(C)	貢献・成長を把握可能にするGitHubを核としたソフトウェア開発PBL環境の開発
	若手研究	超高密度セリウム系金属ガラスの開発
芸術・スポー ツ 科学系	基盤研究(C)	フリースクールにおけるスポーツ活動の実態とガイドライン作成に関わる社会学的研究
	基盤研究(C)	ナチス党員であった体育・スポーツ関係者の戦後—オーストリアの事例から—
	若手研究	終末局面から教える器械運動
	国際共同研究強化(B)	アートベース・ペダゴジーの教員養成プログラム開発とリサーチハブ構築による社会実装
教職大学院	国際共同研究強化(B)	Virtual Schoolにおける体育カリキュラム開発に関する実証的研究
	基盤研究(B)	社会的実践を志向する学習領域「数理科学」の構築に関する総合的研究
	基盤研究(C)	自閉スペクトラム症児者の認知特性と言語コミュニケーションにおける選好性
センター等	基盤研究(C)	運動遊びと動きに対する保育者および小学校教諭の認識の違いはあるのか
	基盤研究(C)	義務教育段階の理科／科学教育における「価値選択的課題」の実証的国際比較研究
	基盤研究(C)	教育ビッグデータを活用して公正に個別最適化された学びを支援する知的システムの開発
	若手研究	絶滅危惧種イトウの産卵場の再生と評価—生態学・市民科学的手法による保全策の実践—
附属学校	基盤研究(C)	3・11被災校における教育実践記録の収集と分析
	奨励研究	スピーキングを通じたCAFの変容から見るindividual differencesの実態調査
	奨励研究	中学生による「英語狂言」の有効性
	奨励研究	児童の理科におけるメタ認知—学習評価等に生きるメタ認知的知識の実態—
	奨励研究	証明指導の改善に関する研究—方針を立てることや読むことを通して—

○名誉教授

* 転入者

☆ 研究員

「研究成果公開促進費」「特別研究員奨励費」は含まない。

本学で「交付決定通知」を受けた研究課題の他、令和2年度中の他大学等からの転入者分を含む。転出者は含まない。

学内異動により「連合学校教育学研究科」専任教員となった者は、異動前の所属に記載している。

戦略的配置教員はセンター等に記載している。

交付決定額には研究期間全体(複数年度)の額を含む。

②採択件数

	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数	新規 応募 件数	新規 採択 件数	継続 件数
総合教育科学系	18	10	25	21	13	24	22	6	29	34	12	31
人文社会科学系	30	11	18	31	12	22	23	4	25	27	12	18
自然科学系	40	12	38	47	9	33	53	14	22	39	8	21
芸術・スポーツ科学系	15	6	9	18	7	10	7	3	15	7	5	9
センター等	20	11	17	20	14	14	15	9	22	12	5	20
附属学校等	16	4		14	2		22	4		20	4	
計	139	54	107	151	57	103	142	40	113	139	46	99

上記の件数に「研究成果公開促進費」「特別研究員奨励費」は含まない。

新規採択件数は本学で「交付内定通知」を受けた分に限り(4月1日付の他大学等への転出者分を含み、4月1日付の転入者分は含まない)。

補助事業期間延長承認を受けた研究課題は含まない。

学内異動により「連合学校教育学研究科」専任教員となった者は、異動前の所属に算入している。

戦略的配置教員はセンター等に算入している。

附属学校等については「奨励研究」の件数を記載している。

継続件数は転出入を考慮した数(転出者を除き、転入者を含む)。

Ⅱ－（５）産学連携研究

（令和2年度）

	題 目	契約相手方
共 同 研 究	1 学校行事における効果測定	株式会社JTB
	2 子どものSOSをインターネットで拾うことの有効性について	株式会社マモル
	3 総合的な学習の時間と特別活動における映像利用のアクティブラーニング共同研究	株式会社 新宿スタジオ
	4 小学校現場でのプログラミング教育の調査研究	株式会社日本教育新聞社
	5 学校プリンター活用実践研究	エプソン販売株式会社
	6 学校情報システムによる学校経営支援に関する研究	日本ユニシス株式会社
	7 新学習指導要領に対応した教材開発	株式会社教育同人社
	8 クラウド技術を活用した生徒一人一台PC環境における学習支援システムの研究	チエル株式会社
	9 ICT教材を活用した「主体的・対話的で深い学び」に関する研究	ブリタニカジャパン株式会社
	10 学習意欲の向上と継続に対する、劇やICT教材などを活用した教材パッケージの開発と効果検証	ファンファンラーニング株式会社 ミントフラッグ株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	11 超小型テラヘルツ探査機の開発	国立研究開発法人情報通信研究機構
	12 低GWP冷媒の反応および抑制要因に関する研究	パナソニック株式会社アプライアンス社
	13 算数・数学教育における自己向上機能を備えた授業研究推進者の育成プログラム開発研究	Lesson Study Alliance
	14 リラクサー強誘電体のドメイン形成に関する研究	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
	15 機械刺激の感受と応答に関与する変異体の選抜と原因遺伝子の単離に関する研究	理化学研究所
	16 子どもの遊びと子育て支援に関する産学連携研究	株式会社おもちゃ王国
	17 玩具のアフォーダンスに着目した積み木遊びに関する研究	株式会社バンダイ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	18 音声玩具を用いた子どもの学びと親子の遊びやコミュニケーションに関する研究	株式会社博報堂 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	19 VRを活用した教育プログラムの実践検証	株式会社NHKエデュケーショナル
	20 ワークーションにおける教育に関わる課題解決	株式会社日本能率協会マネジメントセンター 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	21 アスリートのランニングフォームに関する研究	日本郵政株式会社
	22 森永リトルエンゼル育成事業(社会貢献事業)における教育的効果の研究2019	森永乳業株式会社 森永製菓株式会社
	23 公園がもつ教育的意義に関する調査研究	公益財団法人東京都公園協会 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	24 学校教員を主な対象とする外部と連携した業務活動支援に関する研究	ジブラルタ生命保険株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	25 身近なアウトドア体験に対する学びの効果	カシオ計算機株式会社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	26 クリエイティブな人材に関する評価及び発生・育成に関する研究	株式会社FIREBUG 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	27 新しい学校外教育のモデル(環境、教育支援人材、学校教育と連動した学習カリキュラム)開発	株式会社パソナフォスター 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構

(令和2年度)

	題 目	契約相手方
共同研究	28 放課後活動における活動の質的向上に寄与するための教材開発	株式会社朝日新聞社 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	29 AIに関する教員向け、大学生向けカリキュラムの共同研究	株式会社エクサウィザーズ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	30 競泳選手の発育発達段階に応じた泳ぎの変化	野村不動産ライフ&スポーツ株式会社
	31 全国で実施できる発達障害児を対象とした水泳教室の仕組みづくり	Swimmy株式会社
	32 最先端のSTEAM教育を取り入れた学校教育・地域教育・家庭教育支援方法の実践研究	特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所 株式会社ヴィットハート 株式会社おもちゃ王国
	33 天候観測に関わる技術を活用したSTEM教育プログラムの研究開発	株式会社ウェザーニューズ 特定非営利活動法人東京学芸大こども未来研究所
	34 トライボ化学反応を誘発するロールプレス加工法の開発	地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
	35 東京都公立小中学校におけるICT利活用モデル検証	NTTラーニングシステムズ株式会社
	36 小学校におけるGIGAスクール構想に基づいた1人1台環境の効果検証	NTTラーニングシステムズ株式会社
	37 学習要素のラベリングに関する研究	大日本印刷株式会社
	38 学習記録データを活用した授業デザインの研究	大日本印刷株式会社
	39 教員志望の鍵盤初学者への演奏指導に関する研究	ヤマハ株式会社
	40 STEAM教育における学習内容・目標マップと指導者の資質・能力マップの開発	アルー株式会社
	41 拡張型学習と学生のキャリア形成	株式会社ノヴィータ 一般社団法人東京学芸大Explayground推進機構
	42 保育園におけるSTEAM教育の実践的な研究	株式会社ニチイ学館 立正大学
	43 魚類硬組織における元素分布・局在に関する研究	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
	44 水環境における環境遺伝子計測技術の確立	株式会社日立製作所
	45 養殖及び食材対象としてのチョウザメ普及啓発に関する研究	株式会社フジキン
	46 教育・学習クラウドを活用した、ラーニングアナリティクスのための学習記録・履歴データの蓄積のあり方および利活用の研究	Dynabook株式会社
	47 初等中等教育におけるe-ポートフォリオを用いた学習・評価の共同研究	株式会社ベネッセコーポレーション Classi株式会社
	48 旅行行事におけるe-ポートフォリオを用いた学習活動の共同研究	株式会社JTB
	49 大学教育向け次世代eラーニングシステムの開発	日本データパシフィック株式会社
	50 学習記録データの収集・分析システムに関する研究	大日本印刷株式会社
	51 学習者用端末での利用を想定したデジタル教材の開発研究	大日本図書株式会社
	52 低学年及び特別な配慮が必要な児童に対する学習者用デジタル教科書・教材の実践研究	光村図書出版株式会社
	53 小学校における実証実験を通じた新聞作成システムの開発	東京ソフトウェア株式会社
	54 究極的自己形成学の理論と方法にもとづく、教員の授業力向上についての実証的研究	生涯学習セルフ・カウンセリング学会

寄附講義等	題 目	契約相手方
	みずほフィナンシャルグループ寄附講義	株式会社みずほフィナンシャルグループ

Ⅱ－（６）特別開発研究プロジェクト

研究題目	期間
① WizeFloorを活用したインクルーシブ授業開発研究	2～3
② 非言語教材を用いた国語教育を活性化するための実践的研究—アダプテーション教育の構築に向けて	2～3
③ 知的障害特別支援学校高等部における理科の授業パッケージの開発	2～3
④ 教育支援を視点とした「ゆるスポーツ DeCö」の開発及び利活用に関する研究	2～3
⑤ グローバルな教員養成を目指したバーチャル交換留学プログラムの開発	2～3
⑥ 教育実習における教育実習生の学校保健・学校安全への意識向上のための教育プログラムの開発	2～3
⑦ 1人1台タブレット端末環境による対話可視化AIシステムを活用した生徒のメタ認知・対話を支援するSTEAM教育の研究	2
⑧ ドローンを用いた新たな野外地質実習プログラムの開発	2～3
⑨ 教育実習における経験学習デザインの構築～実習生および教師 教育者・現場コーチの変容～	2～3
⑩ 深い学びの実現を目指した小学校家庭科における授業開発～住生活をよりよくしようと工夫する資 質・能力を育むための清掃学習～	元～2
⑪ 書写・書道の有為な教員養成のための実践的研究プロジェクト—教職大学院の教職専門実習との連関 を図り、教育実習において実践力を高めるカリキュラムの構築—	元～2
⑫ 体育授業における動きのリアルタイムフィードバックは学力の三要素を高めるか？ ：水泳授業を題材とした検討	元～2
⑬ 大学で附属学校の教員が学生に支援する、基礎実習における実験授業の検討と指導	元～2
⑭ 在外教育施設（日本人学校小学部）における教育実習プログラムの開発研究	元～2
⑮ 公立学校等に還元できる“生徒の学びと評価・成果をシームレスにつなぐ「学びのポートフォリオ」” プロジェクト	元～2
⑯ AIを活用したインクルーシブ教育の研究～コミュニケーションに困難を抱えた児童への支援を中心に ～	元～2
⑰ 公立学校等に還元できる“理科と国語科が教科横断的に協同して育む実践的な探究する力”プロジェ クト	元～2

Ⅱ－（７）センターの研究活動

（令和2年度）

		事業等名称	リモート開催等の状況	
環境教育研究センター	研究プロジェクト	水辺の学びデザインプロジェクトWaSIT		
		教材植物園の利用活用調査		
		教材植物園における生物資源のデータベース化		
		地域連携の環境教育実践に関する調査研究		
		環境のための地球学習観測プログラム(グローブ)観測マニュアルの検証整備		
		生物文化多様性の保全に関する調査研究		
		農山村の食環境改善に関する調査研究		
		河川堤防における草原性植物の保全再生に関する調査研究		
		記録映像を活用した河川環境の視覚化と教材化に関する方法論的研究		
		水環境における環境遺伝子計測技術の確立		
		養殖および食材対象としてのチョウザメ普及啓発に関する研究		
		「全国河川教育大学間ネットワーク」事業における河川教育推進業務		
	公開研究会等	第12回小金井・国分寺・小平「環境教育実践フォーラム」 地域連携にもとづく教材植物園の利用	リモートで開催	
特別支援教育・教育臨床サポート	研究プロジェクト	「特別支援教育に関わる大学発信型現職教員研修システムの開発」プロジェクト<重点支援②令和元年度教育研究活動(取組)戦略名:現職教員に対する次世代育成教育の研修		
		ダウン症児の認知機能評価スケールと学習支援マニュアルの開発		
		野外教育活動および学校コンサルテーションによる学校不応答への総合的支援の一試行	今年度はコロナのため中止	
		対応困難な保護者とのトラブル事例分析と紛争化の防止及び解決支援に関する学際研究		
		熊本大震災に伴う被災地の子どもへのケアに関わる総合的な支援の開発研究	今年度はコロナのため中止	
		教育の現代的課題に関わる研修支援事業	今年度はコロナのため対面事業は中止し、コロナ下の教育課程編成についての提言を公表する事業を行った	
		特別支援教育の教育実習に関する調査研究(7大学協同:学芸大・千葉大・群馬大・福岡教大・大阪教大・順天堂大・農工大)		
		不登校と発達障害に関する実態把握と支援プログラムの開発		
		通級指導教室における言語面の支援ニーズに対応した指導方法の体系化と教材の開発		
		モンゴル国障害児のための教育改革システムの構築に関する研究		
		重度重複障害児(者)等の視覚認知発達を促す情報システムの開発・活用に関する研究	研究協力校とリモートで研究協議を行った。	
		特別支援教育・教育臨床におけるケースレポートマニュアルの開発		
		『特別支援教育』支援事業室の運営		
	『学校教育相談総合窓口システム』に関する研究			
	特別支援教育における言語・コミュニケーション発達のアセスメント法に関する研究			
	両耳性聴覚処理の心理生理学的研究			
	附属学校における読み書き支援の実践研究			
	公開研究会等	公開講座「特別支援教育の知恵を深める」「特別支援教育の基礎と実践」 特別支援教育専門講座『アセスメント』ワークショップ4講座(現職教員研修プロジェクト) 2020特別支援教育「専門セミナー」(コーチング、生徒指導、研究倫理について)(学校心理士認定運営機構との共同開催) 教育の現代的課題に関わる講演会	今年度はコロナのため中止 リモート開催 今年度はコロナのため中止	
	次世代教育研究センター	研究プロジェクト	在外教育施設における教育実習プログラムの開発	
			学びの目的に関する研究	リモート開催
中途入職教員に対する研修と処遇				
学校と外部機関の連携と教育の公共性に関する研究			リモート開催	
教員養成大学・学部における大学教授職の在り方と組織開発				
大学で附属学校の教員が学生に支援する、基礎実習における実験授業の検討と指導				
教育実習のカリキュラムと指導に関する研究				
教育実習におけるメンタルヘルス支援				
教員養成における実践的プログラムの運営に関する研究				
教員養成の構造変容に関する研究				
教員養成カリキュラムの検証—創成期の東京学芸大学卒業生に対するインタビュー調査をもとに—				
公開研究会等		教育実習研究シンポジウム(39)「COVID-19禍の教育実習～附属学校園におけるさまざまな課題と工夫、今後に向けて～」 日本教育大学協会 全国教育実習研究部門 研究協議会(34) 第2回公開セミナー 研究プロジェクト公開セミナー「面白がる力を育てるために～「学ぶ星」構想～」 国内客員教授公開研究会	リモート開催 リモート開催 リモート開催 リモート開催 リモート開催	
留学生センター		研究プロジェクト	日本人学生と留学生の共修授業の方法と効果に関する研究	6/3リモート実施済
	非常勤講師と留学生のICT活用に対する支援		春・秋学期リモート実施済	
	日本語学習者向けの非外来語のカタカナ表記語の教材開発		リモート実施なし	
	上級日本語学習者の作文に見る語用論的能力に関する研究		7/31リモート実施済	
	機械翻訳に見る翻訳言語と語用論的諸問題に関する調査研究	5/27リモート実施済		
公開研究会等	多文化共生教育セミナー「地域の国際交流と今後の課題について」(小金井市生活日本語教室、小金井市国際交流サロン)	7/31リモート実施済		

		事業等名称	リモート開催等の状況
国際教育センター	研究プロジェクト	文化間移動をする子どもの発達・学習に関する心理学的研究(就学後の学力を支える多文化保育のあり方を探る)	成果の取りまとめと追加の調査のための科研申請に向けた打ち合わせをメール等で実施
		多言語・多文化環境で育つ児童の学習言語の発達と障害(就学前・就学初期にできること、すべきことはなにか)	7/29、9/26オンライン研究会実施
		多様化する社会におけるシティズンシップ教育の比較研究	4/17,5/28,6/25,7/21,8/6,9/8,10/15,11/19,12/17,1/25,1/28オンライン研究会実施
		多文化共生社会における市民性の教育に関する研究	昨年度で終了
		多文化住民の子育てと地域コミュニティへの参加に関する研究	12月5日フォーラムに参加、そのほかはzoomにて2ヶ月に1回程度研究打ち合わせを実施。
		外国人児童生徒教育研修のための教材作成	昨年度で終了
		性の多様性に応じる学校に関する研究—授業作りから環境整備まで—	2020年度は実施せず
	公開研究会等	第41回海外子女教育セミナー	10/31オンライン実施済
		第13回国際教育センターフォーラム	2/27オンライン開催予定
		第10回多文化共生フォーラム	12/5オンライン実施予定
		令和2年度第1～2回JSLカリキュラムを生かした外国人児童生徒教育指導者研修	2回の開催とし、6/27、10/10にオンライン開催済
		JSLサテライトセミナーイン小牧	今年度は実施予定なし
		第5回学校のセクシュアル・マイノリティ(LGBT)学校教育支援研修	今年度は実施予定なし
		大泉地区附属学校との連携協力 小平市国際交流協会・国分寺国際協会との連携協力	今年度は実施予定なし 今年度は実施予定なし
理科教員高度支援センター	研究プロジェクト	小学校教員に対する理科の研修内容に関する研究	リモート開催
		中・高等学校教員に対する理科の研修内容に関する研究	リモート開催
		小学校理科に関する教材開発	進行中
		中・高等学校理科に関する教材開発	進行中
		研修検索・登録のWeb化プロジェクト	進行中
	公開研究会等	現職教員研修(学校教員に対する理科研修) 第11回理科教育シンポジウム「オンラインと対面授業の下での主体的な理科の学びへのスイッチ」	リモート開催 リモート開催
教員養成開発連携センター	研究プロジェクト	研修・交流支援プロジェクト	
		研修・交流支援プロジェクトフォーラムの開催	
		教員養成系大学・学部における大学教職員の力量構造の見直し	
教員養成ならではの教職員PD(プロフェッショナル・ディベロップメント)プログラムの開発・運営 教員養成ならではの教職員PDプログラムの効果測定方法の開発・試行			
公開研究会等	研修・交流支援プロジェクト 教員養成ならではの大学教職員PD講座(対面式講座及びweb講座)	一部リモート	
次世代教育研究推進機構	研究プロジェクト	「次世代型コンピテンシー育成のための教育方法開発とその国内外への発信」プロジェクト	
		【育成部門】	
		書籍「2030年の学校教育:資質・能力を育成する指導モデル—東京学芸大学とOECDとの共同による次世代対応型指導モデルの研究開発—」(明治図書)令和3年4月出版予定	
		OECDのコンセプトノート2種類(Learning Compassと生徒エージェンシー)を邦訳し、それがOECDのHPIにて公開	
		才能開発教育財団によるe-learning教員免許更新講習にて選択必修「子どもたちの未来に役立つコンピテンシー(資質・能力)を育てよう」を実施(登録数4069名・実施数3100名)	
		コンピテンシーを育成するための手立てを構成する要素を確定しその内容を明示して次世代機構HPIに定義と考え方を公開	
		コンピテンシー育成の取組を紹介するビデオ(手立てビデオ)を新たに「困難を乗り越える力」と「受容・共感・敬意」の2本を追加作成(日本語版と英語版)	
		コンピテンシー育成の取組を紹介する手だてビデオをこれまで計6本作成し公開中(日本語版と英語版)	
		OECDのカリキュラムマップの概念にコンピテンシー育成の考え方を組み込んだデータベースシステムPDCoBaLを検討・作成	
		PDCoBaLのデータベースのコンテンツとなる学習指導案の収集	
		PDCoBaLを2月にHPIにての公開し、どのような機能が実装されているかを紹介	
		CMCDのコンテンツとなる学習指導案の収集	
		PDCoBaLのコンテンツ整理の枠組作りのために中学校学習指導要領を解析してその記載内容を各コンピテンシーに分類	
		PDCoBaLの活用方法を検討する目的で、ある小学校全校の年間計画を分析して学年別・単元別・題材別のコンピテンシーを体系化する試み	
		高校生徒のコンピテンシーとエージェンシーとの関係について2年間の経年変化のデータを分析し特徴を明示	
		エージェンシーに関しての蓄積成果を機構のHPIにて集約して公開し、エージェンシー研究の活用促進に貢献	
		エージェンシーをわかりやすく伝えるために作成した漫画「未来へすすむ～エージェンシー」を冊子とWebにて広く公開	
【評価部門】			
小学校での探究科の評価のためのルーブリックおよびポートフォリオの開発			

		事業等名称	リモート開催等の状況
次世代教育研究 推進機構	研究プロジェクト	特別活動の学芸大版評価システムの運用と授業映像の収集の継続	
		道徳および特別活動におけるエージェンシー概念育成のとらえ方の検討	
		高等学校生徒のコンピテンシー自己評価調査によるコンピテンシーの経年変化と影響要因のモデルに基づく分析結果を示す	
		【研修・発信部門】	
		動画配信システム21CoDOMoSの機能拡張とコンテンツの充実(タブレットで使用可能、アクセス履歴機能など)	
		八王子市教育委員会と連携し、21CoDOMoSを動画配信システムとして活用して教員研修の実施をサポート	
		21CoDOMoSに公開する映像について既存の日本語版を英語版にしたものを順次追加	
		附属世田谷中学校公開研究会授業映像(テロップ入り版)を21CoDOMoSにて全国に公開	
		附属小金井小学校公開研究会授業映像(テロップ入り版)を21CoDOMoSにて全国に公開	
		附属高等学校と連携、21CoDOMoSを動画配信システムとして活用し、公開研究大会のオンライン実施をサポート	
		弘前大学教育学部より21CoDOMoSシステム構築と維持運営に関する問い合わせと相談に対する対応	リモート
		愛知教育大学情報教育担当より21CoDOMoSシステム構築と附属学校での授業配信に関する問い合わせとその対応	リモート
		21CoDOMoSのパンフレット内容の刷新と全国の教育委員会への郵送	
		21CoDOMoSのパンフレットの英語版を作成し印刷中	
		21CoDOMoSの知財保護のため商標登録の手続きを遂行中	
	教員研修のあり方に関する小中高等学校教員対象の調査(昨年度実施済調査の追跡調査)の実施・分析		
	教員研修のあり方に関する小中学校教員対象の調査に新たにコロナの影響要因を探る内容を実施し分析		
	大学の教職課程における21CoDOMoSの利用促進のための方策実施(利用規約の改訂、HPでの周知等)		
	公開研究会等	第1回 OECDグローバル・フォーラムへの参加と運営補助(05/19～05/20)	リモート
		第2回 OECDグローバル・フォーラムへの参加と運営補助(10/08～10/09)	リモート
		OECDによるEducation2030 Phase2事業のFocus Group2Aのウェビナーに参加(09/05,11/10)	リモート
		OECDによるEducation2030 Phase2のThematic Working Group 2(教員研修・教員養成)のウェビナーに参加(11/05,12/09)	リモート
		OECDによるCurriculum Analysis Report Launch Eventに参加(11/25～11/26)	リモート
		ISN2.0(Innovative Schools Network)による国際生徒イノベーションフォーラム(ISIF2020)の参加・運営補助(08/11～08/12)	リモート
		ISN2.0主催のオンライン特別研究会に参加(6月13日)	リモート
		国際バカロレアイベントにてOECDと次世代教育研究推進機構が進めるエージェンシーに関する講演(9月)	リモート
		3月実施予定であった第3回次世代教育研究推進シンポジウムの発表内容を4月よりWeb上で公開	
		第4回次世代教育研究推進機構WebシンポジウムにてOECDと協働した中高大生とのワークショップを実施(02/27)。参加者303名。	リモート
		第4回次世代教育研究推進機構Webシンポジウムにて基調講演と成果報告セッション(紹介映像43本を配信)(02/13～3/6に配信)	リモート
		OECD/福島大学主催の東日本大震災から10年の国内外ワークショップの準備と運営に参画(3/13～14)	リモート
		広島県立神辺旭高等学校研究授業による「コンピテンシー育成授業」に関する講演(11/13)	
		広島県立広高校・呉三津田高校・呉宮原高校の合同探究科発表会での講評と指導(1/27)	リモート
		広島県立広高等学校教員を対象にしたコンピテンシーの観点別評価への応用に関する講演と質疑応答(01/08)	リモート
		次世代機構HPにて特別の教科道徳と特別活動とエージェンシー、及びCOVID-19の影響研究の紹介ページを作成	
		Pedagogy, Culture & Society学術誌にコンピテンシー育成の手立てとエージェンシーについて論文発表	
教育システム情報学会誌に「項目反応理論に基づく学習状況可視化システムの開発と評価」の論文発表			
関係性の教育学会誌に「特別活動におけるエージェンシーの評価」の論文発表			
日本教育大学協会研究年報(第39集)に21CoDOMoSの教員研修活用に関する調査研究論文を発表			
東京学芸大学紀要に論文発表(コンピテンシー、エージェンシー、特別活動、コンピテンシー議論など関連)(4件)			
The 14th Asia-Pacific Network for Moral Education (APNME) Annual Conferenceにて道徳教育の評価を研究発表			
31st Annual JUSTEC Conferenceにて教科横断的な単元指導の考え方について研究発表	リモート		
道徳教育の国際学会にてエージェンシーと道徳をテーマにしたシンポジウムを附属学校教員と開催	リモート		
日本教育工学会にて高等学校でのコンピテンシー自己評価の縦断的調査結果とその分析を発表(2件)	リモート		
日本教材学会第32回研究発表大会にて特別活動でのエージェンシー評価について発表	リモート		
日本特別活動学会第29回大会にて特別活動とエージェンシーの関係について発表	リモート		
日本教育大学協会研究集会(愛媛大学)において研究発表	リモート		
教育インキュベーション センター	研究プロジェクト	スタートアップフィールド Edu_X	
		スタートアップフィールド らぼらぼ	リモート開催
		スタートアップフィールド Möbius Open Library (MOL)	リモート開催
		スタートアップフィールド スマスポ ～ 運動遊び・スポーツ×創造ラボ ～	
		スタートアップフィールド VRコンテンツを活用した新問題解決学習の開発	リモート開催
		スタートアップフィールド 世界を繋ぐ遠隔地体育!	リモート開催
		スタートアップフィールド 放課後まほらbo	リモート開催

		事業等名称	リモート開催等の状況
教育インキュベーション センター	研究プロジェクト	スタートアップフィールド 東京学芸大学蹴球部PRラボ EXPitch	
		スタートアップフィールド 金文(古代漢字)ラボ	リモート開催
		スタートアップフィールド VIVISTOP GAKUGEI 準備室	
		スタートアップフィールド 畳上ラボ(じょうじょうらぼ)	
		スタートアップフィールド Coaching Lab	
		スタートアップフィールド INTER	リモート開催
		スタートアップフィールド 対話型検討会ネットワーク	
		スタートアップフィールド 異人ラボ	
		スタートアップフィールド ハイサイ・ウチナーラボ	
		スタートアップフィールド Nihonbashi Music Labo(NML)	リモート開催
		スタートアップフィールド Home Soup Bar	
		スタートアップフィールド 青少年体験活動アワード	リモート開催
		スタートアップフィールド Edu Knot Lab	リモート開催
		スタートアップフィールド いごこチーム	リモート開催
		スタートアップフィールド 学芸の森人・集・ラボ	
		スタートアップフィールド エディブルヤード	
		スタートアップフィールド 東京学芸大学ヒューマンライブラリー	リモート開催
		スタートアップフィールド GREEN TECH ENGINEERラボ	リモート開催
		スタートアップフィールド MUSASHINO LAB / 武蔵野らぼ	
		スタートアップフィールド 遊具開発ラボ「Manobo」	
		スタートアップフィールド グローカジオ・ラボ:SDGsと場所の経験	
		スタートアップフィールド 過去・未来・世界とジブンを繋ぐ、探究学習ラボ「Dolphin」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド 変人類学研究/ FIREBUGとの共同研究「クリエイティブな人材に関する評価及び発生・育成に関する研究」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド 授業研究ラボIMPULS/JICA委託事業「IMPULS KYOUZAI KENKYUU SEMINAR FOR LESSON STUDY」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド ワークーションラボ/日本能率協会マネージメント協会との共同研究「ワークーションにおける教育に関わる課題解決」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド VRラボ/NHKEデュケーショナルとの共同研究「VRを活用した教育プログラムの実践検証」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド SPEAKING LABO/TanQと協働しての英語テスト教材開発	リモート開催
		アクセラレーションフィールド 未来の森の教室/TanQと協働しての「森林ゲーム」開発	リモート開催
		アクセラレーションフィールド 教育イノベーションネットワーク/NOVITAとの共同研究「拡張型学習と学生のキャリア形成」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド こどスクール(codoschool)/パソナフォスターとの共同研究「新しい学校外教育のモデル(環境、教育支援人材、学校教育と連動した学習カリキュラム)開発」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド アルーとの共同研究「STEAM教育における学習内容・目標マップと指導者の資質・能力マップの開発」	リモート開催
		アクセラレーションフィールド ニチイ学館との共同研究「保育園におけるSTEAM教育の実践的な研究」	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 基礎学力育成社会システム開発プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 困難な状況にある子どもの学習支援	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 AR/VRの教育活用プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 教科へのゲーミフィケーション導入プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 探究・PBL学習深化プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 THIRDPERSONプロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 学校オープン化プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 学校の生産性最大化プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 学校運営最適化プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 GIGAスクール時代の学びプロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド 未来の学校 後期中等教育との連携プロジェクト	リモート開催
		オーケストレーションフィールド HIVEプロジェクト	リモート開催
		子どもの社会資源格差を乗り越える教育協働システムに関するコンソーシアム型研究開発プロジェクト	
		①家庭の貧困に伴う言語発達や学習レディネスの格差に応じた学校教育スタートカリキュラム開発・検証	
		生活資源格差による小1段階からの学習レディネスの格差乗り越えるためのスタートプログラム開発	
		スタートカリキュラム実践後の授業展開に対応する指導案づくりとカリキュラムマネジメントの検討	
		スタートカリキュラムに活用できる「運動遊び」教材の開発	
		②多様性にかかれた附属学校モデルの課題検証と普及	
		校区の広い附属学校にSSWを投入した多職種協働の校内支援システムの開発	
		特別連絡進学後の生徒に対する個別支援計画を基本とした支援の実践と効果検証	
		特別連絡進学をした3年生に対する高校進学支援と支援体制の検証	
		特別連絡進学をした3年生及びその保護者による「学校生活の評価」に関する質的研究	
③個別最適化学習・文化多様性学習モデルの開発			

		事業等名称	リモート開催等の状況
教育インキュベーション センター	研究プロジェクト	「子どもの貧困と教育」授業モデル開発・検証	
		オンライン授業に関する大学生インタビュー調査	
		学芸大放課後フィールドにおけるオンライン実践の事例蓄積	
		GIGA スクールに関わる研修の実施	
		Youtube 等を活用したオンラインの学びの場のコンテンツ開発	
		学習多様性交流フィールドのネットワーク化に向けた体制構築	
		④関係機関と協働した教員・教育支援者養成システムモデル開発	
		附属学校・自治体と連携した学習・進学支援モデルの授業への反映と新カリキュラムへの移行に関する基礎的検討	
		子どもの「支援」と教員養成系学生の「養成」を一体化させたサービスラーニングの新カリキュラムへの拡張に関する検討	
		不登校児童生徒を対象とした、自治体との協働による社会資源格差を乗り越える教育実践の予備的検討	
	大学院「フィールド研究」における社会資源格差を乗り越える教育実践の導入に関する実践と効果検証		
	公開研究会等	5月4日 留学生交流会(ラボ:INTER)	リモート開催
		8月4日 竹早小学校での企業によるサマースクール(未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	リモート開催
		8月5日 竹早小学校での企業によるサマースクール(未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	リモート開催
		8月14日 留学生と中学生の交流会(ラボ:INTER)	リモート開催
		9月17日 秋学期のオンライン授業をどうやって乗り越える!? (Edu Knot Lab)	リモート開催
		10月1日 高校生オンライントークセッション(附属高校×津山の高校4校)	リモート開催
		11月13日 東京学芸大学ヒューマンライブラリー(ラボ:東京学芸大学ヒューマンライブラリー)	リモート開催
		11月24日 附属竹早中学校でのVR教材実践検証(ラボ:VRラボ/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	
		11月28日 東久留米の森(元成美荘)での地元のボランティアと中学生を含めての森林整備活動(ラボ:GREEN TECH ENGINEER LAB)	
		11月29日 留学生と小中高校生の交流会(ラボ:INTER)	リモート開催
		12月8日 附属竹早中学校でのVR教材の実践検証(ラボ:VRラボ/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	
		12月10日 附属竹早中学校でのVR教材の実践検証(ラボ:VRラボ/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	
		12月10日 東京学芸大学ヒューマンライブラリー(ラボ:東京学芸大学ヒューマンライブラリー)	リモート開催
		12月11日 附属竹早小学校でのVR教材実践検証(ラボ:VRラボ/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	
		1月13日 高校生オンライントークセッション(附属高校×津山の高校4校)	リモート開催
		1月14日 附属小金井小学校での「森林ゲーム」の実践検証(ラボ:未来の森の教室)	
		1月21日 附属小金井小学校での「森林ゲーム」の実践検証(ラボ:未来の森の教室)	
		1月29日 岩手県山田町立船越小学校での町長プレゼン授業実践(ラボ:ワーケーション/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	リモート開催
		2月12日 高校生オンライントークセッション(附属高校×津山の高校4校)	リモート開催
		2月21日 東京学芸大学在学学生向け人生相談室(ラボ:ラボラボ)	リモート開催
		2月22日 コロナ禍での授業を振り返ってのガチトーク(ラボ:Edu Knot Lab)	リモート開催
		2月26日 附属竹早小学校と岩手県山田町立船越小学校とのオンライン授業実践(ラボ:ワーケーション/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	リモート開催
3月12日 附属竹早小学校と岩手県山田町立船越小学校とのオンライン授業実践(ラボ:ワーケーション/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)		リモート開催	
3月18日 附属竹早小学校での歴史に関するカードゲームを活用した授業実践(未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)			
3月24日 附属竹早小学校と岡山県津山市立津山東小学校とのVRを活用したオンライン授業実践(ラボ:VRラボ/未来の学校みんなで創ろう。PROJECT)	リモート開催		
子どもの社会資源格差を乗り越える教育協働システムに関するコンソーシアム型研究開発プロジェクト			
令和2年度シンポジウム「子どもの困難と学習保障～教育協働は子ども救えるのか～」			
「スタートカリキュラム」を踏まえた授業改善のための公開授業研究会			
教材作成	子どもの社会資源格差を乗り越える教育協働システムに関するコンソーシアム型研究開発プロジェクト		
	教員・教育支援者養成・研修用テキスト「指導案付スタートカリキュラムガイドブック」プロトタイプ		
	教員・教育支援者養成・研修用映像教材「スタートカリキュラムに活用できる「運動遊び」CG集」プロトタイプ		

Ⅱ－(8) 附属学校の研究活動

(令和2年度)

	公開研究会	文科省特別経費・受託事業・開発指定研究・産学連携事業 等
幼稚園 (小金井園舎)	① 研究協議会「しなやかな心と体をはぐくむ保育」 令和2年11月7日(土) (中止)	令和2年度「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究(幼稚園における学校評価に関する調査研究)」(文部科学省委託事業)
幼稚園 (竹早園舎)	① 竹早地区幼小中連携公開研究会 「学びを深める場をつくる～最終年次～」 令和3年1月22日(金) (中止)	① 保育実践と統合的に編み上げられる造形活動の実践理論の構築
世田谷小学校	① 『未来社会を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する、個に基づく「じぶんdeラボ」と、教科・学年を超えた協働的探究の「みんなdeラボ」の双方で駆動する教育課程及び学習環境デザインの研究開発』 令和3年1月23日(土)公開授業研究会 (中止)	【文部科学省研究開発学校指定 令和元年度～令和5年度】 (令和2年度は名目指定となり、令和5年度まで延長) ① 未来社会を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する、個に基づく「じぶんdeラボ」と、教科・学年を超えた協働的探究の「みんなdeラボ」の双方で駆動する教育課程及び学習環境デザインの研究開発
小金井小学校	① 第11回KOGANEI授業セミナー 令和3年2月6日(土) (中止)	① 令和2年度発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業(文部科学省委託事業) ② 令和2年度新時代のための国際協働プログラム「諸外国の支援実践とMIMの比較から追及するインクルーシブ教育」(文部科学省委託事業)
大泉小学校	① 新教科「探究科の創設」 ～国際バカロレア(IB)の理念を取り入れた新しい小学校カリキュラムの開発～ 令和3年1月30日(土) (中止)	① 文部科学省研究開発指定校(4年間指定の4年目 名目指定となり、令和5年度まで延長) ② 国際バカロレア機構PYP候補校(3月末)となる。 ③ ユネスコスクール
竹早小学校	① 竹早地区幼小中連携公開研究会 「学びを深める場をつくる～最終年次～」 令和3年1月22日(金) (中止)	① 教育課程特例校(文部科学省の指定) ② 大学と附属学校の連携における教員養成の実践研究(図画工作)
世田谷中学校	① 世田谷中学校が育てる「21世紀型能力」～各教科が育てる深い学びを通して～ 公開研究会 令和2年6月20日(土) (中止)	
小金井中学校	① 教育研究協議会 令和2年11月20日(金) (中止)	① 東京学芸大学・教育系ICT企業数社との共同研究プロジェクト ② 東京学芸大学・Explayground・教育インキュベーションセンターとの連携 ③ 東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクト
竹早中学校	① 竹早地区幼小中連携公開研究会 「学びを深める場をつくる～最終年次～」 令和3年1月22日(金) (中止)	① 「子どもの社会資源格差を乗り越える教育協働システムに関するコンソーシアム型研究開発プロジェクト(通称コンソーシアム型プロジェクト)」 ② 「未来の学校みんなで創ろう。プロジェクト」日本初の産官学連携の学校システム改革チームの誕生 ③ HATOプロジェクト「教育実習の指導教員対象のFDコンテンツ②③の開発」
高等学校	① 第19回公開教育研究大会「観点別評価の導入に向けた教育活動の改善～『学習評価』を軸としたカリキュラム・マネジメント～」 令和2年11月7日(土) (オンラインで実施) ② 令和2年度スーパー・サイエンス・ハイスクール事業 報告会 令和3年3月17日(水) (オンラインで実施)	① 平成29年度指定スーパー・サイエンス・ハイスクール研究開発「国際社会で活躍する人材に必要なキー・コンピテンシーを獲得させる授業法の研究開発Ⅱ」 文部科学省教育課程研究指定校事業(教科等名:工芸)「『思考力,判断力,表現力等』の向上を図った主体的・協働的な学びを通じた[共通事項]の指導の充実と学習評価の工夫」
国際中等教育学校	① 令和2年度 第7回 公開研究会 令和2年11月21日(土) (オンラインで実施)	① 教育課程特例校 ② 《国際バカロレア機構》MYP/DP(デュアルランゲージDP)認定校 ③ 国際連合教育学文化基金・ユネスコスクール加盟「持続可能発展教育(ESD)」実践及び研究 ④ SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校 ⑤ WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築 国内連携校 ⑥ 文部科学省機能強化経費「国際バカロレアデュアルランゲージディプロマプログラムの導入および導入後に関する実践研究と普及促進活動」
特別支援学校	① 一人ひとりの未来を支える生涯発達支援学校 一健やかな心と体を育む支援をデザインする 令和3年1月29日(中止)	① 魔法のMedicineプロジェクト(携帯情報端末を活用した障がい児の学習・生活支援を行う事例研究プロジェクト) ② 東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクト

Ⅱ－（９） 附属学校研究会

（令和2年度）

〈全体会〉 書面での発表

I 令和元年度プロジェクト研究成果発表分科会

- ①保育実践と統合的に編み上げられる造形活動の実践理論の構築
－生活に根ざして展開する造形的な技能獲得の年間計画化－（1年目）
- ②大学と附属学校の連携における教員養成の実践研究
～大学が主催する交流レクチャーを通して～
- ③児童・生徒のストレスに関する実態調査 ～ネット・ゲームに関する実態調査を中心に～
- ④文学教材と文学教育の融和に基づく概念化と言葉による見方・考え方の向上
～文学教材を用いた「深い学び」への視点とその活用～
- ⑤理科授業におけるアクティブ・ラーニングの実現に向けた教員養成のあり方Ⅲ
- ⑥今日的課題を含む授業における授業形態による効果の違いと意識変容についての考察
～読書活動を取り入れたSDGs関連授業の実践を踏まえて～
- ⑦高大連携による国際バカロレアディプロマプログラム（IBDP）化学の実践と検証
- ⑧障害を持つ幼児・児童・生徒の「みる・よむ・発表する力」の育成と効果的方法を探る
－LLブックとマルチメディアデジターの応用から－
- ⑨特別開発プロジェクト報告
公立学校等に還元できる”理科と国語科が教科横断的に協同して育む実践的な探究する力”プロジェクト
- ⑩特別開発プロジェクト報告
公立学校等に還元できる”生徒の学びと評価・成果をシームレスにつなぐ「学びのポートフォリオ」プロジェクト

	全体・地区別	研究テーマ等
国語	全体	国語科の新しい授業づくりの視点 ～縦と横の連携を意識して～
	世田谷地区	コロナ禍における国語科としてのオンライン授業の可能性
	小金井地区	児童・生徒の思考を拓く国語科の授業（3年次）
	大泉地区	学校ごとの課題に応じたカリキュラムの作成と実践
	竹早地区	豊かな伝え合いをめざして
社会	世田谷地区	新学習指導要領の実施に向けた授業と評価の開発（Ⅲ）～小・中・高での観点別評価に向けた教育活動の改善～
	小金井地区	学習と生活の往還を通して自らの学びを更新する子供の育成 ー『真実な学び』を実現する社会科の授業・単元づくりを通してー
	大泉地区	新学習指導要領に対応した附属学校における教育実習のありかた（Ⅱ）
	竹早地区	学びを深める場をつくる ～自ら学びを深める子どもをめざして～
算数・数学	世田谷地区	「統計的に問題解決する力を高める授業」の研究
	小金井地区	算数・数学における式の理解に関する研究
	大泉地区	小中高の接続を意識した算数・数学科の授業研究
	竹早地区	学びを深める場をつくる
理科	世田谷地区	理科授業におけるアクティブ・ラーニングの実現に向けた教員養成のあり方
	小金井地区	附属小中連携による理科の授業カリキュラムの構築
	大泉地区	IBプログラムを核とする探究的な活動を通じた初等中等教育の連携研究
	竹早地区	理科における学を深める場をつくる手立てとは何か
音楽	全体	大学と連携した教育実習のあり方（継続）
図画工作・美術	全体	各附属学校での実践等の情報共有から大学との連携の深化
保健体育	全体	コロナ禍における保健体育授業実践の可能性の探究
技術	全体	教育実地研究における指導法
家庭	全体	コロナ禍における指導や評価のあり方の検討、教育実習における指導や評価のあり方の検討、新学習指導要領における指導や評価のあり方の検討
外国語・国際理解教育	全体	オンライン授業の実践報告
道徳	全体	自己の生き方を切り拓く学びの創造 ～今、必要な道徳教育の在り方を求めて～
学校保健	全体	教育実習における教育実習生の学校保健・学校安全への意識向上のための教育プログラムの開発
幼児教育	全体	共同体としての幼稚園実習 ～大学と附属幼稚園の連携～
書写・書道	全体	書写・書道の有為な教員養成のための実践的研究
教育と福祉	全体	特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の日常生活指導 ～コロナ禍における対応に焦点を当てて～
学習評価	全体	特別支援学校における学習評価について
生活・総合	全体	生活科・総合的な学習の時間
情報教育	全体	GIGAスクール構想に向けた準備とオンライン授業等の取り組み
食育	全体	子どもの実態に合わせた食育

Ⅱ－（１０）研究活動受賞者

（令和２年度）

所属	受賞者	賞の名称	授与機関	受賞年月
総合教育科学系	萬羽 郁子	学術賞	におい・かおり環境協会	2020年12月
人文社会科学系	阿部 始子	学会賞	小学校英語教育学会(JES)	2020年10月
自然科学系	國仙 久雄	学会賞	日本イオン交換学会	2020年10月
自然科学系	高橋 修	優秀論文賞	日本地学教育学会	2020年11月
自然科学系	VOEGELI Wolfgang	光設計優秀賞	一般社団法人日本光学会 光設計研究グループ	2020年11月
自然科学系	山本 昭範	奨励賞	日本土壌肥料学会	2020年5月
芸術・スポーツ科学系	花澤 洋太	文部科学大臣表彰 功労者表彰	文部科学省	2020年12月
芸術・スポーツ科学系	佐藤 善人	学会賞	ランニング学会	2021年3月
芸術・スポーツ科学系	鈴木 直樹	ICT夢コンテスト優良賞	一般社団法人日本教育情報化振興会	2020年11月
芸術・スポーツ科学系	鈴木 直樹	ICT夢コンテスト優良賞	一般社団法人日本教育情報化振興会	2020年11月
芸術・スポーツ科学	森山 進一郎	奨励賞	日本水泳・水中運動学会	2020年11月
芸術・スポーツ科学	森山 進一郎	奨励賞	日本水泳・水中運動学会	2020年11月
芸術・スポーツ科学	森山 進一郎	ヤマハ優秀賞	日本水泳・水中運動学会	2020年11月
教職大学院	北澤 武	論文賞	日本科学教育学会	2020年8月
教職大学院	渡邊 正樹	学会賞	一般社団法人日本学校保健学会	2020年11月
次世代教育研究センター	宮内 卓也	化学教育有功賞	公益社団法人 日本化学会	2021年1月
ICTセンター	加藤 直樹	ヒューマンインタフェースサイバーコロキウム優秀発表賞	ヒューマンインタフェース学会	2020年10月
ICTセンター	森本 康彦	論文賞	教育システム情報学会	2020年9月

Ⅲ. 社会貢献活動

Ⅲ－（１）地域連携事業

事業名称	連携先機関等	
① 東京都教育職員免許法認定講習(小学校・中学校・養護教諭部門) (R2.8.16～8.29)	東京都教育委員会	
② 東京都教育職員免許法認定講習(特別支援学校教諭部門)(R2.8.7～8.29)	東京都教育委員会	
③ 東京都教職員研修センターと国立大学法人東京学芸大学との連携による講座 (R2.8.1～12.27)	東京都教職員研修センター	
④ 現職教員研修(R2.10.15～R3.3.26)	東京都教職員研修センター	
⑤ フロントランナーのための算数数学授業研究セミナー	東京都教育委員会 教科等特別部会(算数・数学)	
⑥ 中学校学力向上・組織力向上のための実践研究事業 (R2.10.7-8、R3.1.27-28)	高知県教育委員会西部教育事務所	
⑦ 第12回小金井・国分寺・小平環境教育実践フォーラム(R2.12.12)	小金井市 国分寺市 小平市	
⑧ 青少年のための科学の祭典 東京大会 in 小金井(R2.9.20)	小金井市 小金井市教育委員会 国際ソロプチミスト東京ー小金井	
⑨ サテライト学習会&防災教育プログラム(R2.8.3～8.7)	二戸市教育委員会	
⑩ 教育フォーラム2020ー学びのニュースタイルICT活用と情報教育ー(R2.12.5)	小金井市教育委員会 国分寺市教育委員会 小平市教育委員会	
⑪ 親子野球教室(R2.5.23)	小金井市教育委員会 読売巨人軍	
⑫ 学長杯サッカー大会(R2.11.15)	小金井市サッカー協会 国分寺市サッカー協会 小平市サッカー協会 FC東京	
学芸大クラブ	⑬ サッカー教室(R2.5.7～6.18, R2.9.24～11.5)	小金井市教育委員会 FC東京
	⑭ ウォーキング・ジョギング教室	小金井市教育委員会
	⑮ ジュニア陸上教室	小金井市教育委員会

Ⅲ－（２）免許状更新講習

①講師数(領域別・専攻別)一覧

(令和2年度)

講師所属 専攻・プログラム・サブプログラム等	必修					選択必修					選択				
	担当時間数	担当講習数	講師数	定員数	受講者数	担当時間数	担当講習数	講師数	定員数	受講者数	担当時間数	担当講習数	講師数	定員数	受講者数
学校組織マネジメントプログラム	6	2	2	220		6	1	2	110						
総合教育実践プログラム	22.5	6	4	660							18	3	3	130	
国語教育サブプログラム						6	1	1	110		42	7	7	400	
社会科教育サブプログラム						6	1	1	110		72	12	15	600	
数学教育サブプログラム						6	1	2	110		36	6	7	300	
理科教育サブプログラム						6	1	2	110		78	13	14	426	
音楽教育サブプログラム						6	1	2	110		42	7	7	215	
美術・工芸教育サブプログラム						3	1	1	110		36	6	6	170	
書道教育サブプログラム						3	1	1	110		12	2	2	60	
保健体育教育サブプログラム						6	1	3	110		30	5	5	210	
技術教育サブプログラム						6	1	1	110		6	1	1	60	
家庭科教育サブプログラム						6	1	1	110		6	1	1	30	
英語教育サブプログラム						6	1	1	110		18	3	3	170	
情報教育サブプログラム											6	1	1	20	
幼児教育サブプログラム											6	1	1	40	
養護教育サブプログラム											18	3	3	150	
特別支援教育高度化プログラム	12	4	2	440							12	2	2	80	
学校教育課題サブプログラム	12	4	2	440											
国際理解・多文化共生教育サブプログラム	12	4	2	440							72	12	12	1,100	
環境教育サブプログラム											12	2	2	72	
次世代日本型教育システム研究開発専攻											60	10	10	380	
教育AI研究プログラム	18	12	6	1,320							30	5	5	180	
臨床心理学プログラム	25.5	13	8	1,430											
教育協働研究プログラム	12	4	2	440							72	12	15	451	
附属学校教員						54	9	18	990						
その他						18	3	5	200		12	2	5	80	
計	120	49	28	5,390	0	138	24	41	2,510	0	696	116	127	5,324	0

②定員充足率

(令和2年度)

	講習数	定員数	受講者数	定員充足率(%)
必修講習	20	2,200		
選択必修講習	23	2,400		
選択講習	116	5,324		
計	159	9,924	0	0.0%

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、講習を中止とした。

【必修講習】

- ・1講習あたりの定員は、110名に設定している。
- ・1講習を複数の専攻等にまたがった2～4人の講師が担当しているため、担当講習数、定員数、受講者数の合計は、のべ数となっている。
- ・1講習6時間で、内容が4つの細目で構成されているので、1細目の担当時間を1.5時間で計算。
- ・平成28年度より1講習の時間数が12時間から6時間に変更。

【選択必修講習】

- ・1講習あたりの定員は、110名(一部60名～70名)に設定している。
- ・1講習を複数の専攻、その他附属学校教員を含め複数名の講師で1講習を開講するものがあるため、担当講習数、定員数、受講者数の合計は、のべ数となっている。
- ・1講習6時間で、内容が2つの細目で構成されているので、1細目の担当時間を3時間で計算。
- ・平成28年度より新設。1講習6時間。

【選択講習】

- ・同じ講師が複数開講、複数名の講師で1講習を開講するものがあるため、講師数、受講者数の合計は、のべ数となっている。

Ⅲ－(3) プロジェクト別現職教員研修

(令和2年度)

プロジェクト名	研修名	研修内容
教職大学院 プロジェクト	福生市教育委員会 特別支援教室担任研修会	特別支援教育の理解
	立川市教育委員会 特別支援学級担任研修会	特別支援教育の理解
	立川市教育委員会 自閉症・情緒障害特別支援学級	自閉症・情緒障害特別支援学級のコンサルテーション
	東村山市教育委員会 特別支援学級コンサルテーション	特別支援学級のコンサルテーション
	八王子市教育委員会2年次研修	子ども理解
	東久留米市教育委員会 設置校長会研修会	特別支援教育の理解
	昭島市教育委員会 自閉症・情緒障害特別支援学級	自閉症・情緒障害特別支援学級のコンサルテーション
	清瀬市教育委員会特別支援学級・特別支援教室担任研修会	特別支援教育の理解
	昭島市立福島中学校校内研修会	学力向上
	東久留米市教育委員会	サービスの厳正・教育活動と法令
	中野区教育委員会	いじめ問題
	板橋区教育委員会	学校組織マネジメント
	立川市教育委員会	サービスの厳正・教育活動と法令
	福生市教育委員会	人権教育
昭島市教育委員会	学校組織マネジメント	
道徳科プロジェクト	初任者等研修(八王子市)	考え・議論する道徳の授業について 道徳科における評価の実践について
小学校英語プロジェクト	東京学芸大学公開講座「担任が進める外国語活動・外国語の授業 基礎編」及び同「授業づくり編」	小学校での外国語活動・外国語の授業をつくる考え方・授業づくりの実践
	東京都福生市小学校外国語活動研修会 講義・演習「英語指導力の育成」	小学校での外国語活動・外国語の授業の指導力向上のための理論・実践
	令和2年度英語教育推進事業「講師による訪問研修」	小学校での外国語活動・外国語の指導力向上のための師範授業・授業研究・協議会・講演
IBプロジェクト	IB研修会	国際バカロレア中等教育プログラムについて
	校内研修会	IB単元設計 IDUのための取り組み
	校内研修会	IDU授業計画
	校内研修会	IDU授業計画
	IB研修会	単元設計、評価他
	公開研究会	IB授業実践報告、協議会
	校内研修会	ATL、重要概念 単元設計
	校内研修会	各学年担当教科情報交換他
	校内研修会	各学年担当教科情報交換他
	DP担当教員研修会議	DP授業計画、評価他 プログラム評価について
	校内教員対象授業参観会	MYP単元設計 IDUのための他教科取り組みの把握
PDプロジェクト	令和元年度 校内教員の授業を活用したPD研修プログラム	身体系先導的教育応用実践論(社会)
	令和元年度 校内教員の授業を活用したPD研修プログラム	気象科学特別演習A

プロジェクト名	研修名	研修内容
PDプロジェクト	研修・交流支援プロジェクトフォーラム(オンライン)	教員養成を担う大学教職員の専門性開発の探究
	PD講座(第7講・短縮版)(オンライン)	これからの大学での教員養成について考える
理科プロジェクト	「振り子の運動」と「電流がつくる磁力」	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	昆虫の体のつくり	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	生物電気の基礎実験	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	水環境の分析と触媒を利用した浄化技術	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	地質野外観察会—130万年ほど前の東京の自然を復元しよう—	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	地層のつくりとでき方	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	接触グロー放電—原始地球上でのアミノ酸生成のモデル反応—	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	遺伝子のDNAのはたらきを実感する	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	エネルギーの様々な形—手回し発電機を使って—	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	「物理の考え方」を伝える授業づくり—相対性理論と宇宙論を例に—	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	土壌動物の観察—腐食連鎖という生態系—	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	天気図で学ぶ天気予報と気象学(低気圧編)	オンライン実施。天気図の詳細な読み方を実習する。
	先生のためのScratch入門講座—プログラミング教育の必修化を受けて—	オンライン準備、参加者なし。Scratchでのプログラミング授業の基礎。
	磁石と電流が作る磁力	(コロナ感染により対面研修取りやめ)
	ウィンタースポーツのための天気図入門講座	オンライン実施。冬の天気図の特徴の詳細。
	放射線の基礎と霧箱	オンライン実施。参加者自身で装置を作り放射線の飛跡を観察。
環境変化を理解する指導の工夫—ICTを使った河川環境づくり	オンライン実施予定。シミュレーション教材を用いた環境学習。	
特別支援教育プロジェクト	特別支援教育のアセスメント研修(言語編:ワークショップ)	LCSA学齢期版言語コミュニケーションスケールの実施と活用
	特別支援教育のアセスメント研修(言語編:ワークショップ)	LCSA学齢期版言語コミュニケーションスケールの実施と活用
	特別支援教育のアセスメント研修(適応行動編:ワークショップ)	ASIST学校適応スキルプロフィールの実施と活用
	特別支援教育のアセスメント研修(適応行動編:ワークショップ)	ASIST学校適応スキルプロフィールの実施と活用
日本における次世代対応型教育モデルの研究開発プロジェクト	越谷市千間台中学校・人権教育の校内研修	OECDの事業と関連させて、国連、政府、学校、学級での人権教育の基本方針を説明する。(対面で実施)
	岡山県・人権教育の行政研修	OECDの事業と関連させて、国連、政府、学校、学級での人権教育の基本方針を説明する。(資料配布)
	【中止】公立小・中学校等新任校長研修会	学力向上に関する学校マネジメント
	【中止】広島県立広高等学校公開研究会	探究科学習におけるコンピテンシーの評価方法に関する研修講師
	広島県立神辺旭高等学校公開授業研修会	「ICTを活用してコンピテンシーを具体的にどう育てるか？」の研修の講師
	広島県立広高等学校 課題発見解決学習推進プロジェクト 校内研修会	課題発見解決学習でのコンピテンシー観点別評価法に関する研修講師

※「職能成長プロジェクト」、「教育委員会と連携した教育実習指導/教員研修支援プロジェクト」は令和2年度は開催無し。

Ⅲ－（４）受託事業

（令和2年度）

区分	委託機関名	事業名	事業期間
文部科学省	初等中等教育局	令和2年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業	R2.4.1～R3.3.31
	初等中等教育局	令和2年度学校図書館の振興に向けた調査研究	R2.5.20～R3.3.25
	初等中等教育局	幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究（幼稚園における学校評価に関する調査研究）	R2.8.5～R3.3.31
	総合教育政策局	令和2年度学校図書館司書教諭講習	R2.5.12～R3.3.31
	総合教育政策局	就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム	R2.4.21～R3.3.31
	文部科学省大臣官房	新時代の教育のための国際協働プログラム 「諸外国の支援実践とMIMの比較から追求するインクルーシブ教育」	R2.8.11～R3.3.31
	スポーツ庁	令和2年度 武道等指導充実・資質向上支援事業	R2.12.3～R3.3.10
地方公共団体	調布市教育委員会	不登校支援事業業務委託 (SWITCHプロジェクト)	R2.4.1～R3.3.31
	東京都教育委員会	令和2年度地域交流拠点（コミュニティハウス）の運営効果に関する調査研究事業	R2.7.22～R3.3.31
	東京都教育委員会	令和2年度東京学芸大学との連携による東京版「高大接続プログラム」の推進事業	R2.4.1～R3.3.31
その他	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	発達障害児の聞き取りの困難さの要因を探る実証研究	R2.4.1～R3.2.28
	国立教育政策研究所	教育課程研究指定校事業	R2.6.30～R3.3.20
	公益財団法人 河川財団	令和2年度「全国河川教育大学間ネットワーク」事業における河川教育推進業務	R2.9.29～R3.3.23
	株式会社コーエイリサーチ &コンサルティング	モンゴル国障害児のための教育改善プロジェクトフェーズ2第1期	R2.10.1～R4.7.29
	株式会社アオバイインターナ ショナルエデュケーション ルシステムズ	IBの教育効果に関する調査研究	R2.12.15～R3.3.31

Ⅲ－（５）公開講座

（令和2年度）

学系	講座名
総合科学系	学び合いを支える実践力を培う コミュニティ学習支援コーディネーター養成講座
	なぜ「よい子」がいじめをするのか？（オンライン研修）
自然科学系	気象予報士に挑戦～実技・日本海低気圧編～（オンライン講座）
	気象予報士に挑戦～実技・ニツ玉低気圧編～（オンライン講座）
	ウィンタースポーツのための天気図講座（オンライン講座）
	気象予報士に挑戦～実技・前線編～（オンライン講座）
	気象予報士に挑戦～実技・南岸低気圧編～（オンライン講座）
芸術・スポーツ科学系	実践テニス教室【初・中級】
センター	木簡で『論語』を読んでみよう（続）（オンライン講座）
	中国古代の青銅器銘文（金文）からみた漢字の世界（オンライン講座）
教職大学院	担任が進める外国語科・外国語活動の指導（オンライン研修）

Ⅲ－（６）附属学校現職教員研修講座

（令和2年度）

学校名	実施日	講座・研修会等名称
世田谷小学校	8月19日	世田谷夏季現職研修会 情報「教育のSTEAM化を考える ～新たな学びの可能性に向けて～」
	8月19日	世田谷夏季現職研修会 国語「コロナ禍での授業の質を考える」 ～これからの授業ってどうするの？子どもの学びを支える教師～
	8月22日	世田谷夏季現職研修会 体育【脱『体育』～アソビズム宣言2020～】
	12月5日	世田谷夏季現職研修会「実社会×国語科」—国語科で何を育てるのか—
小金井小学校	5月15日	学びを止めないTeams活用
	11月7日	ICT×インクルーシブ教育セミナー ～ICTに学びを救われる子はあなたのそばにいるVol.3
	12月26日	冬季道徳授業研究集会
	1月16日他15回	東京学芸大学附属小金井小学校算数部授業研究会
大泉小学校	2月23日	道徳科授業研究会
		小学校英語授業研修会(中止)
	8月30日	算数授業セミナー(練馬で算数を語る会)
	7月18日	大泉体育授業セミナー
竹早小学校	学期ごとに2回	教育実践対話の会(中止)
	8月	児童造形教育研究研修会(中止)
	2月	竹早地区算数数学授業研究会(中止)
	8月8日	道徳教育研究会「語ルシス」夏期オンラインセミナー
	12月27日	道徳教育研究会「語ルシス」冬期オンラインセミナー
	①8月29日 ②10月31日 ③2月23日	体育授業研究会Webinar
	12月26日	第24回体育授業研究会
世田谷中学校	8月	理科現職教員研修セミナー(中止)
	8月	英語科夏季現職教員研修セミナー(中止)
	8月	数学科夏季現職教員研修セミナー(中止)
	3月	数学科春季現職教員研修セミナー(中止)
	3月	社会科現職教員研修セミナー(中止)
	3月26日	英語科春季現職教員研修セミナー
小金井中学校	11月20日	教育研究協議会 講演会(中止)
竹早中学校	年3回	東京都中学校技術・家庭科研究会生物育成研研修会(中止)
	年5回	美術造形センター教育研究会
	1月	小中数学研究会(授業公開)
高等学校	授業期間中随時	授業公開(中止)
	6月1日	地理における野外実習の実際(中止)
	7月9日～11日	夏期特別実験講座物理 体験講習会(中止)
	7月9日～11日	夏期特別実験講座化学 体験講習会(中止)
	10月7日	高校国語科における演劇の鑑賞指導について(中止)
	10月27・29日	地学科公開研究会 野外観察講座(中止)
	3月17日	SSH事業報告・情報交換会
	3月26日	数学的活動を促す授業づくり
国際中等教育学校	11月21日	SSH連絡協議会
	2月13日	数学科研究会
特別支援学校		東京学芸大学生活支援ネットワークフォーラム 第16回ネットワークフォーラム(中止)
		特別なニーズのある幼児を育てる(中止)

IV . 国際交流活動

IV－（１）大学間交流協定校

（令和2年度）

	協定大学名	国・地域名	締結年	学術交流	学生交流	受入 学生数	派遣 学生数
1	新羅大学校	韓国	1995	○	○		
2	全南大学校	韓国	1997	○	○		
3	公州大学校	韓国	1998	○	○		
4	ソウル市立大学校	韓国	1998	○	○		
5	京畿大学校	韓国	2002	○	○		
6	ソウル教育大学校	韓国	2003	○	○		
7	忠南大学校	韓国	2004	○	○		
8	韓国教員大学校	韓国	2005	○	○		
9	京仁教育大学校	韓国	2008	○	○		
10	清州教育大学校	韓国	2009	○	○		
11	済州大学校	韓国	2009	○	○		
12	韓国伝統文化大学校	韓国	2009	○			
13	ソウル大学校師範大学	韓国	2014	○	○		
14	北京師範大学	中国	1995	○	○	2	1
15	東北師範大学	中国	1996	○	○		
16	蘇州大学	中国	1999	○	○		
17	香港中文大学	中国	1999	○	○		
18	華東師範大学	中国	2002	○	○		
19	上海師範大学	中国	2003	○	○		
20	香港教育大学	中国	2009	○			
21	華中師範大学	中国	2009	○	○		
22	南京師範大学	中国	2009	○	○	2	
23	湖南師範大学	中国	2009	○	○	2	
24	北京外国語大学	中国	2016	○	○		
25	国立台湾大学	台湾	2002	○	○		1
26	国立台湾師範大学	台湾	2005	○	○		
27	国立台中教育大学	台湾	2008	○	○	2	
28	モンゴル国立教育大学	モンゴル	2007	○			
29	モンゴル国立大学	モンゴル	2007	○			
30	ラオス国立大学	ラオス人民民主共和国	2015	○			
31	ベトナム国家大学ハノイ校 人文社会科学大学	ベトナム社会主義共和国	2015	○	○		
32	ベトナム国家大学ハノイ校 外国語大学	ベトナム社会主義共和国	2016	○	○		
33	タマサート大学	タイ	2000	○	○		
34	シラパコーン大学	タイ	2000	○	○		
35	コンケン大学	タイ	2015	○	○		
36	チェンマイ・ラーチャパット大学	タイ	2020	○	○		
37	インドネシア教育大学	インドネシア	2006	○	○		
38	フィリピン教育大学	フィリピン	2006	○	○		
39	アグハルカル研究所	インド	2017	○			
40	キャンベラ大学	オーストラリア	1995	○	○		
41	西シドニー大学	オーストラリア	1997	○	○		1
42	ビクトリア大学	オーストラリア	2009	○	○		
43	モナッシュ大学	オーストラリア	2019	○			
44	カンタベリー大学	ニュージーランド	2015	○	○		
45	カーセジ大学	アメリカ	1996	○	○		
46	ボールステイト大学	アメリカ	1998	○	○		
47	ハワイ大学ヒロ校	アメリカ	2002	○	○		

(令和2年度)

	協定大学名	国・地域名	締結年	学術交流	学生交流	受入 学生数	派遣 学生数
48	ブリッジウォーター州立大学	アメリカ	2016	○	○		
49	ミシガン州立大学教育学部	アメリカ	2017	○			
50	ニューヨーク州立大学コートランド校	アメリカ	2017	○			
51	セントラル・ワシントン大学	アメリカ	2019	○			
52	チアパス州立芸術科学大学	メキシコ	2013	○	○	1	
53	トリア大学第Ⅱ学部	ドイツ	1997	○	○		
54	ハイデルベルク大学	ドイツ	1999		○		
55	ミュンヘン音楽・演劇大学	ドイツ	2004	○			
56	フリードリッヒアレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク	ドイツ	2005	○	○		
57	ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所	ドイツ	2008	○	○		
58	ヤゲウォ大学	ポーランド	2008	○	○		
59	国立東洋言語文化大学	フランス	1997	○	○		
60	パリ大学	フランス	2016	○	○		
61	オルレアン大学	フランス	2016	○	○		
62	グルノーブル・アルプ大学	フランス	2017	○	○	1	
63	ノッティンガム大学	イギリス	2015	○			
64	ヨテボリ大学	スウェーデン	2000	○	○		1
65	ウメオ大学教養学部	スウェーデン	2009	○	○		
66	ダルエスサラーム大学教育学部	タンザニア	2006	○	○		
67	アスワン大学	エジプト	2018	○	○	2	
	計					12	4

IV－（2）協定校派遣留学状況

①教育系・学校教育系

類	選修・専攻	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
A類	国語	1	1		1	
	社会	1	3	1		
	数学					
	理科			2	2	
	音楽					
	美術		1			
	保健体育		1	1		
	家庭	1			1	
	英語	2	5		2	
	学校教育		1	1		
	学校心理				1	
	国際教育	1	1	2	2	
	日本語教育					
	情報教育					
	環境教育				1	
	ものづくり教育	1		0		
	ものづくり技術			1		
幼児教育						
B類	国語					
	社会			1	1	
	数学			1		
	理科					
	音楽					
	美術		1	2		
	保健体育					
	家庭					
	技術					
	英語	1	2	2	6	
書道		1	2			
C類	特別支援教育			2	3	
D類	養護教育					
計		8	17	18	20	0

該当年度派遣留学生数：前年度の選考により該当年度派遣留学生として確定した数（途中辞退者を除く。また、新型コロナウイルス感染拡大により翌年度以降へ延期した者は留学開始年度に計上する。新型コロナウイルスの影響によりオンライン留学となった者も計上する。）

②教養系・教育支援系

類	専攻	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
E類	生涯学習コース		2	2		
	カウンセリングコース					
	ソーシャルワークコース			1		
	多文化共生教育コース	1	13	16	20	2
	情報教育コース					1
	表現教育コース				1	
	生涯スポーツコース			1		
N類	生涯学習				1	
	カウンセリング					
	総合社会システム					
K類	国際教育					
	多言語多文化	5	1			
	日本語教育					
	日本研究	1				
	アジア研究	3	1			
	欧米研究	9	2			
F類	環境教育		1			
	自然環境科学					
	文化財科学					
J類	情報教育					
G類	音楽					
	美術					
	書道		1			
	表現コミュニケーション		1	1		
	生涯スポーツ					
計		19	22	21	22	3

③修士課程

専攻	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
学校教育					
学校心理					
特別支援教育	1		1		
家政教育					
国語教育					
英語教育	1		3	2	
社会科教育	2	1	1	1	
数学教育			1		
理科教育					
技術教育					
音楽教育		1	1	1	
美術教育					
保健体育	1	1		1	
養護教育					
総合教育開発		2		2	1
計	5	5	7	7	1
総計	32	44	46	49	4

IV－（3）短期留学状況

（留学期間別）

（令和2年度）

	1ヶ月未満	1～6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年以上	計
教育系・学校教育系	0	0	0	0	0
教養系・教育支援系	0	1	1	0	2
大学院修士課程	0	0	0	0	0
教職大学院	0	0	0	0	0
計	0	1	1	0	2

（地域別・男女別）

	男	女	計
アジア	1	0	1
（うち中国）	0	0	0
（うち韓国）	0	0	0
北米	0	0	0
中南米	0	0	0
ヨーロッパ	0	0	0
オセアニア	0	1	1
中東・アフリカ	0	0	0
計	1	1	2

IV- (4) 外国人留学生受入状況

(令和2年10月1日現在)

国(地域)名	正規生				非正規生											合計	
	大学院生		学部生	小計	研究生			教員研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	日本語予備教育生	特別聴講生			科目等履修生(大学院)	科目等履修生(学部)		小計
	博士	修士			研究留学生	研究生(大学院)	研究生(学部)				交換留学生(大学院)	一般プログラム	交換留学生(学部)				
中華人民共和国	9	59	12	80		1	14				1	5				21	101
韓国(大韓民国)	2	1	3	6				5								5	11
台湾			2	2								2				2	4
タイ		1		1				1								1	2
ベトナム				0	1					1						2	2
エジプト				0								2				2	2
スウェーデン		1		1												0	1
ドイツ				0					1							1	1
トルコ				0					1							1	1
フランス				0									1			1	1
ナイジェリア				0			1									1	1
インドネシア				0					1							1	1
アルゼンチン	1			1												0	1
ハンガリー				0	1											1	1
ベルギー			1	1												0	1
ロシア				0					1							1	1
ジンバブエ				0			1									1	1
ブルガリア				0					1							1	1
スリランカ				0					1							1	1
スイス				0					1							1	1
シンガポール				0			1									1	1
ガーナ				0			1									1	1
コンゴ				0			1									1	1
インド				0			1									1	1
マラウイ				0			1									1	1
マレーシア				0			1									1	1
メキシコ				0								1				1	1
計	12	62	18	92	2	1	14	14	7	1	1	10	1	0	0	51	143
国費留学生内数	2	2	0	4	2	0	0	14	7	1	0	0	0	0	0	24	28

IV－（5）教員・研究者の派遣受入状況

①学系別教員海外派遣状況(6ヶ月以上)

(令和2年度)

	総合教育 科学系	人文社会 科学系	自然科学系	芸術・スポーツ 科学系	センター
研究専念制度	1	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	0

②外国人研究者受入状況(2週間以上)

	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
協定校	0	2	1	1	0
JICA研修員	0	0	0	0	0
その他	8	5	8	8	2
計	8	7	9	9	2

IV－（6）留学生センター事業

(令和2年度)

事業名	概要	対象	
特別研修 プログラム	日本語日本文化研修プログラム	日本語日本文化研修留学生 (日研生)	
	教員研修プログラム	教員研修留学生 (教研生)	
	留学生教育プログラム (ISEP)	留学生教育プログラム生 (ISEP生)	
教育支援	日本語教育	全学留学生	
	日本理解教育	全学留学生、全学学生	
主な日本理解・国際 理解関連行事	日本科学未来館 1月8日	日研生・国費研究生	
学内および 地域交流	公立学校との交流授業	都立淵江高校:2月10日	日研生
	附属小学校との交流授業	小金井小学校:12月16日	教研生・ISEP生
	学生交流・地域散策	江戸東京たてももの園見学:11月20日	全学学生
	海外の学校教育事情 (カフェ講座)	春学期:毎週1回開催(計4回)	全学学生
生活支援関連行事	防災体験学習	立川防災館:12月23日	日研生
その他	留学生向けのメーリングリストの更新と利用	全学留学生(非正規生)	
	ソーシャルメディアを利用した修了生ネットワークの運営	修了留学生	
	大学院生(次世代日本型教育システム研究開発専攻日本語教育領域)の授業見学受け入れ	大学院生	
	第8回小金井市日本語スピーチコンテスト後援と審査員の派遣	全学留学生	

※特別研修プログラム「シラパコン大学7+1プログラム」は、2020年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施せず

V. 大学运营

V - (1) 役員会 議題一覧

第1回 令和2年4月1日(水)

- 1 学長の職務代行について

第2回 令和2年5月7日(木)～11日(月)(書面審議)

- 1 令和2年度の学長が指定する夏季休暇日の取扱いについて

第3回 令和2年5月12日(火)～14日(木)(書面審議)

- 1 新型コロナウイルス感染症に係る東京学芸大学緊急貸付奨学金制度に関する規程(案)について

第4回 令和2年6月1日(月)～3日(水)(書面審議)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒にかかる調査委員会の委員指名について

第5回 令和2年6月10日(水)

- 1 顧問の委嘱について
- 2 客員教授等候補者の選考について
- 3 令和2年度における余裕金運用管理方針(案)について
- 4 令和元年度(第16期事業年度)決算(当初案)について
- 5 交通環境整備費について

第6回 令和2年6月24日(水)

- 1 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間(平成28～31事業年度)に係る業務の実績に関する報告書(案)及び中期目標の達成状況報告書(案)について
- 2 令和元年度(第16期事業年度)決算(案)について
- 3 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について

第7回 令和2年7月1日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒について

第8回 令和2年7月8日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学男女共同参画推進本部要項の一部改正(案)について

第9回 令和2年7月22日(水)

- 1 附属学校教員・事務系職員の再雇用及び継続雇用について
- 2 令和3年度概算要求事項(案)について

第10回 令和2年9月9日(水)

- 1 新型コロナウイルス感染症に係る令和2年度授業料未納者への修学支援金に関する規程(案)について
- 2 早期退職にかかる募集実施要項(案)について
- 3 役員の退職手当に係る業績勘案分について

第11回 令和2年9月23日(水)

- 1 客員教授等候補者の選考について
- 2 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について
- 3 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒について

第12回 令和2年9月25日(金)

- 1 役員の退職手当に係る業績勘案分について
- 2 令和2年度収支予算(補正)(案)について

第13回 令和2年10月14日(水)

- 1 東京学芸大学基金管理運営規程の一部改正(案)について

第14回 令和2年10月21日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒について

第15回 令和2年10月28日(水)

- 1 役職員の給与改定の方針について
- 2 新型コロナウイルス感染症に係る東京学芸大学緊急貸付奨学金制度に関する規程の制定について
- 3 大学教員の総合的業績評価結果報告書(令和元年度)(案)について

第16回 令和2年11月11日(水)

- 1 令和3年3月末の早期退職制度による退職者について
- 2 東京学芸大学教職特待生の採用取消について
- 3 名義使用許可申請について

第17回 令和2年11月25日(水)

- 1 教員候補者選考委員会開設申請(戦略的配置教員)について

第18回 令和2年11月25日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒について

第19回 令和2年11月30日(月)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(最終案)について

第20回 令和2年12月9日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(当初案)について
- 2 附属学校教員の継続雇用について
- 3 令和3年度の学長が指定する夏季休暇日について
- 4 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について

第21回 令和2年12月23日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒について

第22回 令和3年1月20日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第32条に基づく職員の懲戒について

第23回 令和3年1月27日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(最終案)について
- 2 令和2年度収支予算(第2次補正)(案)について
- 3 令和3年度東京学芸大学予算配分の基本方針(案)について
- 4 クロスアポイントメント制度の適用について
- 5 教員候補者選考委員会開設申請書(戦略的配置教員)について
- 6 東京学芸大学小金井キャンパスリニューアル加速プラン(案)について
- 7 建物名称の検討(案)について

第24回 令和3年2月10日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（当初案）について
- 2 教員候補者選考委員会開設申請書（戦略的配置教員）について
- 3 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和2年度）（案）について

第25回 令和3年2月24日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学組織運営規程の一部改正（案）について
- 2 教員候補者選考委員会開設申請書（戦略的配置教員）について
- 3 寄附講義の更新について
- 4 令和3年度国立大学法人総合損害保険（国大協保険）の加入について
- 5 令和3年度国立大学法人役員賠償責任保険の更新について
- 6 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則第34条に基づく取扱いについて

第26回 令和3年3月1日（月）

- 1 令和3年度学部入試（前期日程）合格予定者数（原案）について

第27回 令和3年3月10日（水）

- 1 客員教授等候補者の選考について
- 2 再雇用職員（事務職員）の職務の級について
- 3 国立大学法人東京学芸大学ウェブサイト広告掲載申請について

第28回 令和3年3月17日（水）

- 1 令和3年度学部入試（後期日程）合格予定者数（原案）について

第29回 令和3年3月24日（水）

- 1 国立大学法人東京学芸大学法人文書管理規則の一部改正（案）について
- 2 国立大学法人東京学芸大学DX推進本部要項の制定について
- 3 東京学芸大学自動車入構要項の一部改正（案）について
- 4 再雇用職員（附属学校教員）の職務の級について
- 5 顧問弁護士契約について

第30回 令和3年3月25日（木）

- 1 年度計画（令和3年度）案について
- 2 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正（最終案）について
- 3 令和3年度収支予算（案）について

V - (2) 経営協議会 議題一覧

第1回 令和2年6月16日(火)～23日(火)(書面審議)

- 1 国立大学法人東京学芸大学学長選考会議委員の選出について
- 2 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間(平成28～31事業年度)に係る業務の実績に関する報告書(案)及び中期目標の達成状況報告書(案)について
- 3 令和元年度(第16期事業年度)決算(案)について
- 4 令和3年度概算要求事項(案)について

第2回 令和2年9月25日(金)

- 1 役員の退職手当に係る業績勘案分について
- 2 令和元年度自己点検評価結果(案)について
- 3 令和2年度収支予算(補正)(案)について

第3回 令和2年11月25日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(案)について

第4回 令和3年1月21日(木)

- 1 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(案)について
- 2 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書(令和2年度)(案)及び各原則の実施状況の確認について
- 3 令和2年度収支予算(第2次補正)(案)について
- 4 令和3年度東京学芸大学予算配分の基本方針(案)について

第5回 令和3年3月25日(木)

- 1 年度計画(令和3年度)案について
- 2 国立大学法人東京学芸大学職員就業規則等の一部改正(案)について
- 3 令和3年度収支予算(案)について

V - (3) 教育研究評議会 議題一覧

第1回 令和2年4月16日(木)～20日(月)(書面審議)

- 1 東京学芸大学カリキュラム実施細則の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学大学院教育学研究科(修士課程)カリキュラム実施細則の一部改正(案)について
- 3 東京学芸大学大学院教育学研究科(教職大学院の課程)カリキュラム実施細則の一部改正(案)について
- 4 令和2(2020)年度 学部授業暦の変更について
- 5 令和2(2020)年度 修士課程・教職大学院授業暦の変更について

第2回 令和2年5月12日(火)～15日(金)(書面審議)

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和3年度の教員人事の方針(最終案)について

第3回 令和2年5月18日(月)～21日(木)(書面審議)

- 1 東京学芸大学教育学部入学者選抜試験(特別選抜)実施要領の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学入学者選抜についてー基本方針ーの一部改正(案)について
- 3 令和3年度(2021年度)入学者選抜試験から新たに試験科目として「小論文」と「面接」を課す選修・専攻・コースの配点について
- 4 国際バカロレア選抜の募集要項(案)について

第4回 令和2年5月27日(水)～6月1日(月)(書面審議)

- 1 令和2年度「教育研究経費」予算配分(案)について

第5回 令和2年6月10日(水)

- 1 副議長の指名について
- 2 学長選考会議委員の選出について
- 3 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間(平成28～31事業年度)に係る業務の実績に関する報告書(案)及び中期目標の達成状況報告書(案)について
- 4 大学間交流協定更新について
- 5 令和3年度東京学芸大学入学者選抜要項(案)について

第6回 令和2年6月24日(水)

- 1 東京学芸大学教員養成開発連携センター規程の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学附属学校運営規程の一部改正(案)について
- 3 令和3年度(2021年度)に実施する入学者選抜の変更について
- 4 令和2年度若手教員等研究支援費配分額(案)について

第7回 令和2年7月8日(水)

- 1 国立大学法人東京学芸大学教育研究経費配分基準に基づく取扱いの一部改正(案)について
- 2 令和2年度「教育研究経費」予算配分(案)について
- 3 令和2年度(2020年度)に実施する入学者選抜の大学入学共通テストの数学①・数学②の配点変更について

第8回 令和2年7月22日(水)

- 1 東京学芸大学教員選考規程の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学特任教員選考要項の一部改正(案)について
- 3 学長のリーダーシップによる戦略的配置教員の選考要項の一部改正(案)について
- 4 東京学芸大学教職大学院専任教員等選考要項の一部改正(案)について
- 5 新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験期日及び試験実施上の配慮等の対応状況調査について
- 6 令和2年度(2020年度)に実施する入学者選抜の大学入学共通テストの外国語の配点変更について

第9回 令和2年9月9日(水)

- 1 東京学芸大学大学院学則の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学教職大学院(教育学研究科教育実践専門職高度化専攻)入学者の選抜基準の一部改正(案)について
- 3 国文学研究資料館との覚書締結について

第10回 令和2年9月23日(水)

- 1 令和元年度自己点検評価結果(案)について
- 2 社会福祉士国家試験受験資格取得のための本学指定科目等の変更(案)について

第11回 令和2年10月14日(水)

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和3年度の教員人事の方針(追加案)について
- 2 東京学芸大学組織再編検討委員会規程(案)について
- 3 国立大学法人東京学芸大学における大学発ベンチャーの支援に関する規程(案)について
- 4 国立大学法人東京学芸大学の研究成果等を活用した企業等への称号の授与に関する規程(案)について

第12回 令和2年10月28日(水)

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和3年度の教員人事の方針(修正案)について

第13回 令和2年11月11日(水)

- 1 令和3(2021)年度授業暦について

第14回 令和2年11月25日(水)

- 1 東京学芸大学教員の任期に関する規程の一部改正(案)について
- 2 東京学芸大学施設の有効活用に関する規程の一部改正(案)について

第15回 令和2年12月9日(水)

- 1 東京学芸大学客員教授等選考規程の一部改正(案)について
- 2 令和2年度教育研究経費(保留分及び残額)の予算配分(案)について

第16回 令和3年1月13日(水)

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和3年度の教員人事の方針(追加案)について
- 2 国立大学法人東京学芸大学外部研究費による研究に係る研究時間等の確保に関する取扱規程の制定について

- 3 国立大学法人東京学芸大学学術指導取扱規程及び東京学芸大学学術指導実施要領の改正について
- 4 クロスアポイントメント制度の適用について
- 5 大学間交流協定更新について

第17回 令和3年1月27日（水）

- 1 東京学芸大学における外部資金に係る間接経費等取扱要項の一部改正（案）について
- 2 令和3年度「学芸フロンティア科目」の開設について

第18回 令和3年2月10日（水）

- 1 東京学芸大学研究倫理規程の一部改正（案）について
- 2 名誉教授候補者について

第19回 令和3年2月24日（水）

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和3年度の教員人事の方針（追加案）について
- 2 東京学芸大学教員の任期に関する規程の一部改正（案）について
- 3 東京学芸大学こどもの学び困難支援センター規程の制定について
- 4 東京学芸大学大学院教育学研究科規程の一部改正（案）について
- 5 東京学芸大学大学院教育学研究科科目等履修生規程の一部改正（案）について

第20回 令和3年3月10日（水）

- 1 第3期中期目標・中期計画における令和3年度の教員人事の方針（追加案）について
- 2 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所と国立大学法人東京学芸大学との連携交流協定（案）について
- 3 国立大学法人東京学芸大学教育研究経費配分基準に基づく取扱いの一部改正（案）について
- 4 令和3年度「教育研究経費」予算配分（案）について

第21回 令和3年3月24日（水）

- 1 年度計画（令和3年度）（案）について
- 2 東京学芸大学次世代教育研究推進機構規程の一部改正（案）について
- 3 東京学芸大学教員の任期に関する規程の一部改正（案）について
- 4 東京学芸大学カリキュラム実施細則の一部改正（案）について
- 5 東京学芸大学学生諸資格手続等規程の一部改正（案）について
- 6 東京学芸大学附属学校運営規程の一部改正（案）について

V - (4) 委員会等一覧

令和2年10月時点

① 法人関係

※「◎」は委員長等、「○」は副委員長等

委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
1 学長特別補佐		伊東哲				
2 学長補佐		奥住秀之 澤隆史 倉持伸江 萬羽郁子 齋藤嘉則 原健二 矢嶋昭雄 藤野智子 岩田康之	木村守 菅美弥	坂口謙一 中野幸夫	鈴木聡 小森伸一 吉川文	
3 戦略評価推進本部	◎ 中島裕昭 佐々木幸寿 濱田豊彦 小嶋茂稔	奥住秀之		坂口謙一 中野幸夫	小森伸一	学長室長 戦略担当課長
4 広報戦略推進本部	◎ 松田恵示 特命講師1名	倉持伸江 加藤直樹	臼倉美里	中野幸夫	正木賢一	総務課長
5 教員養成カリキュラム改革推進本部	◎ 佐々木幸寿 ○ 濱田豊彦 ○ 小嶋茂稔 金子一彦(附属運営部長)	岩田康之 矢嶋昭雄 原健二	木村守	坂口謙一	山田一美 佐藤善人	学務部長
6 教育実践研究推進本部	○ 松田恵示 ◎ 小嶋茂稔 狩野賢司	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	研究・連携推進課長 財務課長
① 各学系紀要編集会議		◎ 君塚仁彦 ○ 橋本美保 松尾直博 澤隆史 南道子 矢嶋昭雄 前原健二 橋本創一	◎ 加賀美雅弘 ○ 佐藤正光 若林恵 椿真智子 山口恵子	◎ 國仙久雄 ○ 松本益明 宮地淳一 日高慎 坂口謙一 樫山淳雄	◎ 及川研 ○ 清野泰行 中野孝紀 神戸周 朝倉隆司	
7 国際戦略推進本部	◎ 川手圭一 ○ 中島裕昭	岩田康之 有澤知乃 見世千賀子 前原健二 下田誠	木村守 椿真智子 菅美弥 范文玲	佐藤たまき		国際課長
8 社会連携推進本部	◎ 松田恵示	杉森伸吉 田中比呂志		吉原伸敏	○ 欽矢悦朗	研究・連携推進課長
9 男女共同参画推進本部	◎ 中島裕昭 関田義博(附属参事)	倉持清美	及川英二郎	○ 堂園いくみ	尾関幸	恩田実奈子
10 PD推進本部	◎ 中島裕昭 金子一彦(附属運営部長)	君塚仁彦 下田誠	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	○ 事務局長 学務部長 総務部長
11 情報基盤整備推進本部	◎ 川手圭一	森本康彦 細川太輔 和田正人 加藤直樹	○ 木村守 南浦凉介	樫山淳雄	正木賢一	総務課長 情報基盤課長
12 教員人事会議	◎ 中島裕昭 ○ 佐々木幸寿 上記以外の副学長	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	
13 アドミッションオフィス	◎ 濱田豊彦	○ 藤野智子 伊藤秀樹 西村圭一	椿真智子	前田優	石崎秀和	入試課長 広報室長
14 教育研究評議会	◎ 学長 ○ 中島裕昭 上記以外の理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	君塚仁彦 藤野博 矢嶋昭雄	加賀美雅弘 北澤尚 久邇良子	國仙久雄 新田英雄 竹内伸子 宮寺庸造	及川研 石橋史生 宮里明人	
① 予算専門委員会	◎ 小熊浩	君塚仁彦	○ 加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	財務・研究推進部長
15 学長選考会議	佐々木幸寿 松田恵示 竹原和泉 経営協議会学外委員4名	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	
16 危機管理会議	◎ 学長 ○ 中島裕昭 上記以外の理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄 新田英雄	及川研	学務部長 総務部長 財務・研究推進部長
17 施設整備会議	◎ 中島裕昭 金子一彦(附属運営部長)	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	○ 事務局長 財務・研究推進部長
18 情報公開・個人情報保護会議	◎ 学長 ○ 中島裕昭 川手圭一(図書館長)	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄 新田英雄	及川研	事務局長
19 地球温暖化対策会議	◎ 中島裕昭 上記以外の理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	学務部長 総務部長 財務・研究推進部長 施設課長
20 発明審査会議	◎ 中島裕昭 ○ 小嶋茂稔					
21 安全衛生委員会	◎ 中島裕昭	大森美湖 池田一成	加賀美雅弘 日高智彦	國仙久雄 松本益明	尾関幸	事務局長 志摩智徳 田家和樹

②大学関係

委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
1 部局長会	◎ 学長 理事、副学長 金子一彦(附属運営部長)	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄 新田英雄	及川研	学務部長 総務部長 財務・研究推進部長
2 教授会 ※講座主任のみ掲載		橋本美保 松尾直博 澤隆史 南道子 矢嶋昭雄	佐藤正光 若林恵 椿真智子 山口恵子	宮地淳一 松本益明 日高慎 坂口謙一	中野孝紀 清野泰行 神戸周 朝倉隆司	
3 全学教室主任会	濱田豊彦 佐々木幸寿	◎ 君塚仁彦 腰越滋 工藤浩二 水崎誠 小山英恵 澤隆史 渡瀬典子 吉富友恭 柴田彩千子 松尾直博 奥住秀之 森本康彦 加藤泰弘	◎ 加賀美雅弘 黒石陽子 臼倉美里 赤間祐介 露木信介 水津嘉克 近藤弘幸	◎ 國仙久雄 宮地淳一 原田和雄 藤井和人 南葉宗弘	◎ 及川研 吉川文 速水敬一郎 佐藤善人 荒川雅子 久保田浩史	
4 大学院教育学研究科運営委員会	◎ 佐々木幸寿 松田恵示 濱田豊彦	君塚仁彦 矢嶋昭雄 浅野あい子 赤羽寿夫 山内雅弘 齋藤ひろみ 大澤克美 西村圭一 原健二 花澤洋太 鈴木秀人 大谷忠 倉持清美 馬場哲生 北澤武 吉田伊津美 渡邊正樹 村山拓 見世千賀子 金子真理子 小柳知代 加瀬進 福井里江	加賀美雅弘	國仙久雄 中野幸夫	及川研 小森伸一 萱のり子	
① 入試部会		◎ 馬場哲生 北澤武 吉田伊津美 (~R2.8) 平野麻衣子 (R2.9~) 渡邊正樹 倉持清美	○ 大澤千恵子	佐藤尚毅	正木賢一	
5 教員養成高度化プロジェクト実施委員会		藤野智子 佐見由紀子 平田昭雄	○ 北澤尚 浅野智彦	望月高昭 荒川悦雄	◎ 鈴木直樹 中地雅之	学務課長
6 大学院連合学校教育学研究科委員会	小嶋茂稔	関口貴裕 鈴木秀人 大伴潔		◎ 新田英雄		
7 大学院連合学校教育学研究科運営委員会	◎ 小嶋茂稔	○ 鈴木秀人 ○ 大伴潔 関口貴裕 古屋恵太 遠座知恵 高橋純 橋本創一 藤野博 澤隆史 馬場哲生 田中比呂志 倉持清美 森本康彦	湯浅佳子 久邇良子	土橋一仁 前田優 新田英雄	鉄矢悦朗 山本訓久 鈴木明哲 竹鼻ゆかり	
8 学校教育学研究論集編集委員会		遠座知恵 及川恵 奥住秀之	○ 千田洋幸 川崎誠司	佐藤たまき 樋山淳雄	◎ 奥村基生 相田隆司	
9 センター機構運営会議	◎ 佐々木幸寿 狩野賢司 松田恵示 中島裕昭 濱田豊彦	南道子 岩田康之	木村守 椿真智子	松浦執	繁田進 竹鼻ゆかり	

	委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
10	附属学校運営会議	◎狩野賢司 金子一彦(附属運営部長) 古家眞(附属参事) 林正太(附属参事) 関田義博(附属参事) 大野弘(附属学校長) 山田有希子(附属学校副校長) 細井宏一(附属学校統括副校長) 鈴木雄治(附属学校統括副校長)		大井田義彰	鎌田正裕		事務局長
	① 附属学校校長・副校長会	◎狩野賢司 金子一彦(附属運営部長) 古家眞(附属参事) 林正太(附属参事) 関田義博(附属参事) 大野弘(附属高校長) 荻野勉(附属国際中等校長) 附属学校副校団長12名	杉森伸吉 福本みちよ	大井田義彰 内田賢	鎌田正裕 坂口謙一 藤本光一郎	朝野浩行 鈴木明哲	
	② 附属学校スクールライフ委員会	◎金子一彦(附属運営部長) ○古家眞(附属参事) 林正太(附属参事) 関田義博(附属参事) 大野弘(附属高校長) 荻野勉(附属国際中等校長)	杉森伸吉 福本みちよ	大井田義彰 内田賢	鎌田正裕 坂口謙一 藤本光一郎	朝野浩行 鈴木明哲	附属学校課長
11	高大接続による教員養成プログラム 実施委員会	◎濱田豊彦 林正太(附属参事) 附属学校教員4名	腰越滋	日高智彦	○植松晴子	鈴木聡	学務部長
12	教務委員会		○萬羽郁子 倉持伸江	伊藤かおり	田中心 南葉宗弘	◎山田一美	学務課長
	① 情報教育授業運営部会		小林巖 北澤武 森本康彦 加藤直樹	出口雅敏	◎南葉宗弘 ○今井慎一	萱のり子	
	② 諸資格取得指導部会		◎倉持伸江 ○水崎誠 吉富友恭 前田稔 柴田彩千子	石井正巳 及川英二郎 梅山佐和 橋村修 近藤弘幸	荒川悦雄 日高慎 新免歳靖 服部哲則 吉原伸敏	古瀬政弘	
13	教育実習委員会	古家眞(附属参事) 林正太(附属参事) 関田義博(附属参事) 特命教授1名	◎山田雅彦 南道子 櫻井眞治 宮内卓也	○松川誠一	前田優	竹鼻ゆかり	学務課長
	① 教育実習実施部会	古家眞(附属参事) 林正太(附属参事) 関田義博(附属参事) 特命教授1名 附属学校教員 12名	◎南道子 ○櫻井眞治 大村龍太郎 村山拓 藤田智子 宮内卓也 大森美湖	中村和弘 阿戸昌彦 渡部竜也	中村光一 吉永裕介 高橋修	石橋史生 山田一美 佐藤耕平	学務課長
14	学生委員会		田中敬文 宮内卓也	○井ノ口哲也 赤間祐介	◎小林晋平 松浦執	野田清隆 尾関幸	学生課長
15	学部入試委員会		村山拓 工藤浩二	◎稲見正浩 鈴木猛	○山ノ内毅彦 FERJANI ALI	石井壽郎 鈴木直樹	入試課長
16	教員免許状更新講習実施委員会	林正太(附属参事)	○齋藤ひろみ 伊東哲 赤羽寿夫 田中比呂志 平田昭雄 西村德行 加藤泰弘 佐見由紀子 渡瀬典子 和田正人 平野麻衣子 渡邊正樹 小林巖 小林正幸 松井智子	大田信良 李修京 松川誠一 范文玲	◎宮寺庸造 相原琢磨 望月高昭 山本昭範	小林大作	大学院課長

	委員会等名	学長・理事・副学長等	総合教育科学系	人文社会科学系	自然科学系	芸術・スポーツ科学系	事務局
17	学術情報会議	◎ 川手圭一	○ 君塚仁彦 前田稔	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	総務部長
18	研究倫理委員会	◎ 小嶋茂稔	○ 小山英恵 大森美湖	苦米地伸	山本昭範	鈴木琴子	
19	情報セキュリティ会議	◎ 川手圭一 金子一彦(附属運営部長)	君塚仁彦	○ 木村守 加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	事務局長
20	環境安全委員会				◎ 前田優 ○ 佐藤公法 狩野賢司 原田和雄		研究・連携推進課長 財務課長 施設課長
21	キャンパスライフ委員会		◎ 梶井芳明 伊東哲 榊原知美 大森美湖	○ 青木久 水津嘉克 白勢彩子	佐藤たまき 樋山淳雄	仲宗根森敦 石崎秀和	学務部長 総務部長
	① 心理的支援のための専門委員		大河原美以 福井里江 大森美湖				
	② 相談員		山田雅彦 齋藤ひろみ	川崎誠司 佐藤雄一郎 高山芳樹 范文玲 李修京	新免歳靖 望月高昭	横山和彦 鈴木琴子	野尻久美子 茂木三千代 七条太郎
22	総合学生支援機構	◎ 濱田豊彦 中島裕昭	君塚仁彦 岩田康之 梶井芳明	加賀美雅弘	國仙久雄 小林晋平	及川研	学務部長
23	現職教員研修推進機構	◎ 狩野賢司 関田義博(附属参事) 附属学校副校長1名 助教1名	○ 伊東哲 大伴潔 増田謙太郎 齋藤嘉則 松尾直博 粕谷恭子 前原健二 下田誠		松浦執 吉原伸敏		大学院課長
24	学生相談室	◎ 濱田豊彦 特命教授 6名					
25	学生キャリア支援室	◎ 濱田豊彦 特命教授 15名	原健二 腰越滋 池田一成 水崎誠 戸田孝子 大鹿綾 藤田智子 北澤武 大河原美以 増田謙太郎 成田慎之介 花澤洋太 粕谷恭子 伊藤秀樹 小柳知代 福井里江 加瀬進	中村純子 阿戸昌彦 日高智彦 牛垣雄矢 及川英二郎 稲見正浩 赤間祐介 羽方康恵 浅野智彦 露木信介 小澤英実 久邇良子 宿谷晃弘	堂園いくみ 中西史 松本益明 前田優 Ferjani Ali 中田正隆 藤井和人 服部哲則 南葉宗弘 中野幸夫	吉川文 小森伸一 速水敬一郎 石井健 鈴木直樹 荒川雅子 中島裕昭 神戸周	
26	障がい学生支援室		◎ 奥住秀之 澤隆史 大鹿綾 藤野博 大森美湖 小林玄		中野幸夫		学務課長 学生課長
27	大学院第一種奨学金返還免除候補者選考協議会	学長 ◎ 濱田豊彦	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄 新田英雄	及川研	学生課長
28	利益相反会議	◎ 小嶋茂稔	君塚仁彦	加賀美雅弘	國仙久雄	及川研	事務局長 財務・研究推進部長

V - (5) 令和2年度収入・支出予算額

(単位:千円)

区 分	令和2年度 当初予算	令和2年度 補正予算	令和3年度 当初予算	当初予算 増減	備 考
(収入の部)	(A)	(B)	(C)	(D=C-A)	
自己収入	3,652,742	3,667,790	3,594,881	△ 57,861	
学生納付金	3,456,205	3,441,745	3,405,644	△ 50,561	
授業料収入	3,020,694	2,982,478	3,005,915	△ 14,779	
授業料収入減(休学・除籍)	△ 89,490	△ 60,066	△ 89,490	0	
授業料収入減(定員未充足分)	0	0	△ 34,827	△ 34,827	
入学料収入	414,319	408,651	413,634	△ 685	
検定料収入	110,682	110,682	110,412	△ 270	
その他の収入	196,537	226,045	189,237	△ 7,300	
職員宿舍貸付料収入	56,014	56,014	49,264	△ 6,750	
寄宿料収入	16,570	16,570	15,904	△ 666	
学校財産貸付料収入	23,565	19,556	23,614	49	
刊行物等受払代	1,307	369	1,200	△ 107	
講習料収入	49,594	1,631	23,458	△ 26,136	
不用物品売払代	633	633	665	32	
大学入試センター試験実施経費収入	12,378	12,378	11,981	△ 397	
科学研究費補助金等間接経費収入	25,500	51,000	51,000	25,500	
受託研究・共同研究間接経費収入	1,000	2,000	2,000	1,000	
雑入	9,976	65,894	10,151	175	
運営費交付金	8,057,721	8,062,455	7,950,741	△ 106,980	
収入計	11,710,463	11,730,245	11,545,622	△ 164,841	

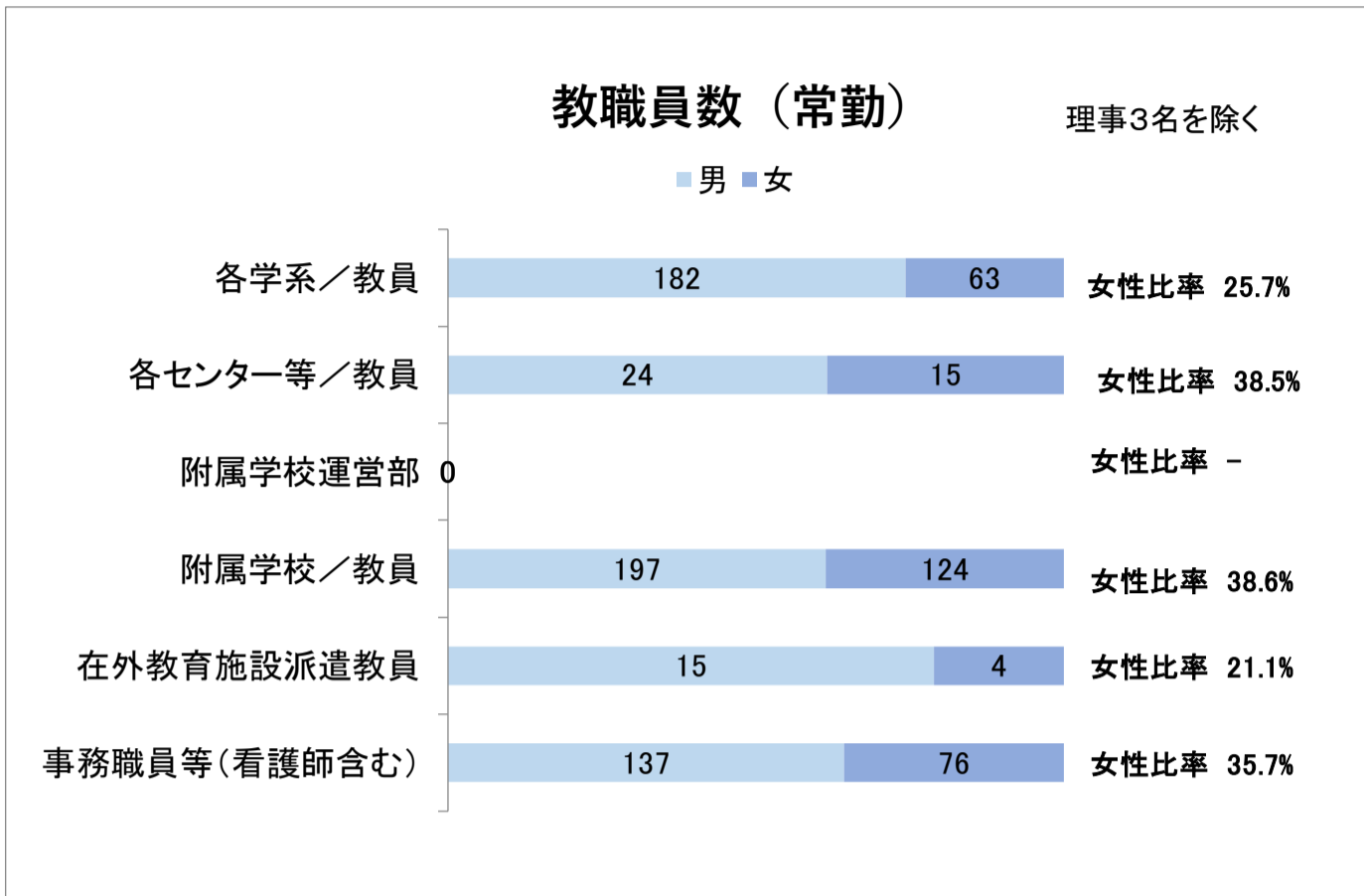
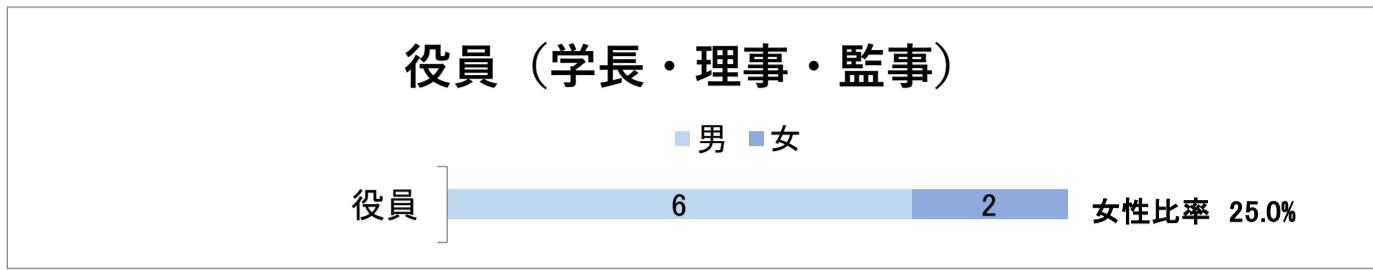
(単位:千円)

区 分	令和2年度 当初予算	令和2年度 補正予算	令和3年度 当初予算	当初予算 増減	備 考
(支出の部)	(A)	(B)	(C)	(D=C-A)	
大学分	7,974,625	7,991,161	7,795,594	△ 179,031	
人件費	6,393,566	6,376,801	6,178,699	△ 214,867	
役員人件費	101,179	100,888	77,890	△ 23,289	
教員人件費	3,304,962	3,295,463	3,125,544	△ 179,418	
職員人件費	1,624,345	1,619,677	1,634,345	10,000	
退職手当	609,346	609,346	570,909	△ 38,437	
外国人教師給与	31,861	31,861	31,366	△ 495	
外国人研究員給与	4,614	4,614	4,688	74	
非常勤講師給与	410,571	408,264	429,599	19,028	
非常勤職員給与	306,688	306,688	304,358	△ 2,330	
物件費	1,581,059	1,614,360	1,616,895	35,836	
教育経費	630,704	648,206	561,947	△ 68,757	
うち授業料免除実施経費	(157,342)	(162,076)	(157,342)		
研究経費	169,252	163,992	195,199	25,947	
教育研究支援経費	184,736	192,124	204,544	19,808	
一般管理費	596,367	610,038	655,205	58,838	
附属学校分	3,394,936	3,452,401	3,369,293	△ 25,643	
教員人件費	2,972,214	2,963,672	2,943,719	△ 28,495	
非常勤講師給与	90,805	97,546	93,657	2,852	
教育経費	331,917	391,183	331,917	0	
連合大学院分					
教育経費	92,061	87,061	92,061	0	
トップマネジメント経費	136,000	136,000	182,000	46,000	
教育研究設備整備費	42,841	34,917	36,674	△ 6,167	
教育研究施設維持改善経費	20,000	20,000	20,000	0	
調整費	50,000	8,705	50,000	0	
支出計	11,710,463	11,730,245	11,545,622	△ 164,841	

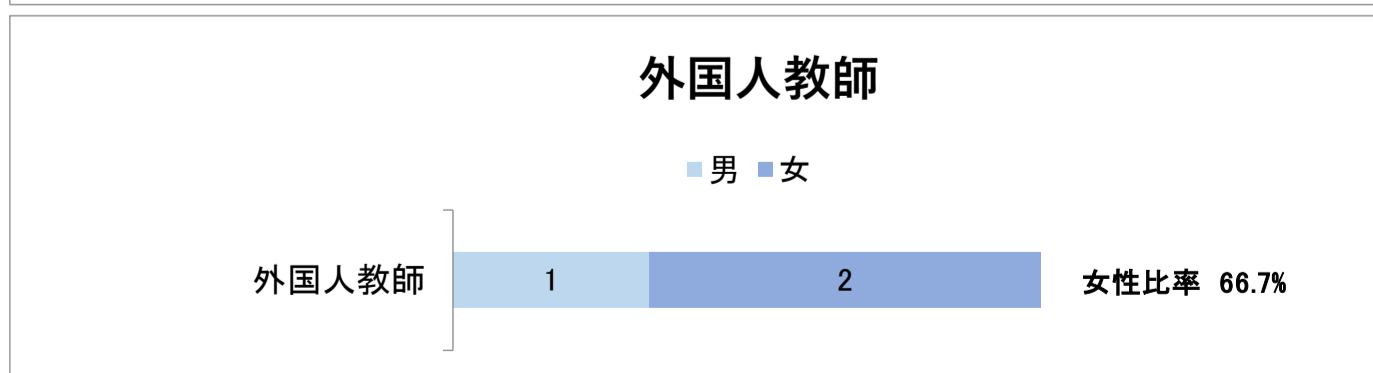
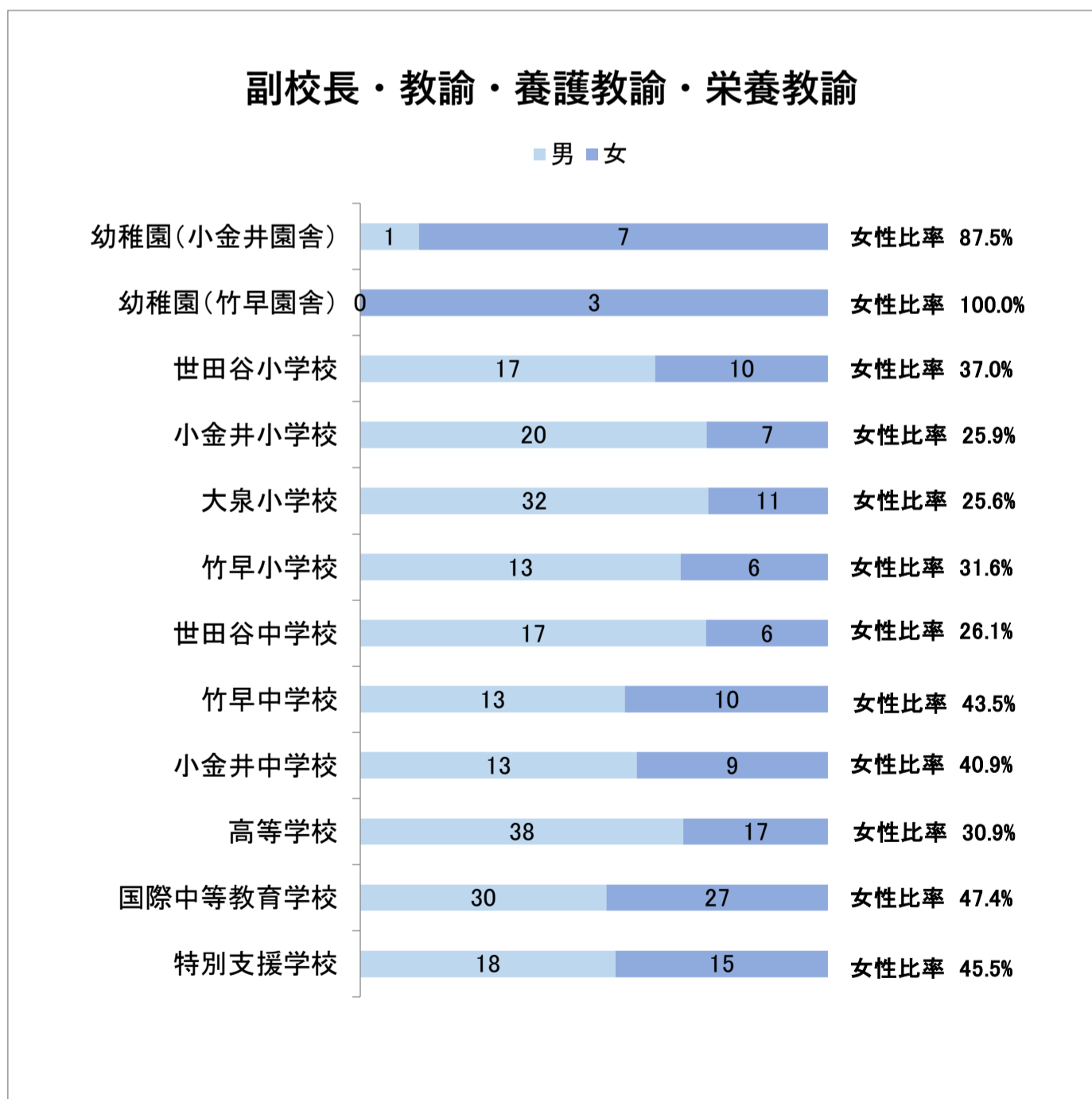
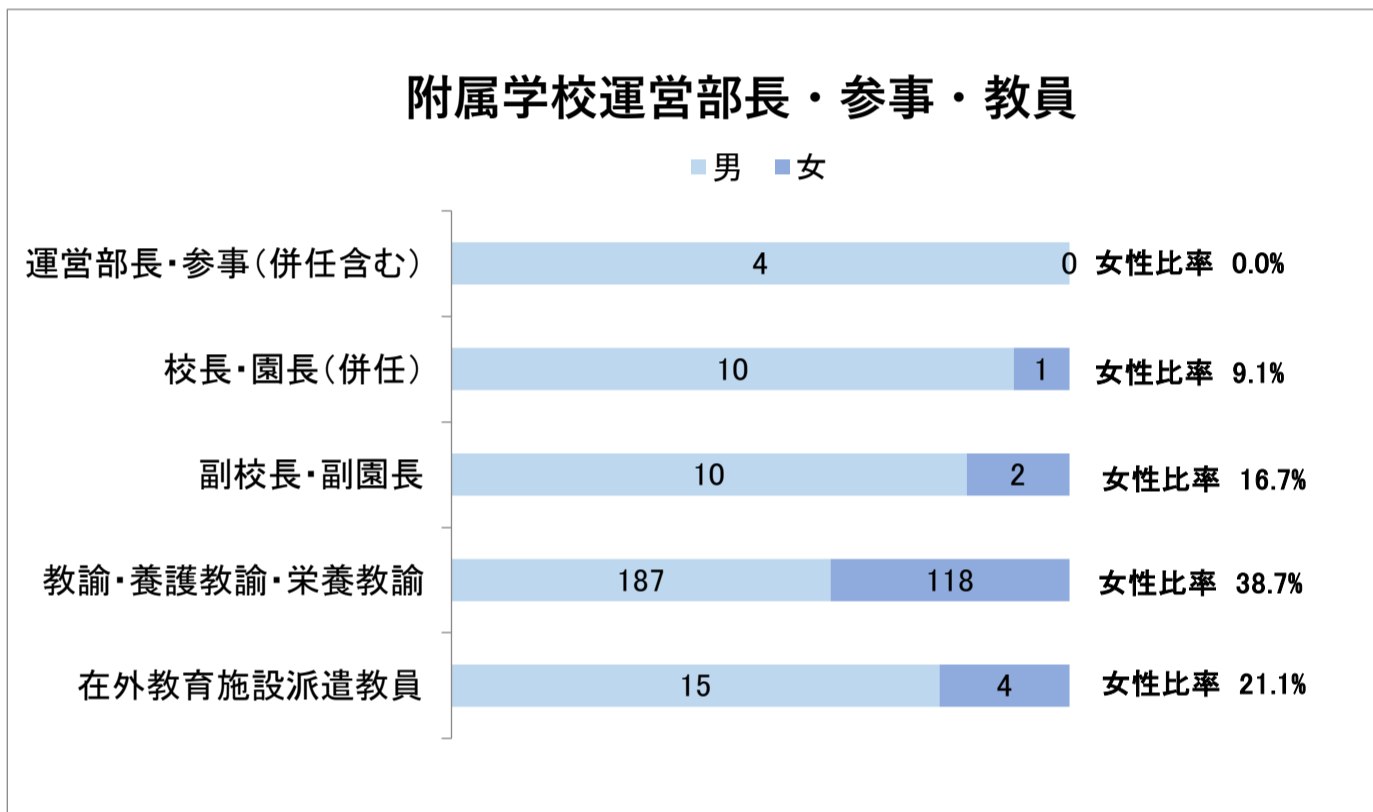
本収支予算額は、運営費交付金対象事業を対象としており、受託事業等対象事業、施設整備・設備整備費対象事業等は含まない。

V - (6) 男女共同参画の現状

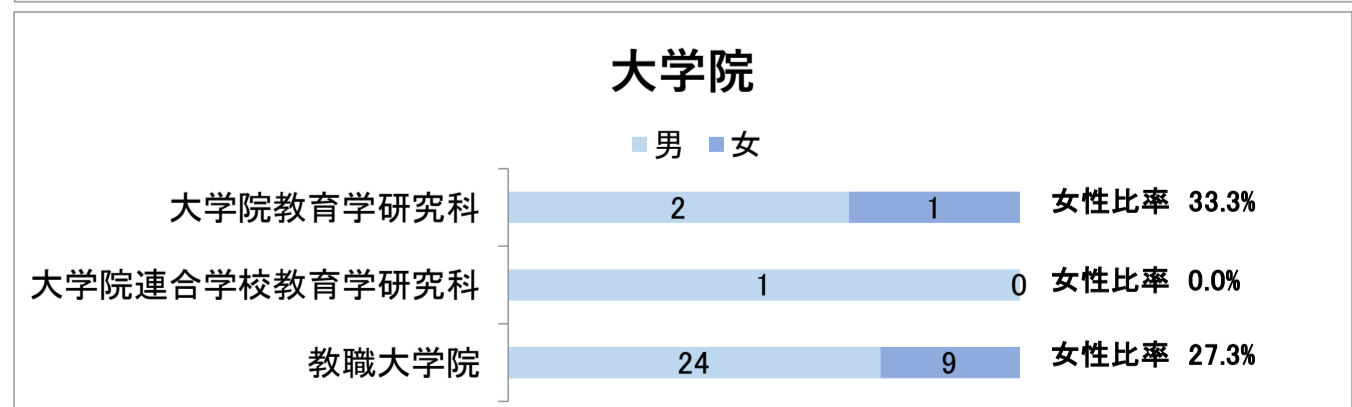
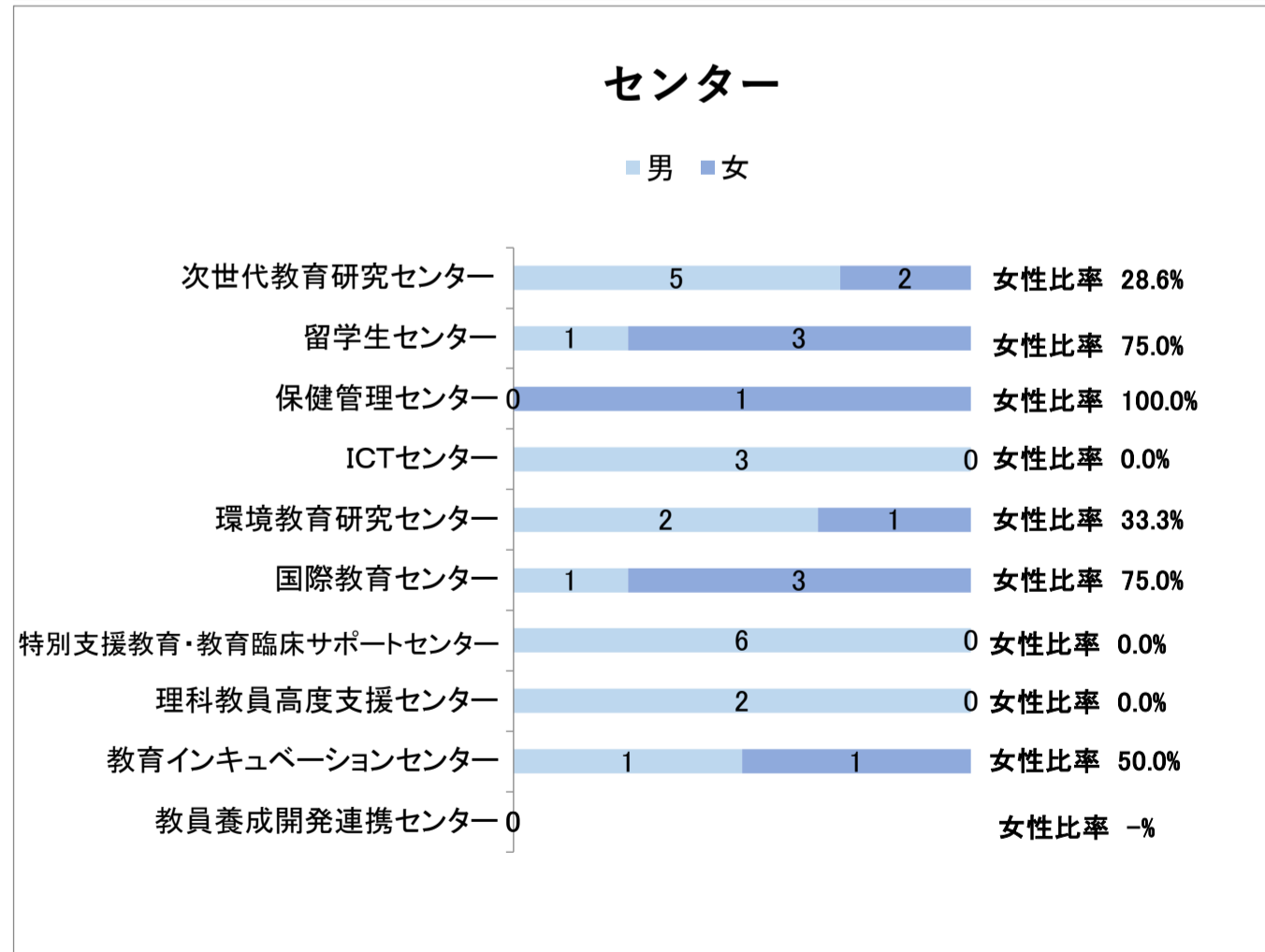
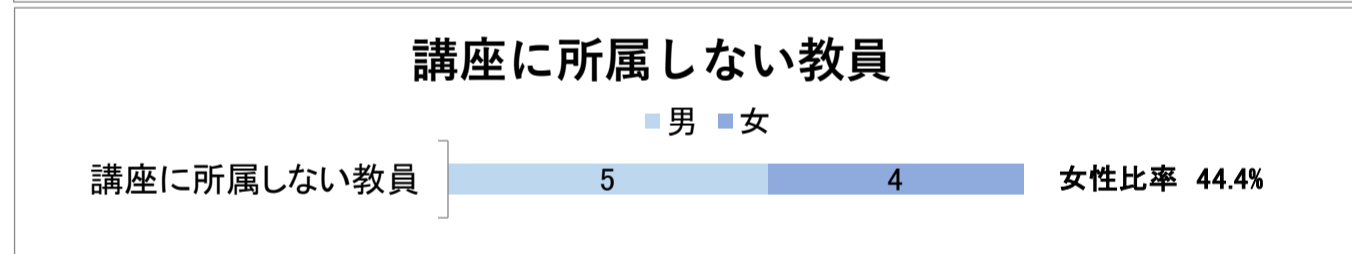
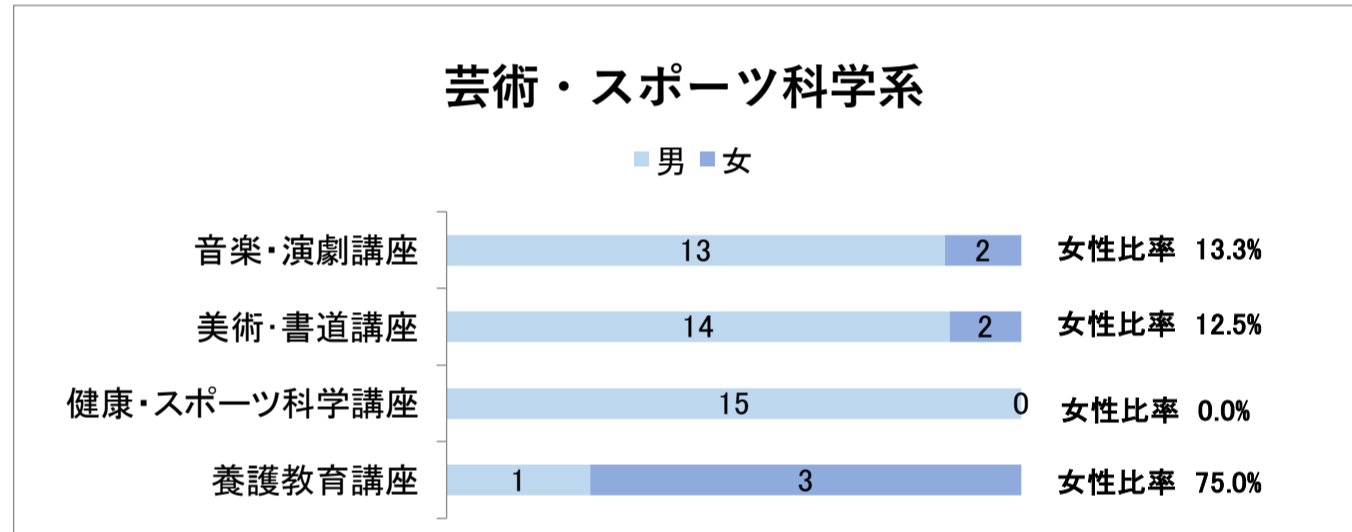
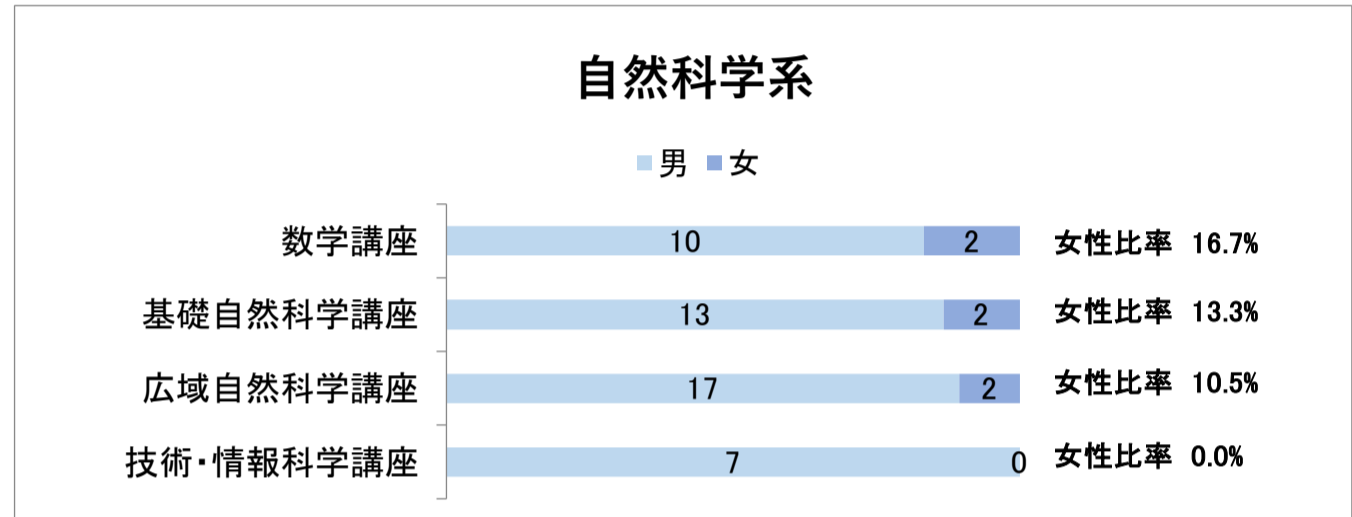
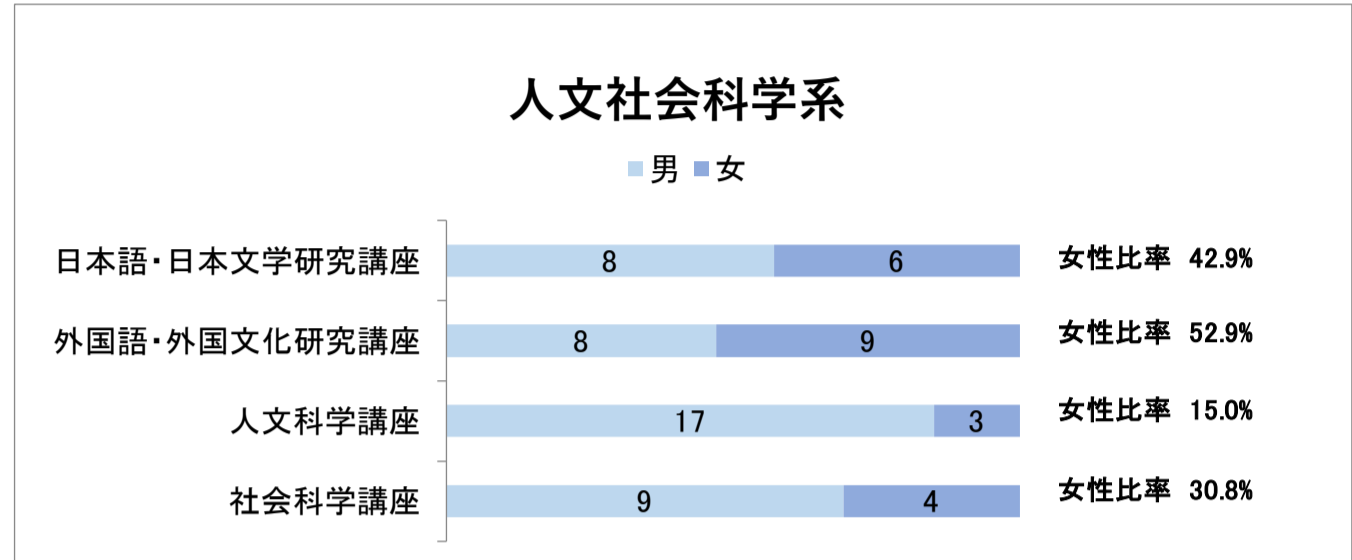
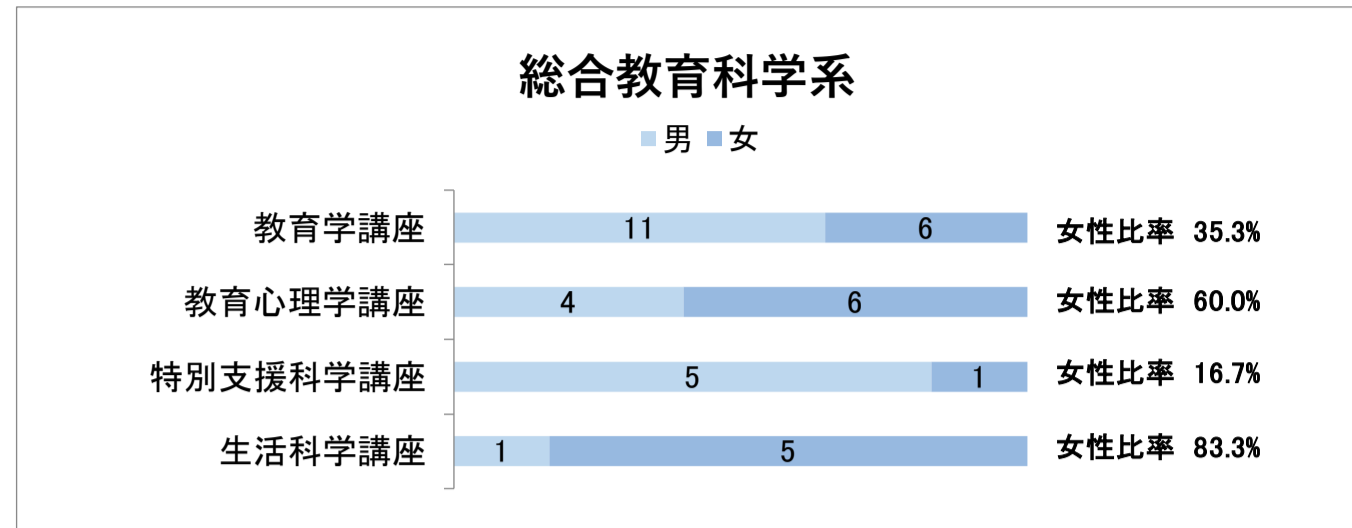
① 役員・教職員の女性比率



各学系の教員数は、大学院を含む。
附属学校運営部の教職員数は、大学教員の併任を除く。



② 講座・センター別女性比率



令和2年10月1日現在
大学教員には、役員を含めない。
教員数は専任教員のみで、併任者及び兼務者を除く。

③講座・センター別女性比率

<教育学部> (理事3名除く)

学系	講座	教授				准教授				講師・助教				計			
		計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)
総合教育科学系	教育学講座	3	2	1	33.3	12	8	4	33.3	2	1	1	50.0	17	11	6	35.3
	教育心理学講座	5	3	2	40.0	5	1	4	80.0	0	0	0	-	10	4	6	60.0
	特別支援科学講座	4	4	0	0.0	1	1	0	0.0	1	0	1	100.0	6	5	1	16.7
	生活科学講座	1	0	1	100.0	5	1	4	80.0	0	0	0	-	6	1	5	83.3
	計	13	9	4	30.8	23	11	12	52.2	3	1	2	66.7	39	21	18	46.2
人文社会科学系	日本語・日本文学研究講座	9	6	3	33.3	4	2	2	50.0	1	0	1	100.0	14	8	6	42.9
	外国語・外国文化研究講座	9	6	3	33.3	4	1	3	75.0	4	1	3	75.0	17	8	9	52.9
	人文科学講座	11	9	2	18.2	9	8	1	11.1	0	0	0	-	20	17	3	15.0
	社会科学講座	7	5	2	28.6	3	3	0	0.0	3	1	2	66.7	13	9	4	30.8
	計	36	26	10	27.8	20	14	6	30.0	8	2	6	75.0	64	42	22	34.4
自然科学系	数学講座	4	3	1	25.0	5	4	1	20.0	3	3	0	0.0	12	10	2	16.7
	基礎自然科学講座	7	7	0	0.0	7	6	1	14.3	1	0	1	100.0	15	13	2	13.3
	広域自然科学講座	8	8	0	0.0	8	6	2	25.0	3	3	0	0.0	19	17	2	10.5
	技術・情報科学講座	4	4	0	0.0	2	2	0	0.0	1	1	0	0.0	7	7	0	0.0
	計	23	22	1	4.3	22	18	4	18.2	8	7	1	12.5	53	47	6	11.3
芸術・スポーツ系	音楽・演劇講座	9	8	1	11.1	6	5	1	16.7	0	0	0	-	15	13	2	13.3
	美術・書道講座	12	10	2	16.7	4	4	0	0.0	0	0	0	-	16	14	2	12.5
	健康・スポーツ科学講座	5	5	0	0.0	9	9	0	0.0	1	1	0	0.0	15	15	0	0.0
	養護教育講座	2	1	1	50.0	0	0	0	-	2	0	2	100.0	4	1	3	75.0
	計	28	24	4	14.3	19	18	1	5.3	3	1	2	66.7	50	43	7	14.0
講座に所属しない教員		5	5	0	0.0	0	0	0	-	4	0	4	100.0	9	5	4	44.4
教育学部 計		105	86	19	18.1	84	61	23	27.4	26	11	15	57.7	215	158	57	26.5
センター	次世代教育研究センター	5	4	1	20.0	2	1	1	50.0	0	0	0	-	7	5	2	28.6
	留学生センター	2	1	1	50.0	2	0	2	100.0	0	0	0	-	4	1	3	75.0
	保健管理センター	0	0	0	-	1	0	1	100.0	0	0	0	-	1	0	1	100.0
	ICTセンター	2	2	0	0.0	1	1	0	0.0	0	0	0	-	3	3	0	0.0
	環境教育研究センター	2	2	0	0.0	1	0	1	100.0	0	0	0	-	3	2	1	33.3
	国際教育センター	2	1	1	50.0	2	0	2	100.0	0	0	0	-	4	1	3	75.0
	特別支援教育・教育臨床サポートセンター	6	6	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-	6	6	0	0.0
	理科教員高度支援センター	0	0	0	-	2	2	0	0.0	0	0	0	-	2	2	0	0.0
	教育インキュベーションセンター	1	1	0	0.0	1	0	1	100.0	0	0	0	-	2	1	1	50.0
	教員養成開発連携センター	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
計	20	17	3	15.0	12	4	8	66.7	0	0	0	-	32	21	11	34.4	
大学院	大学院教育学研究科	1	1	0	0.0	2	1	1	50.0	0	0	0	-	3	2	1	33.3
	大学院連合学校教育学研究科	1	1	0	0.0	0	0	0	-	0	0	0	-	1	1	0	0.0
	教職大学院	21	16	5	23.8	10	7	3	30.0	2	1	1	50.0	33	24	9	27.3
	計	23	18	5	21.7	12	8	4	33.3	2	1	1	50.0	37	27	10	27.0
センター・大学院 計		43	35	8	18.6	24	12	12	50.0	2	1	1	50.0	69	48	21	30.4
総 計		148	121	27	18.2	108	73	35	32.4	28	12	16	57.1	284	206	78	27.5

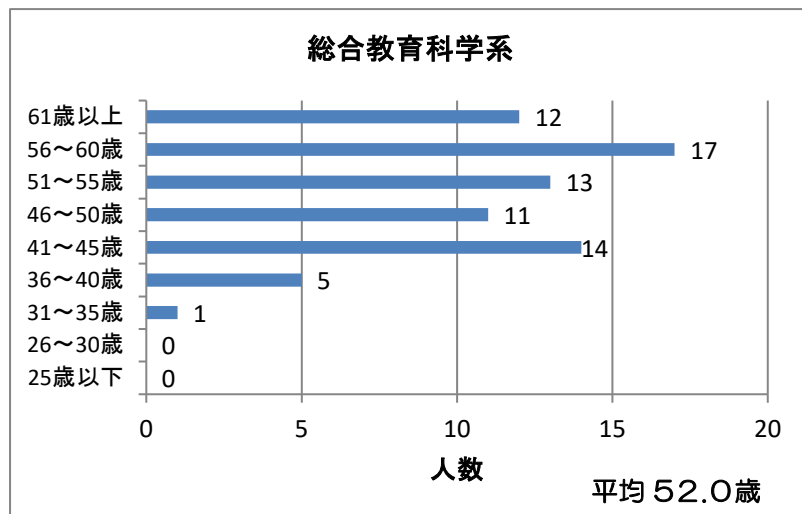
④過去5年間の女性比率の状況

	平成28年10月1日現在				平成29年10月1日現在				平成30年10月1日現在				令和元年10月1日現在				令和2年10月1日現在			
	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)	計	男	女	女性比率 (%)
大学教員(常勤) (理事除く)	330	246	84	25.5	329	245	84	25.5	316	237	79	25.0	306	226	80	26.1	284	206	78	27.5
事務職員等(常勤)	218	148	70	32.1	220	146	74	33.6	218	146	72	33.0	214	139	75	35.0	213	137	76	35.7
附属学校運営部・附属 学校教員(常勤)	322	205	117	36.3	322	207	115	35.7	325	207	118	36.3	320	203	117	36.6	321	197	124	38.6
計	870	599	271	31.1	871	598	273	31.3	859	590	269	31.3	840	568	272	32.4	818	540	278	34.0

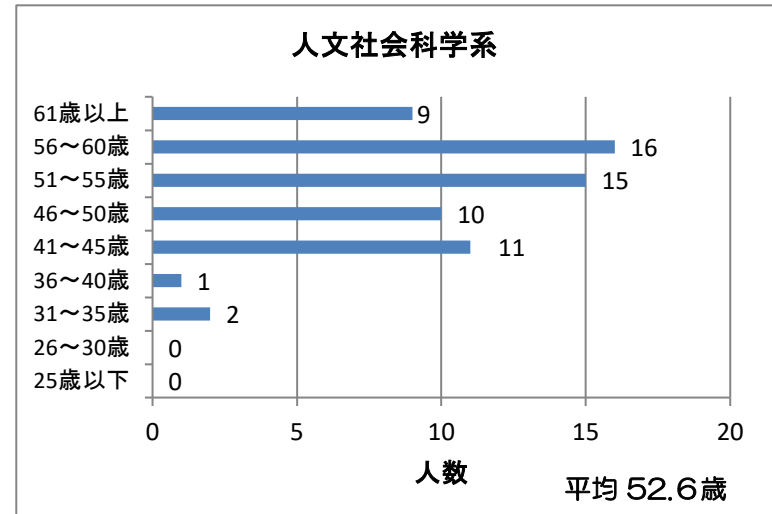
附属学校運営部・附属学校教員(常勤)には、在外教育施設派遣教員を除く。
附属学校運営部には、大学教員の併任を除く。

V - (7) 教職員の年齢構成

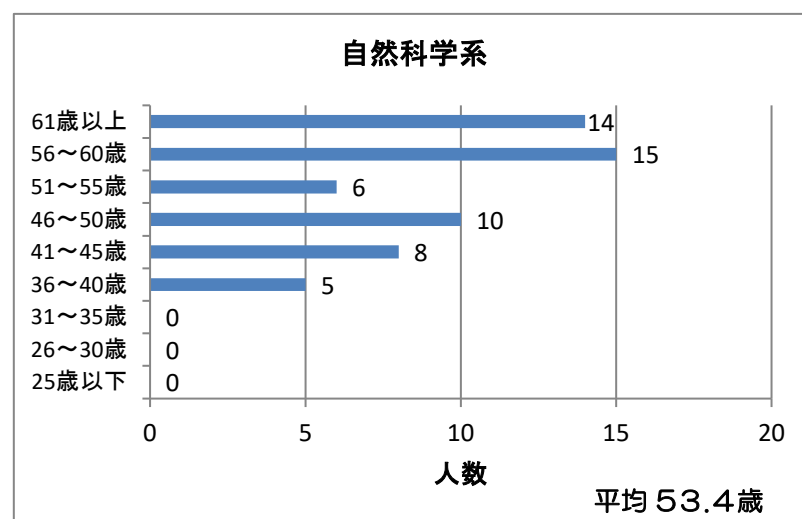
教職員人数は令和2年10月1日現在
年齢は令和3年3月31日現在



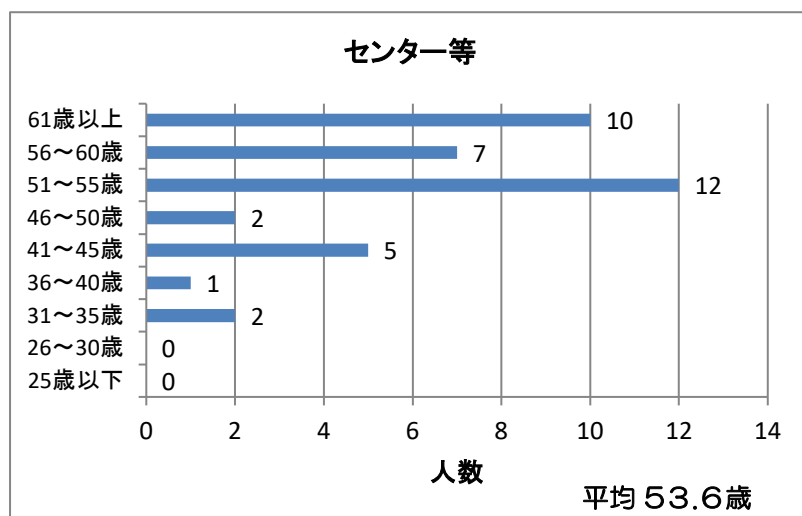
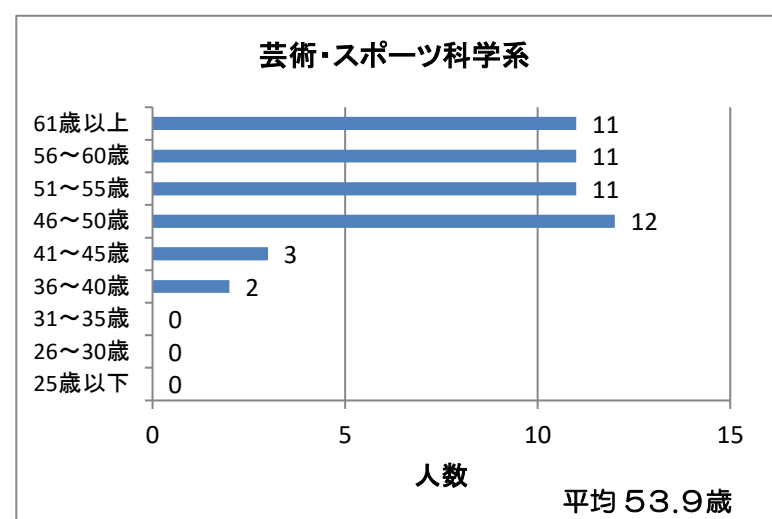
大学院連合学校教育学研究科及び教職大学院を含む。



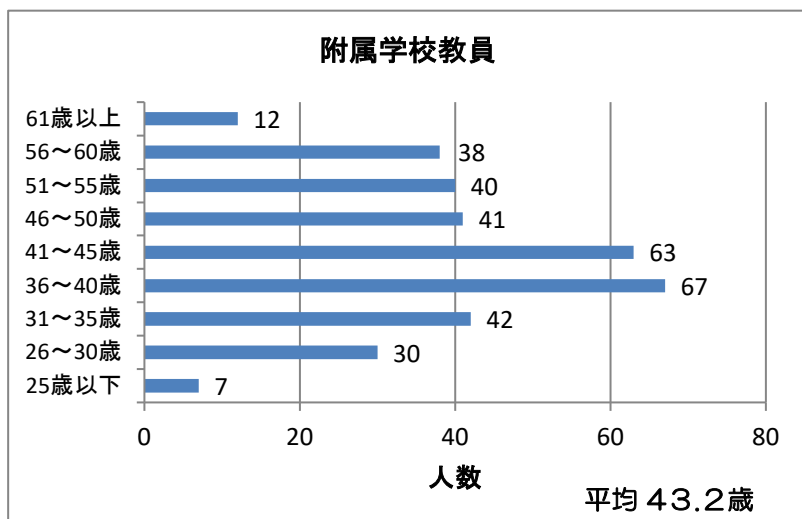
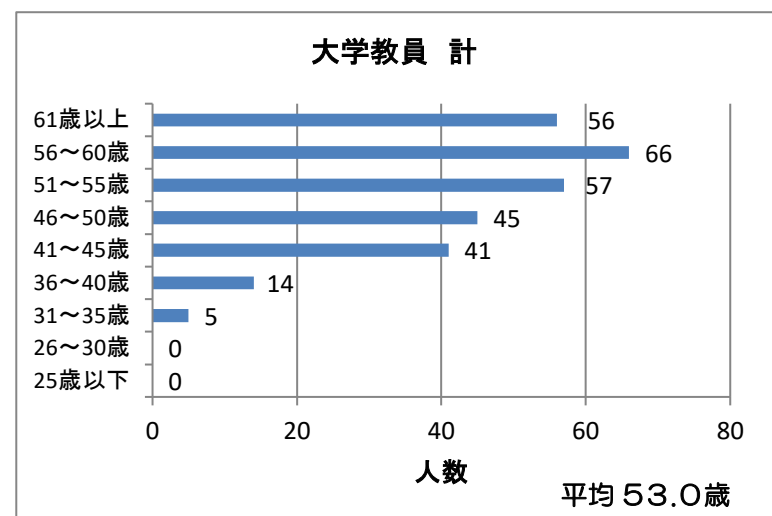
外国人教師を含む。



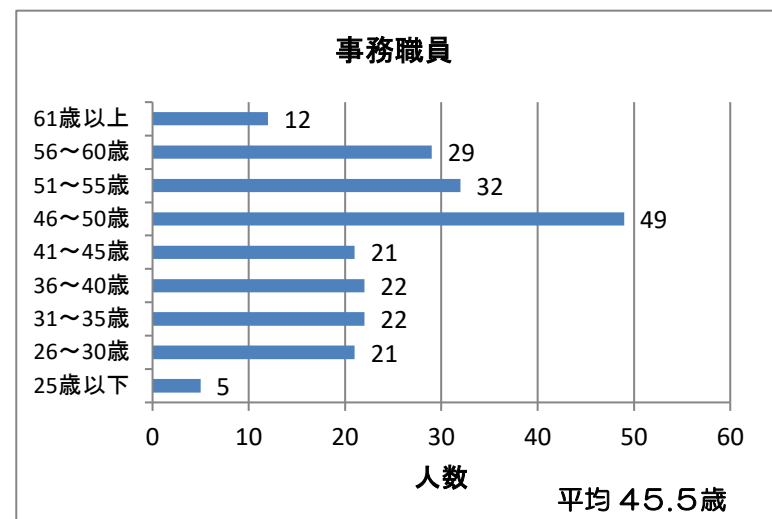
理科教員高度支援センター及び大学院教育学研究科を含む。



教育学部及び次世代教育研究推進機構、パッケージ型支援プロジェクト、障がい学生支援室を含む。



運営参事を含む。ただし、大学教員の併任を除く。
在外教育施設派遣教員及び再雇用職員を含む。

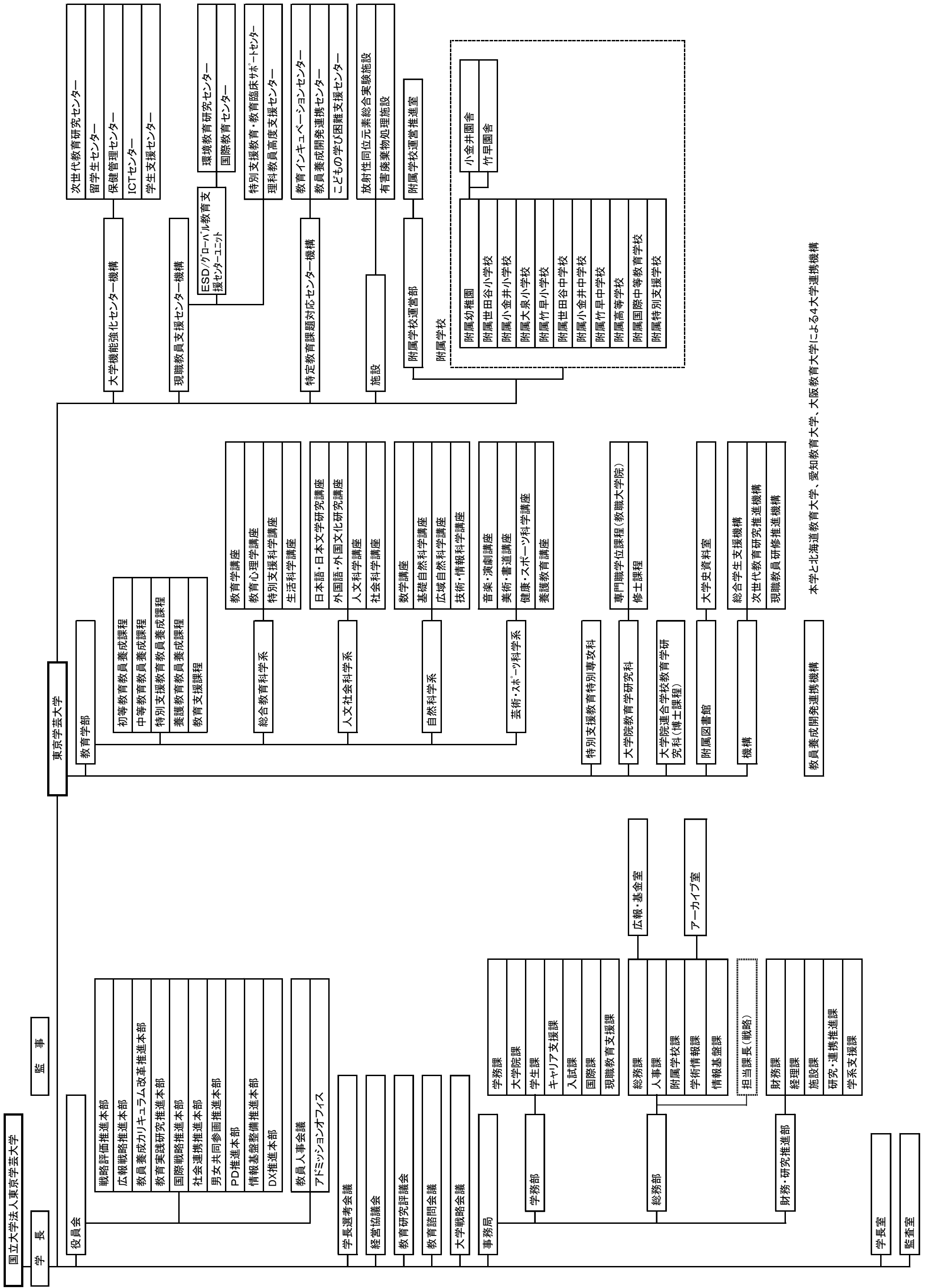


再雇用職員を含む。

付：關係資料

(1) 令和3年度機構図

機構図 (令和3年4月1日現在)



(2) 役職員

令和3年5月1日現在

役員等

学長	國分	充
理事・副学長(全体統括・総務担当)	中島	裕昭
理事・副学長(教育・学生担当)	佐々木	幸寿
理事・副学長(研究・社会連携担当)	松田	恵示
理事(大学経営・産学協働担当)	山沢	清人
理事(連携・特命事項担当)	竹原	和泉
監事	見上	一幸
監事	森本	周子
副学長(国際・情報担当)	川手	圭一
副学長(附属学校・現職研修担当)	狩野	賢司
副学長(学部教育・学生支援担当)	濱田	豊彦
副学長(研究・特命事項担当)	小嶋	茂稔
副学長(財務・労務担当)・事務局長	小熊	浩

学長特別補佐(教職大学院・現職教員研修担当)

教職大学院	伊東	哲
-------	----	---

学長補佐

総合教育科学系	奥住	秀之
総合教育科学系	加瀬	進
総合教育科学系	澤隆	史
総合教育科学系	倉持	伸江
総合教育科学系	萬羽	郁子
人文社会科学系	木村	守
人文社会科学系	菅美	弥
自然科学系	坂口	謙一
自然科学系	中野	幸夫
芸術・スポーツ科学系	鈴木	聡一
芸術・スポーツ科学系	小森	伸一
芸術・スポーツ科学系	吉川	一文
教職大学院	齋藤	嘉則
教職大学院	西村	圭一
教職大学院	原健	二雄
教職大学院	矢嶋	昭雄
教職大学院	藤野	智子
次世代教育研究センター	岩田	康之
教育インキュベーションセンター	金子	嘉宏

学系等

総合教育科学系長	君塚	仁彦
人文社会科学系長	加賀美	雅弘
自然科学系長	國仙	久雄
芸術・スポーツ科学系長	及川	研一
附属図書館長	川手	圭一
大学院連合学校教育学研究科長	新田	英雄

センター

次世代教育研究センター長	南道	子之
留学生センター長	岩田	康之
保健管理センター所長	中島	裕昭
ICTセンター長	木村	守
学生支援センター長	濱田	豊彦
環境教育研究センター長	椿	真智子
国際教育センター長	竹鼻	ゆかり
特別支援教育・教育臨床サポートセンター長	繁田	進
理科教員高度支援センター長	松浦	執
教育インキュベーションセンター長	松田	恵示
教員養成開発連携センター長	松田	恵示
こどもの学び困難支援センター長	加瀬	進

学系選出評議員

総合教育科学系	藤野	博
総合教育科学系	矢嶋	昭雄
人文社会科学系	北澤	尚
人文社会科学系	久邇	良子
自然科学系	竹内	伸子
自然科学系	宮寺	庸造
芸術・スポーツ科学系	石橋	史生
芸術・スポーツ科学系	宮里	明人

附属学校運営部

附属学校運営部長	齋藤	嘉則
附属学校運営参事	古家	眞博
附属学校運営参事	関田	義博
附属学校運営参事	内田	賢

附属学校

附属幼稚園長・小金井園舎長	朝野	浩行
附属幼稚園竹早園舎長	鎌田	正裕
附属幼稚園副園長	山田	有希子
附属世田谷小学校長	大井田	義彰
附属世田谷小学校副校長	越後	佳宏
附属小金井小学校長	鈴木	明哲
附属小金井小学校副校長	塚本	博則
附属大泉小学校長	杉森	伸吉
附属大泉小学校副校長	細井	宏一
附属竹早小学校長	鎌田	正裕
附属竹早小学校副校長	佐藤	洋平
附属世田谷中学校長	福本	みちよ
附属世田谷中学校副校長	鈴木	雄治
附属小金井中学校長	坂口	謙一
附属小金井中学校副校長	村上	潤
附属竹早中学校長	藤本	光一郎
附属竹早中学校副校長	森	顕子
附属高等学校長	大野	弘
附属高等学校副校長	後藤	貴裕
附属国際中等教育学校長	荻野	勉一
附属国際中等教育学校副校長	雨宮	眞一
附属国際中等教育学校副校長	坂井	英夫
附属特別支援学校長	藤野	博
附属特別支援学校副校長	湯山	孝司

事務局

事務局長	小熊	浩
学務部長	金子	浩
学務課長	小室	史郎
大学院課長	清水	研司
学生課長	村山	敏規
キャリア支援課長	北村	滋
入試課長	細田	明子
国際課長	川上	恵子
現職教育支援課長	松岡	晃代
総務部長	東高	之
総務課長	渡邊	賢晃
人事課長	根岸	正征
附属学校課長	佐藤	健一郎
学術情報課長	高橋	菜奈子
情報基盤課長	高橋	菜奈子
戦略担当課長	佐藤	節夫
財務・研究推進部長	山路	尚武
財務課長	東	慎滋
経理課長	佐藤	博美
施設課長	吉田	哲弥
研究・連携推進課長	手塚	穰治
学系支援課長	小峯	康夫

学長室

学長室長	中澤	重夫
------	----	----

監査室

監査室長	金子	賢治
------	----	----

(3) 第3期中期目標・中期計画工程及び令和3年度計画

<p>(前文)大学の基本的な目標 東京学芸大学は、教育を通しての社会変革を主導する大学として、知識基盤社会の進展・グローバル化の展開・教育的課題の多様化・地域社会の疲弊という現代社会の特徴に対して、協働して課題を解決する力・多様性を尊重する力・自己を振り返り、自己を表現する力・新しい社会を創造する力という四つの力を持った次世代の子どもを育成するための人材養成を使命とする。 本学はこれまでも初等・中等教育における様々な教育実践や教科教育に関わる有為の教育者を養成してきた教育の総合大学であるが、第3期中期目標期間が日本の社会及び教育の大きな転換点であると認識し、次世代の子どもの育成を目指す次世代育成教育において、次の三つの役割を担い、日本の教育を主導する全国的拠点大学となるとともに、広く海外に日本の教育成果を発信する大学となることを目標とする。 (1) 教育課題の多様化に対応する力や、知識基盤社会における継続的な教育環境の変化に対応する力を持つ新しい教員を養成するとともに、諸課題に直面している教育現場の教員に対して、次世代の子どもを育成する上で必要な能力を付与する研修を実施する。そのために第3期中期目標期間において、教育学部と大学院において必要なカリキュラム及び教育組織の整備を行うとともに、現職教員研修のための組織を立ち上げる。 (2) 現在進行しつつある日本社会の変化と教育改革に伴う教育課題の多様化・複雑化には、学校教員と教育支援者が協働して対応に当たる必要があるという認識の下に、教育支援の専門的技能を持つ人材及びコーディネーターを養成するとともに、教育支援者と協働できる教員を養成する。併せて学校と教育支援者を結ぶコーディネート体制の構築に寄与し、地方自治体、教育委員会、NPO、民間企業等と連携した教育支援事業を展開する。 (3) 次世代育成教育のための研究を集中的に展開するとともに、その研究成果を次世代育成教育モデルとして全国及び世界に発信する。そのために本学(T)が、北海道教育大学(H)・愛知教育大学(A)・大阪教育大学(O)と連携して進めるHATOプロジェクト及び日本教育大学協会を基盤とした全国的ネットワークを構築するとともに、OECD及び教員養成国際コンソーシアムと連携して、国際的な発信の基盤を作る。</p>					
<p>◆ 中期目標期間及び教育研究上の基本組織 1 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。 2 教育研究上の基本組織 本学は、この中期目標を達成するため、別表に記載する学部及び研究科を置く。</p>					
中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標 (1)教育内容及び教育の成果等に関する目標 (学士課程)</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1)教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置 (学士課程)</p>				
<p>① 第2期中期目標期間においては、教育組織を再編して教育支援課程を設置するとともに、カリキュラムの改訂を行って、現代的教育課題に対応した教員養成カリキュラムを整備した。さらに、大学での学修に必要な知識・技術を学ぶ「入門セミナー」の開設を始め、学生の自主的で計画的な学習を促すための制度等を導入した。また、アクティブ・ラーニング活性化のための「ラーニングコモンズ」の設置や、小学校英語に携わる専任教員の増員、総合的道德教育プログラム推進プロジェクトの立上げ等、現代の教育課題に対応するための基盤整備を行うとともに、環境学習活動やICT教育活動に率先して取り組んできた。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を担い、多様な教育課題に対応する力を持つ人材の養成をさらに強化するために、学校を始めとする教育環境の改革を担う教員・教育支援者の養成に向けての教育体制をさらに整備し、学士課程カリキュラムの充実を図る。</p>	1	①-1 次世代育成教育を担う力量あふれる教員・教育支援者の養成を強化するため、平成27年度に改訂した学士課程カリキュラムの検証を行いながら、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革を見据えて、学士課程カリキュラムの検討を行う。そして今後の日本の教育改革に必要な学校教育と教育支援の知識と技能を兼ね備えた人材を養成するためのカリキュラム構造を構築する。	①-1-1 計画実施済み		
	2	①-2 アクティブ・ラーニングを取り入れて、教科横断型の学習や体験型の学習を指導する力を持った教員を養成するために、大学においてもアクティブ・ラーニングを取り入れた授業科目を全学的に開設するとともに、その具体的な指導のための実践的なプログラムと指導体制を整備する。	①-2-1 計画実施済み		
	3	①-3 小学校における英語の学習指導を円滑に行うことができる指導力を強化するため、小学校教員免許を取得する学生の英語でのコミュニケーション力を増すことを目的とした授業内容を充実させる。	①-3-1 計画実施済み		
	4	①-4 豊かな心を持った次世代の子どもを育成するための基礎的人間力を備えた教員を養成するため、道德教育の専任教員を配置し、全学的な教育体制を整備する。	①-4-1 計画実施済み		
	5	② チームアプローチを取り入れた授業科目を全学的に開設し、その具体的な指導のための実践的なプログラムを整備する。また、多様な場で体験的に学ぶ機会を提供するために、ボランティア活動やインターンシップ等の受入先との連携を強化するとともに、学生の参加を促すためのガイダンスを充実させる。	②-1 計画実施済み		
<p>② 教育課題の多様化・複雑化に対応するために必要な、様々な人と協働してチームで実践的な問題解決に当たる「チームアプローチ力」を養うための教育体制を構築する。</p>					

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>③ 第2期中期目標期間においては、教員就職率を高めるために、学生キャリア支援室を中心として、教員就職率向上への各種の取組を行い、学校教育系卒業生の60%以上(進学者を除く。)の教員就職率を達成してきている。また、平成26年度には、教育に対する社会の要請を受けとめ、教員養成の質の向上を図るために教育諮問会議を設置するとともに、教員就職率をさらに高めるために、教員就職対策検討プロジェクト等を設置した。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらの実績を踏まえ、より緻密な教員就職対策を実施し、教育委員会とも連携しながら次世代育成教育を担う教員を積極的に社会に送り出す。併せて平成27年度に設置した教育支援課程で養成する教育支援者を、地方自治体、NPO、民間企業等の教育支援に関わる職に送り出す。これらの目的のために、入学から在学中、さらには卒業後のフォローも含めて一貫したキャリア支援を充実させる。</p>	6	<p>③-1 第3期中期目標期間において、大学院進学者を除く学校教育系卒業生の教員就職率70%以上を確保する。そのために平成26年度に設置した教育諮問会議及び教員就職対策検討プロジェクト等の検討結果に基づき、教育に関心を持ち、教員志向の強い者を入学させるための入試や広報の改革を行うとともに、教員採用試験の受験者を増やし、さらには、東京都が主催し、学生段階で教員を目指す人材の指導を行う「東京教師養成塾」等の入塾者を増やすことを検討する。加えて、教育現場での経験を有する者を講師とするキャリアガイダンスの機会を増やし、それをカリキュラムに必修科目として位置付けるなどして、学生の教員志向を維持し、教員採用試験の受験を志す者を増やすための履修指導体制を強化するとともに、継続的に卒業生の動向を調査し、学士課程の改善につなげる。</p>	③-1-1 計画実施済み		
	7	<p>③-2 第3期中期目標期間において、教育支援系では大学院進学者を除く卒業生の50%以上が、地方自治体、NPO、民間企業等の教育支援及び学校と教育支援者とのコーディネートに関わる職に従事することを旨とする。そのために平成27年度に設置された教育支援系の各教育組織において、毎年、教育現場において教育支援に関わる課題を調査するとともに、キャリアガイダンスの機会を多く学生に提供する。さらに、学生が多彩な教育支援現場を体験できるように、組織や仕組みを強化するとともに、継続的に卒業生の動向を調査し、学士課程の改善につなげる。</p>	③-2-1 計画実施済み		
(大学院修士課程)	(大学院修士課程)				
<p>① 第2期中期目標期間においては、教員養成カリキュラム改革推進本部において、継続的に修士課程のカリキュラムを検討・改善するとともに、学士課程と修士課程を結ぶ新教員養成コースでは、現代的教育課題に対応する高度な実践力を備えた学校教員を養成してきた。また、指導教員が教員志望の学生を教員就職に向けて適切に指導し、恒常的に進学者を除く50%以上の修士課程修了生が、教員に就職する体制を築いてきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、現代的教育課題に対する高度な専門的知識を有し、次世代育成教育を積極的に担うことができ、増加する教育課題に教育支援者と協働して対応する力を持った教員を養成する。また、新たな教育課題に対して学校を支援するコーディネート力を身につけた人材を養成する。このために修士課程の組織を再編するとともに、現代的教育課題への対応を重視した新カリキュラムを整備する。</p>	8	<p>①-1 次世代育成教育を担い、多様化・複雑化する教育課題に対応する高度な力を持った教員・教育支援者を養成するために、平成31年度までに修士課程の組織を再編するとともに、新カリキュラムを整備する。</p>	①-1-1 計画実施済み		
	9	<p>①-2 次世代の子どもを育成する高度な専門性とともに、新たな教育課題に対応するための高度な協働力とコーディネート力を持った教員・教育支援者を養成するために、新カリキュラムを構築して「東京学芸大学専修免許スタンダード」を設定する。また、専門職学位課程とも連携して、新カリキュラムの下で修士課程の教育者養成力を高める。このため平成28年度より新カリキュラムの検討を開始し、平成29年度から試行をする。そしてこれを踏まえて、平成31年度までに組織再編と合わせて新カリキュラムを実施する。</p>	①-2-1 計画実施済み		
	10	<p>①-3 次世代育成教育を担う新しい能力を持った教員の創出と増加を積極的に推進するために、修士課程の学生で小学校教員免許取得を希望する者を支援する仕組みを設けるとともに、国際バカロレア教員の養成のためのプログラムを設置する。併せて現職教員及び現職の教育支援者を修士課程に積極的に受け入れ、そのキャリアアップを図る仕組みを導入する。このための検討を平成28年度から始めるとともに、国際バカロレア機構に国際バカロレア教員養成のための認可申請を行う。これらのプログラムは、平成31年度までに組織再編及び新カリキュラムの実施と合わせて開始する。</p>	①-3-1 計画実施済み		
	11	<p>①-4 次世代育成教育を担う新しい能力を持った教員を積極的に学校現場に送り出すために、学校教員養成系の専攻において、進学者を除く修了生の教員就職率を60%以上とする。併せて、組織再編後の教育支援者を養成する専攻においては、進学者を除く修了生の50%以上が教育支援に関わる職に就くことを目指す。また、継続的に修了生の動向を調査し、修士課程の改善につなげる。</p>	①-4-1 組織再編後の教育支援者を養成する専攻において、進学者を除く修了生の教育支援職への就職率50%以上確保を目指すための方策を実施するとともに、検証する。	教育・学生担当	学生キャリア支援室(修士課程各専攻)

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
(専門職学位課程)					
<p>① 第2期中期目標期間においては、専門職学位課程は教育現場との緊密な連携の下、学卒院生及び現職院生に対してアクティブ・ラーニングや、現代的教育課題に協働して対応することを学ばせるなど、次世代育成教育を先取りしながら、スクールリーダーを目指す教員の養成に高い成果をあげてきており、毎年教員就職率90%以上を確保してきた。さらに平成27年度には、定員を10名増やすとともに、「カリキュラムデザイン・授業研究コース」と「学校組織マネジメントコース」を設置し、院生に対してより高度な能力を身に付けさせるための組織整備を行った。併せて、教員定員も増やし、理論と実践の往還をこれまで以上に実質化する方策を実施してきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これを踏まえて、平成27年度に設置した新コースの機能を検証しつつ、教育現場との緊密な連携を継続しながら、次世代育成教育を担う先導的教員の養成をさらに充実させるとともに、より広範に専門職学位課程の教育を受ける者を増やす仕組みを導入する。</p>	12	①-1 平成27年度に設置したコースを継続的に検証・改善し、教育現場での豊富な活動を体験することによって、教育課題の多様化・複雑化に対応する実践的な力を持つとともに、知識基盤社会において継続的に学び続ける力を持った先導的教員を養成し、現職教員・進学者を除く修了生の教員就職率90%以上を確保する。また、継続的に修了生の動向を調査し、専門職学位課程の改善につなげる。	①-1-1 計画実施済み		
	13	①-2 平成31年度までに実施する修士課程の再編に合わせて、修士課程において現代の教育課題に対する高度な専門的知識を学んだ修了生が、1年間専門職学位課程で学ぶプログラムを設置し、教育現場との関わりを学ばせる。併せて学内及び学外に対する広報活動を検証しながら改善し、広く専門職学位課程を志望する者を募集する。	①-2-1 計画実施済み		
(大学院博士課程)					
<p>① 第2期中期目標期間においては、指導体制や方法を改善し、入学者の学位取得率の平均が60%、大学教員への就職率が60%と、ともに高い水準を維持し、連合大学院のミッションに十分応えてきた。また、平成27年度には定員を10名増加させた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、引き続き、教員養成大学・学部と専門職学位課程を担当できる大学教員や教育関連専門職員を養成するため、現職教員及び修士課程・専門職学位課程を修了した入学者に対して、広域科学としての教科教育学に関する高いレベルの研究能力を育成する。</p>	14	①-1 教員養成系の大学や短期大学等において活躍できる、実践的教育力や優れた研究能力を持った人材を養成することにより、学位取得率平均60%以上を維持するとともに、大学教員、研究職及び教育関連専門職への就職率60%以上を維持する。	①-1-1 計画実施済み		
	15	①-2 教職経験のある学生の学位取得を促進し、第2期中期目標期間を上回る学位取得者数を確保する。	①-2-1 計画実施済み		
(2) 教育の実施体制等に関する目標					
<p>① 第2期中期目標期間においては、教員養成カリキュラム改革推進本部を中心に、教員養成カリキュラムの継続的な改革に取り組んできており、HATOプロジェクトにおいても様々な調査を行ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえ、学長のリーダーシップの下で積極的に次世代育成教育を担う人材を養成し、社会的ニーズに柔軟かつ迅速に対応できる大学教育を常に提供していくことを目標として、教学体制の改善を行い、最適な教学支援を行っていく体制を確立する。</p>	16	① HATOプロジェクトIR部門の取組等を踏まえ、学生の入学前の意向から、在学中、さらには卒業・修了後の諸データを収集・分析して、学生のニーズと動向を的確に把握する。そして、そのデータと社会のニーズの双方を見据えた効率的なカリキュラム運営を行う教学マネジメント体制を強化する。	①-1 計画実施済み		
	17	②-1 FD・SD推進本部を平成30年度までに改編し、FDの機能とSDの機能を統合したPD(Professional Development)の体制を整備する。そして、教育体制の改善に向けた教員と事務職員の職能向上及び協働した活動に恒常的に取り組む。	②-1-1 計画実施済み		
	18	②-2 教育実践現場での指導経験を有する教員を、学校教育系(教員養成系)教員の20%以上確保し、学生に教育実践現場での指導経験を伝えることができる体制を作る。	②-2-1 計画実施済み		
<p>③ 第2期中期目標期間においては、教育実践研究支援センター、理科教員高度支援センター等において、各種の現職教員研修を行ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえて、学び続ける教員を継続的に支援し、次世代育成教育の普及・発展を担う人材開発を強化するため、現職教員の研修を支援する体制を全学的に構築し、教員の多様なニーズと社会的なニーズの双方に応えるためのプログラムを開発する</p>	19	③ 教育委員会等と連携して、現職教員の研修に関するニーズを調査・分析するとともに、第2期中期目標期間中に行った各種の現職教員研修の取組を検証し、これらに基づき、平成31年度までに現職教員研修のための組織を立ち上げる。	③-1 計画実施済み		

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
(3) 学生への支援に関する目標					
① 第2期中期目標期間においては、「教職に就く学生向け教職特待生」、「学芸むさしの奨学金」による本学独自の経済支援制度及び東日本大震災の被災学生への支援等によって、経済的困難を抱える学生を支援してきた。 第3期中期目標期間においては、これまで積み上げてきた学生の経済支援体制を充実させ、学生の学修意欲の向上に努める。	20 ① 教職特待生制度及び海外派遣学生への支援金などの学生支援を維持しつつ、支援件数を増加させ、より一層学生への経済的支援を充実させる。	①-1 計画実施済み			
② 第2期中期目標期間においては、学生支援センターを整備し、そこに学生相談室、障がい学生支援室、学生キャリア支援室、学芸カフェテリアを置くとともに、それぞれに専門スタッフを配置し、保健管理センター等と連携しながら学生の支援を行ってきた。また教育実習に向けて、配慮を要する学生に対しての「教育実習メンタルヘルス支援チーム」と「教育実習サポーター」という支援システムを作り、学生を支援してきた。さらに学芸カフェテリアにおいても、年間100以上の講座を開いて学生のキャリア支援と学修支援を行っている。 第3期中期目標期間においては、これらを継続するとともに、その支援の質をさらに高める。また教職員が、学生の支援のための基本的知識とスキルを獲得する仕組みを作る。	21 ②-1 平成27年度の組織再編によって設置した教育支援課程の学生のキャリア支援に対応するスタッフを学生キャリア支援室に置くとともに、各支援組織における専門スタッフのスキルアップを、専門研修への参加などにより高めていく。	②-1-1 計画実施済み			
	22 ②-2 各支援組織の専門スタッフによって学生支援に関する体系的なPD (Professional Development)を定期的実施し、教職員がそれに参加するための仕組みを、平成30年度までに作る。	②-2-1 計画実施済み			
(4) 入学者選抜に関する目標					
① 第2期中期目標期間においては、受験生募集や入学試験業務を効率化するため、複数選抜単位間における入試問題の共通化を実施した。また、教育に関して高い関心を持つ学生を確保するため、学力試験から面接への入試方法の変更や高大接続プログラム特別入試を実施するとともに、学校訪問や大学説明会を通して、学校教員や教育支援者の魅力を伝える広報活動を展開した。 第3期中期目標期間においては、入学者選抜方法を改革し、教育者として必要な学力を有し、次世代育成教育を担う学校教員や教育支援者として活躍できる人材となりうる入学生をこれまで以上に確保するため、アドミッション・オフィスの機能を持つ組織を設け、アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜を導入する。併せて、国際バカロレア資格を有する受験生を対象とした入試も含めて、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜に改める。	23 ①-1 次世代育成教育を担う教員・教育支援者となるべき人材として、教育者として必要な学力、コミュニケーション力、協働力、教育に対する意欲・適性を的確に評価し、選抜するための方法及び選抜単位の検討を、平成28年度より開始する。併せて、アドミッション・ポリシーの見直し、アドミッション・オフィスの機能を持つ組織の設置、国際バカロレア入試の開始等に関する具体的な検討も開始し、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革に合わせて選抜方法を改革する。	①-1-1 計画実施済み			
	24 ①-2 次世代育成教育を担う教員・教育支援者となるべき学生を入学させるため、学校教員及び教育支援者の魅力を高等学校等に発信する広報活動を積極的に行う。併せて、本学を受験する生徒の多い関東地方の高等学校等に学校訪問を行い、本学に対する認知度を向上させるとともに、教員や教育支援者を志望する高校生の実情を的確に把握する。	①-2-1 計画実施済み			
	25 ①-3 平成27年度から開始した高大接続による教員養成プログラムの検証を行い、4年間の大学在籍中及び卒業後2年間の追跡調査を実施し、今後の教員養成教育の改善に資するため、平成33年度までに各種データの集積・分析に基づく評価を行う。	①-3-1 高大接続教員養成プログラムによる新入生、在学生及び卒業生から収集したデータや、その分析を基に報告書を作成する。	学部教育・学生支援担当	高大接続による教育養成プログラム実施委員会	入試課、(附属学校課)、(学務課)、(研究・連携推進課)
2 研究に関する目標					
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標					
① 第2期中期目標期間においては、教育実践研究推進本部を設置し、機関として教育研究を推進していく体制を整備した。また、外部資金を積極的に獲得するよう奨励し、質の高い研究を維持してきた。その結果、本学は、科学研究費助成事業採択率が全国の大学の中でもきわめて高く、平成25年度、26年度はいずれも全国上位であった。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を主導していくため、新たな教育基盤の確立に寄与する基礎研究を積極的に行う。また、そのために不可欠な研究費の充実のため、科学研究費助成事業の申請数を向上させる。	26 ① 次世代育成教育に関する研究を行うとともに、特に外部資金の獲得を重視する。そのため、科学研究費助成事業の申請数と採択数を向上させる取組として、申請相談会の複数回開催、不採択者への研究継続支援、新人教員への申請方法説明会、男女共同参画推進本部による計画調書記載のメンター制度などを実施し、科学研究費助成事業の新規申請数を130件以上に増加させるとともに、第2期中期目標期間中の高い採択数を維持する。	①-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>② 第2期中期目標期間に設置した教育実践研究推進本部において、附属学校教員と大学教員とが協働して研究を実施する「特別開発研究プロジェクト」を推進し、その成果を社会に発信してきた。また、大学教員全員が附属学校研究会に所属して共同研究を行う仕組みを作り、大学と附属学校が緊密な関係を持って研究を進める体制を作ってきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを踏まえて次世代育成教育の実現に向けて大学と附属学校との共同研究を一層進展させるとともに、その研究成果を社会に発信し、新しい教育の推進に努める。</p>	27	② 教育実践研究推進本部における研究プロジェクトの枠組みや実践規模を拡充し、附属学校等の教育現場をフィールドとした実践研究を推進する。併せて大学と附属学校とで協働して「附属学校と協働した教員養成系大学による、経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒へのパッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト」を進め、その研究成果を大学や附属学校の教育及び教育支援に反映させるとともに、全国に発信する。	②-1 計画実施済み		
	28	③-1 日本の教育システムをOECD及び教員養成国際コンソーシアム等を通じて世界に広めるため、教材研究・授業計画・授業実践・授業研究から構成される授業と授業研究を体系化し、「優れた授業作り」の映像教材を作成する。そして、この成果を国内の教員養成や教員研修でも活用し、教員の質の向上に貢献する。	③-1-1 計画実施済み		
	29	③-2 次世代に向けて新たに育成すべき児童・生徒のメタ認知能力・批判的思考力・協働的問題解決能力などを教育実践の中で伸ばすために、授業場面で教員がこれらの能力の様相を的確に把握できるような評価方法の研究開発を行う。	③-2-1 計画実施済み		
<p>④ 教員養成及び教育支援者養成の質の向上を図り、学校教育に対する社会からの付託に応えるため、「大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築－教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト－」の成果をHATOプロジェクト構成4大学が連携して全国の教員養成系大学・学部が発信することによって、全国の学校教育の質の高度化や地域の特性に適合した教育の実践を支援する。</p>	30	③-3 協働的問題解決力やコミュニケーション力を伸ばさせる授業活動を行うために、附属学校と協働して、アクティブ・ラーニング及びICTを活用した授業実践の研究を行う。	③-3-1 計画実施済み		
	31	④-1 教員養成を行う全国の大学・学部に対して、HATOプロジェクトの研究成果を情報発信し、かつ、継続的に相互交流と相互支援を実施するために、HATOプロジェクト構成4大学に情報発信とフィードバックの拠点を整備し、交流する大学を拡げていく。また、教育支援者育成についても本学が拠点として機能するように図る。	④-1-1 計画実施済み		
	32	④-2 教員養成を行う大学、全国の学校、教育委員会等からの要望に対応する現在の重要な教育課題及び新たに提起されてくる問題の解決を行うために、解決に寄与するカリキュラム・教材・指導法等の方策を具体化する。	④-2-1 計画実施済み		
<p>⑤ 第2期中期目標期間においては、教育委員会や民間企業等と連携しながら「国際算数・数学授業改善のための自己向上機能を備えた教員養成システム開発」、「日本型教員養成教育ア krediyteshon・システムの開発研究」、「デジタル読解力のための教科書連携型デジタル教材の認証・評価と研修・養成の研究」、「国際的な地球環境学習のプロジェクト(GLOBEプログラム)」、「情報通信技術活用による教員養成機能の高度化と教育の情報化に対応できる教員の養成体制の構築」等の研究に取り組んできた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を推進するために、全国の教育現場と連携しながら、これまでの研究をさらに発展させ、より一層教員の質の向上を図るための研究を推進するとともに、その成果を社会に発信する。</p>	33	④-3 全国の学校教育の質の高度化や地域の特質へ適合した教育の実践を実現するために、HATOプロジェクト構成4大学を中心に教育委員会等現場と連携し、地域や現場のニーズに対応した課題解決に向けて、セミナーや講習会等を実施する。	④-3-1 計画実施済み		
	34	⑤ これまでの研究成果を踏まえながら、教員養成教育の質の向上やデジタル教材、ICT教育に関する研究をさらに進めるとともに、その研究成果を、教育委員会や民間企業と連携して、実際の授業や学校教育に利用できる形で発信する。また、環境教育の実践事例を共有するために、成果を全国に発信する。	⑤-1 計画実施済み		

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
<p>⑥ 第2期中期目標期間においては、東京学芸大学大学史資料室を設置し、これまで本学に蓄積されてきた資料の整理と管理を積極的に開始した。また、それに基づいた展示を行うとともに、その資料目録と資料に基づいた研究成果をウェブサイトや「大学史資料室報」で広く公開してきた。さらに平成27年度には旧師範学校資料に関するアーカイブズシステムの構築も開始している。</p> <p>第3期中期目標期間においては、教育の拠点大学として、これまでの成果を踏まえて旧師範学校資料を中心とした日本の教育史資料をさらに収集、整理、公開し、広く国内外に提供するとともに、それに基づいた教員養成及び教育実践の歴史的研究を進める。</p>	35 ⑥ 旧師範学校資料に関するアーカイブズシステムをより高度なものとし、主要な旧師範学校資料を広く含むものとするとともに、関連する資料の整理・公開を進め、さらにそれらに基づいた研究及び研究成果を公開する。	⑥-1 計画実施済み			
<p>⑦ 第2期中期目標期間においては、学校や教育委員会とのつながりや、複数のウェブサイトによる情報発信等を通じて、研究成果のアウトリーチ活動の基盤を作るとともに、実施してきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、教育の拠点大学として、学校教育や教育支援に関する研究成果とその意義についての理解と認識を得るため、次世代育成教育のモデルを発信するなど、大学教員を中心として積極的なアウトリーチ活動を実施する。</p>	36 ⑦ 様々な教育現場等のニーズを把握するとともに、研究成果を発信するためのウェブサイトを整備し、アウトリーチ活動の基盤を強化する。そして研究会、公開講座、イベント等を行い、アウトリーチ活動を積極的に展開する。	⑦-1 計画実施済み			
(2) 研究実施体制等に関する目標		(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置			
<p>① 第2期中期目標期間においては、産学連携や受託研究などの個人研究のレベルから、本学の教育実践研究推進本部がマネジメントする大学と附属学校間の共同研究、さらにはHATOプロジェクトや東アジア教員養成国際コンソーシアム事業などの国内外との共同研究に至るまで、様々なレベルの研究ネットワークを構築してきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、このような本学の強みを生かした先導的な教育実践研究とその基盤となる基礎研究の水準をさらに向上させ、次世代育成教育の実現と現代社会で生じる多様な課題の解決に資する研究を推進するために、これまで構築してきたネットワークを活かしながら、効果的な研究マネジメントを行う。</p>	37 ①-1 国内外の大学・附属学校・地方自治体・教育委員会・NPO・民間企業等との間に構築してきたネットワークを戦略的に活用した研究マネジメントを可能にする体制を作り、OECDや教員養成国際コンソーシアムなどのネットワークとのつながりを強化するとともに、個々の教員との結び付きをより強固なものにする。	①-1-1 計画実施済み			
	38 ①-2 本学の強みを生かした先導的な教育実践研究とその基盤となる基礎研究の水準をさらに向上させ、現代社会で生じる多様な教育課題の解決に資する研究を戦略的に推進するために、現在九つある学内のセンターを平成31年度までに「養成」と「研修」の機能に再編し、それぞれの機能の基盤となる研究体制を整備する。	①-2-1 計画実施済み			
<p>② 第2期中期目標期間においては、男女共同参画推進本部において、女性教員の研究活動を支援するための研究補助員制度の運用を開始し、その成果として、本学女性教員の科学研究費助成事業採択率は全国でも上位となっている。また、このような活動全体に対して、平成26年度に初めて創設された「東京都女性活躍推進大賞」を受賞し、社会的に高い評価を得ている。また、平成22年度には、学芸の森保育園も学内に開設し、子育てをする教職員の便宜を図っている。</p> <p>第3期中期目標期間においては、教員と事務職員が一体となって研究を推進していくために、支援制度を拡大し、多様な支援策を実施する。</p>	39 ② 子育て、介護又は看護中の教員の研究活動を支援するために整備した研究補助員を、教員以外の事務的な補助業務を行う者にも対象を拡げ、教育研究支援全体の補助員として活動の範囲を拡大する。また、制度の適用を希望する教職員への補助員措置率を100%とし、この制度の活用を促進することにより、女性教職員の割合についても現在の30%程度を維持する。	②-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置				
<p>① 第2期中期目標期間においては、東京都及び大学周辺5都市(小金井市・国分寺市・小平市・三鷹市・武蔵野市)を始めとして、岩手県二戸市、神奈川県横浜市、滋賀県湖南市、高知県等のいくつかの自治体と連携して、理科教育、英語教育、ICT教育、道徳教育、国際バカロレア教育等の支援を行ってきた。また、日本教育大学協会や一般社団法人教育支援人材認証協会等と連携して、様々な教育活動を展開してきた。理科教員高度支援センターにおいては、現職教員を対象として「理科教育研修講座」を年間約30回実施し、300人以上が参加した。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを継続するとともに、教育の拠点大学として連携する教育機関を増やし、次世代育成教育に必要な新しい教育力と、多様化・複雑化した教育課題に対応する力をつけるための現職教員研修を広範囲に行う。</p>	40	①-1 教育委員会のニーズ及び教員の資質能力の向上・教育研究の一層の活性化に向けた課題を調査する。そして、教育委員会との協定締結を進めて連携を深め、学校現場のニーズに沿った現職教員研修を行う。	①-1-1 計画実施済み		
	41	①-2 理科教員高度支援センターにおいては、第2期中期目標期間と同規模の研修を実施する。また、現職教員を対象とした公開講座を積極的に開講する。	①-2-1 計画実施済み		
	42	②-1 地域住民、周辺自治体と連携を図るため、教職員と学生に地域での教育活動への参加を促し、地域住民等と定期的に交流する。そして個別に展開している取組を組織的にフォローする。さらに、教職員、学生による本学の教育研究成果を公開講座等を通じて地域に伝えるとともに、地域の人材が本学で活動できる仕組みを作る。	②-1-1 計画実施済み		
	43	②-2 FC東京及び小金井市と連携した「学芸大クラブ」の活動等を行い、東京オリンピック・パラリンピックのサポートを視野に入れつつ、地域におけるスポーツ及び文化活動を推進させる。	②-2-1 計画実施済み		
<p>③ 第2期中期目標期間においては、NPO法人東京学芸大こども未来研究所を中心にして、積極的に民間企業と連携しながら、親子のコミュニケーションを促進するコンテンツの開発や、「笑いやユーモア」をテーマとした「SUMMER SMILE SCHOOL」を展開してきた。</p> <p>第3期中期目標期間においては、これらを継続するとともに、連携する企業を増やし、本学の教育研究成果の社会における活用を促進させる。</p>	44	③ 社会のニーズと大学のシーズを効果的にマッチングさせ、企業等と連携した共同研究等を積極的に行うとともに、NPO法人東京学芸大こども未来研究所と協力した活動を進める。	③-1 計画実施済み		
4 その他の目標	4 その他の目標を達成するための措置				
(1) グローバル化に関する目標	(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置				
<p>① 第2期中期目標期間においては、50校以上となった大学間交流協定締結校に対する交換留学を推進するとともに、東アジア教員養成国際コンソーシアムの拠点校として、学生の研究交流に取り組み、博士課程在学生の海外における研究発表を支援してきた。これに加えて平成27年度からは、海外の大学への留学やサマープログラムへの参加を促進するために、東京学芸大学基金から5年間毎年最大1,000万円の支援金を支出することとした。</p> <p>第3期中期目標期間においては、日本社会のグローバル化が一層進展するという認識の下に、これまで行ってきた海外への派遣留学をさらに発展させ、海外における生活体験や教育体験をする学生を増やす。それにより、グローバル化に基づく教育課題に対応する力を持った教員・教育支援者を養成する。</p>	45	① 東京学芸大学基金及び様々な外部資金による支援に基づいて、海外における多様な教育を体験するための独自プログラムを創出し、学校教育系と教育支援系の双方の学生を、積極的に海外に派遣し、それをカリキュラム上に位置付ける。また、「東アジア国際大学院プログラム」に基づいた大学院生の交流を実施する。	①-1 計画実施済み		

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
② 第2期中期目標期間においては、教員研修留学生や交換留学生等、様々な形での留学生を毎年300人～500人受け入れてきた。また、英語のみで行う日本の教育や日本文化・社会に関する授業科目も開設して、留学生に提供してきている。 第3期中期目標期間においては、これらを踏まえ、修士課程における国際バカロレア教員養成プログラムとも連携させながら、英語で行う授業等を増やし、日本の教育や日本文化・社会について学びやすい体制を作るとともに、日本の教育を世界に発信する基礎を築く。また、本学学生と留学生との交流の機会を増やす。	46 ② 平成31年度までに修士課程に国際バカロレア教員養成プログラムを設置するのに伴い、大学院に英語による正規の授業科目を開設する。また、「東アジア国際大学院プログラム」の枠組みを使いながら、海外の学生に研究指導をする体制を作る。さらに学生キャリア支援室による学芸カフェテリアの外国語ランチカフェの拡大や、留学生の協力を得た授業の実施など、本学学生に学内において留学生との交流を体験させる機会を増やす。	②-1 計画実施済み			
③ 第2期中期目標期間においては、「国際協力の実施方針」を定めて、教育関連事業における国際協力を実現しやすい環境を作るとともに、JICA等と連携しながらモンゴル及びアフリカの教育支援を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、日本社会のグローバル化に対応した教育支援を行うために、国内における外国人児童・生徒の教育支援を行うとともに、海外の日本人児童・生徒の教育支援を行う。また、国際的機関と連携した教育支援を、可能なものから実施する。併せてグローバル化に関わる教育支援活動に学生も参加させることにより、教育支援者及び教育支援コーディネーターの養成にも資することとする。	47 ③-1 日本国内の外国人が居住する地方自治体において、外国人児童・生徒教育の状況と課題を調査し、必要な対策を検討するとともに、学士課程及び修士課程のカリキュラムに教育支援活動を組み込んで、学生が積極的に関わることができるようにする。併せて教育研究成果を教育支援のモデルとして発信する。	③-1-1 計画実施済み			
	48 ③-2 公益財団法人海外子女教育振興財団、海外の日本人会等と連携して、在外教育施設の日本人児童・生徒教育の状況と課題を調査し、必要な対策を検討するとともに、学士課程及び修士課程のカリキュラムに教育支援活動を組み込んで、学生が積極的に関わることができるようにする。併せて教育研究成果を教育支援のモデルとして発信する。	③-2-1 計画実施済み			
	49 ③-3 日本の教育システムをOECD及び教員養成国際コンソーシアム等を通じて広めるため、教材研究・授業計画・授業実践・授業研究から構成される授業と授業研究を体系化し、「優れた授業作り」の映像教材を作成する。また、JICA等の国際機関等との連携による教育支援について、「モンゴル国障害児のための教育改善プロジェクト」を実施するほか、他のプロジェクトについての検討を行い、可能なものから実施する。	③-3-1 計画実施済み			
(2) 附属学校に関する目標	(2) 附属学校に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、国際バカロレア中等教育プログラム校である附属国際中等教育学校が、国際バカロレア・デュアルランゲージ・ディプロマプログラム校に認定されるとともに、スーパーグローバルハイスクール及びスーパーサイエンスハイスクールに認定された。また、附属高等学校がスーパーサイエンスハイスクールに認定されたほか、附属竹早小学校と附属幼稚園竹早園舎が合同で、幼小一貫教育の研究を行った。このようにそれぞれの地区の附属学校において、特色ある教育と研究を行ってきた。また、地区の特色を反映して附属高等学校は東京工業大学と、附属国際中等教育学校は東京外国語大学と高大連携の協定を結んでいる。 第3期中期目標期間においては、これらを踏まえて、小金井地区、世田谷地区、大泉地区、竹早地区、東久留米地区の各地区における教育と研究の特色をより明確にして、次世代育成に関する教育研究を地区ごとの特色に合わせて先導的に行う体制を作り、地域の拠点校としての役割を果たす。	50 ① 各地区において実施する特色ある教育研究を、大学における教育と研究に反映させながら進展させ、拠点校・モデル校として、その成果を地域に還元する。小金井地区は、大学と同一キャンパスに位置することを活用して、大学と一体となつての研究及び教育のフィールドとして積極的に活用する場とする。世田谷地区は先導的な試みを行い、新しい教育のあり方を研究する場とするとともに、地域の拠点校として現職教員研修を行う。大泉地区は、国際中等教育学校を中心にして、日本のグローバル化に対応した教育を先導的に行う場とするとともに、全国の国際バカロレア教育を推進する拠点とする。竹早地区は、幼・小・中の一貫教育に関する研究を行う場とし、多様な教育のあり方を研究する。東久留米地区は、特別支援教育の先導的な研究を大学と一体となって進める場とする。	①-1 計画実施済み			
② 第2期中期目標期間においては、大学教員全員が附属学校研究会に所属して共同研究を行う仕組みを作り、大学と附属学校が緊密な関係を維持する体制を作ってきた。 第3期中期目標期間においては、この体制を継続するとともに、教育研究や教育実習において、大学と附属学校がより密接な関係を持つことによって、附属学校の機能を高めるとともに、次世代育成教育を担う教	51 ②-1 次世代育成教育を実践する場として附属学校を位置づけ、大学と附属学校の共同研究に基づく、新しい指導法を附属学校に導入するとともに、それを身に付けるための質の高い教育実習を実施する。併せてそこで得られた新しい知見を、次世代育成教育の方法に組み込む研究や学部授業へのフィードバック等を、大学と附属学校が協働して行う。	②-1-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
員養成の質の向上を図る。	52 ②-2 大学教員が附属学校における教育、研究に参加する機会をより増やすとともに、附属学校における講義や出前授業などを実施することによって大学教員と附属学校教員が協働するための基盤を強化する。	②-2-1 計画実施済み			
③ 第2期中期目標期間においては、附属特別支援学校において支援機器等の教材を活用した指導方法充実事業等の先導的研究を進めるなど、各地区の附属学校において独自の研究を行い、全国に発信してきた。 第3期中期目標期間においては、こうした活動を継続するとともに、附属学校が大学と協働して新たな研究に取り組み、現代的な教育課題の解決に向けて、研究成果を全国に発信する。	53 ③-1 大学と附属学校との連携に基づいて、実践的研究を継続・推進し、質の高い教育課程や教育方法を開発するとともに、経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒への支援に対する課題解決モデルを構築するための研究を進める。さらに、アクティブ・ラーニング及びICTを活用した授業実践の研究も共同で行う。そして、これらの成果を附属学校と大学が連携し、全国に発信する。	③-1-1 計画実施済み			
	54 ③-2 HATOプロジェクトで作成した、現代的な教育課題をキーワードにした映像コンテンツなどを大学の授業で活用するとともに、公立学校の教員研修等に活用できるように発信する。	③-2-1 計画実施済み			
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標	II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置				
1 組織運営の改善に関する目標	1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、学長がリーダーシップを発揮できる体制を確立するため、これまで非常勤であった理事及び監事(各1名)の常勤化、学長が各センター長を直接指名することとしたセンター長選出方法の改正、学長が検討している戦略について外部有識者に諮問する教育諮問会議の設置等により、ガバナンス機能を強化した。また、HATOプロジェクトIR部門及び学務課・学生課等において組織運営の改善のために様々な調査を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、学長のリーダーシップの下で次世代育成教育を実現していくため、IRに基づいた教育と研究を戦略的に推進するとともに、適正な業務運営を維持するため、教職員の意識統一と職能発達を促進するための体系的な仕組みを作り、ガバナンスをより一層強化する。	55 ① IRに基づいた教育と研究を戦略的に推進するため、従来のIR及びHATOプロジェクトIR部門の成果を統合した全学的なIR体制を整備し、IR機能を高める。また、適正な業務運営を維持するため、平成30年度までにFD・SD推進本部をPD推進本部に発展的に改編し、IRに基づいたPD(Professional Development)を体系的に実施することにより、教員と事務職員が協働しながら大学の運営に参加するための意識統一と職能発達を促進する。	①-1 計画実施済み			
② 第2期中期目標期間においては、学長のリーダーシップの下で、戦略的な人的資源配分を行うべく、教員人事委員会を設置した。平成27年度の学部組織再編では、教員養成課程へより多くの教員を配置するとともに、新たな教員定員削減方針を定め、削減を開始した。さらに、教員人事を一部凍結するとともに、大学の機能強化を進めるため、HATOプロジェクトを推進する教員養成開発連携センター及び専門職学位課程へ専任教員を新たに配置した。 第3期中期目標期間においては、本学の機能強化に向けて優秀な若手教員の採用を促進するとともに、女性の躍進を推進するため、女性の管理職への登用を進める。これらにより、人事給与システムの弾力化や教育研究の活性化を図る。	56 ② 本学の機能強化のために、学長のリーダーシップの下で、教員の適正配置を実現する。また、積極的に優秀な若手教員を採用するとともに、年俸制ポストの拡充を行う。併せて、組織の活性化、女性の躍進を推進するため、女性の管理職への積極的な登用を行い、管理職に占める女性の割合を10%以上とする。	②-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
③ 第2期中期目標期間においては、学長のリーダーシップの下で、適正な予算執行を行うべく、教育研究経費等見直しWGを立ち上げ、経費の抜本的な見直しを行ったほか、若手教員への研究費重点配分制度を導入した。 第3期中期目標期間においては、適正な予算配分について再検討した上で、学内予算における学長裁量経費比率を高めることにより、次世代育成教育等を推進するための原資を確保し、戦略的な資源配分を行う。	57 ③ 教育研究評議会の下に置かれた予算専門委員会で、不断に教育研究費を見直す。また、学内予算における学長裁量経費比率を第2期中期目標期間の最終年度である平成27年度現在で2.5%のところ、第3期中期目標期間の最終年度である平成33年度までに3%に引き上げ、引上分を次世代育成教育等の推進に取り組むための事業に充てる。	③-1 計画実施済み			
2 教育研究組織の見直しに関する目標					
① 第2期中期目標期間においては、教育の総合大学としての機能をより一層高めるために、教育支援課程を設置するとともに、専門職学位課程、博士課程の再編と整備を実施した。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育の実現に向けて、これまで実施した再編・整備の検証を行うとともに、修士課程の再編を中心にして組織の整備を行う。また、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革に合わせて、学士課程の教育体制の見直しを検討する。併せて、現職教員研修のための組織を設置するとともに、学内のセンターを再編し、次世代育成教育の研究と実現に向けた体制を作る。	58 ①-1 学士課程においては、平成27年度の組織再編の検証を行うとともに、高大接続改革実行プランに基づく大学入試改革に合わせて、教員養成カリキュラムと教育支援者養成カリキュラムをより緊密に結び付け、積極的に次世代育成教育を担う教育者の養成を行うための教育体制を構築する。	①-1-1 計画実施済み			
	59 ①-2 次世代育成教育を担い、教育支援者と協働して教育課題に対応する高度な力を持った教員を養成するとともに、学校を支援する人材及び教育支援をコーディネートする高度な専門性を持った人材を養成するために修士課程の組織を、平成31年度までに再編する。このため平成28年度より組織再編及び新カリキュラムの検討を開始する。専門職学位課程及び博士課程においては、平成27年度に行った組織整備の検証を行う。	①-2-1 計画実施済み			
	60 ①-3 現職教員に次世代育成教育を担うための研修を行う体制を整備する。このため、平成28年度より検討を開始し、平成31年度までに現職教員研修のための組織を設置する。また、次世代育成教育の実現に向けた先導的な実践研究とその基盤となる基礎研究の水準を向上させ、現代社会で生じる多様な教育課題の解決に資する学術研究を戦略的に推進するとともに、地域と連携しつつ社会に研究成果を発信するために、現在九つある学内のセンターを平成31年度までに「養成」と「研修」の機能に再編し、それぞれの機能の基盤となる研究体制を整備する。	①-3-1 計画実施済み			
3 事務等の効率化・合理化に関する目標					
① 第2期中期目標期間においては、事務情報化のグループウェア機能を含む全学的な「学芸ポータル(教職員用)」システムの導入、SDプログラムの充実、事務組織の再編等により、事務の効率化・合理化を図ってきた。 第3期中期目標期間においては、大学を取り巻く環境が大きく変化し、大学経営等における事務職員の役割がますます大きくなることから、事務職員の資質・能力の向上を継続して図るとともに、教員と協働して大学運営に当たるための知識を獲得させる。また、大学を取り巻く諸課題に的確に対応するため、事務組織の機能・編制の見直しを行う。	61 ① 大学経営及び教学等に関するPD(Professional Development)を実施するとともに、他大学等との人事交流を実施し、職員の資質・能力の向上と幅広い視野を身に付けさせる。また、ICT活用や再雇用職員のキャリアを活用して事務の効率化・合理化を図りながら、大学を取り巻く環境に対応した事務組織の機能・編制の見直しを行うことにより、諸課題に取り組む体制を整備する。	①-1 計画実施済み			
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標					
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標					
① 第2期中期目標期間においては、外部資金による自己収入を増加させるため、科学研究費助成事業獲得のための相談会など様々な取組を実施したほか、基金事務室の立上げにより寄附金獲得のための組織を整備した。 第3期中期目標期間においては、科学研究費助成事業獲得のための取組や寄附金獲得のための活動を充実させることにより、自己収入の増加につなげ、教育研究の充実を図る。	62 ① 科学研究費助成事業については、相談会の複数回開催、不採択者への研究継続支援、新任教員への説明会、男女共同参画推進本部のメンター制度を活用した申請書作成支援等を実施し、申請数と採択数を向上させる。寄附金については、平成27年度から実施している寄附金を財源とした学生の短期留学補助事業、教員を目指す教職特待生への補助事業の成果について分かりやすく伝えることにより、基金の必要性をアピールして寄附を募る。これらの取組により、自己収入の増加につなげる。	①-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
2 経費の抑制に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、他大学との物品の共同購入、入札による電力供給契約、学内旅費規則の見直し等を通じて、経費の削減に取り組んできた。 第3期中期目標期間においては、財務データに基づく財務分析を行い、一般管理費率を抑制するとともに、非常勤講師に係る経費を抑制するなど、経費削減を行う。	63 ① 学内予算における一般管理費比率を、電気料金など公共料金の値上げが見込まれる状況においても、平成26年度の3.3%から0.2%程度抑制するとともに、非常勤講師に係る経費等を見直し、削減する。	①-1 計画実施済み			
3 資産の運用管理の改善に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、外部専門家の意見を取り入れながら土地の一部売却を行うとともに、定期預金による資金の運用を実施し、平成25年度から東京多摩地区5国立大学法人による資金の共同運用を開始した。 第3期中期目標期間においては、引き続き、資産の効率的・効果的な運用と適切な管理を行う。	64 ① 第2期中期目標期間の資金運用方法についての検証を行い、学生の教育支援等の経費を充実するため、毎年度策定する資金の管理運用方針等に基づき、安全性の確保を最重要として確実性の高い管理運用を積極的に行う。また、本学の土地・建物について、利用料金の見直しを実施し、外部への貸付けを行うなど、資産の効率的・効果的な運用と適切な管理を行う。	①-1 計画実施済み			
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 1 評価の充実に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、教員の教育及び教育に関する研究と大学運営への積極的な取組を促進するため、教育活動、研究活動、社会貢献活動、大学の運営活動の四つの観点で教員の総合的業績評価を行ってきた。また、アニュアル・レポートを毎年発行し、各部局における業績を明示するとともに、学長が改善の指示を出しやすい体制を作った。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を主導する全国的拠点大学として、教員の教育及び教育に関する研究と大学運営への積極的な取組を実現するため、これまでの体制を活用しつつ、教員の評価をきめ細かく行う体制を構築する。	65 ① 従来の業績評価を踏まえながら、教員の教育現場での教育実践に関する観点等を含め、次世代育成教育の推進に適合する新しい評価基準を策定する。	①-1 計画実施済み			
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、広報企画室、メディアラボを設置して、ウェブサイト、メールマガジン、SNSを中心に教育・研究活動、現職教員に対する研修活動、社会貢献活動に関する情報や入試関連情報等を公開・発信した。また、入試関係では、ウェブサイトと併せて、教職員が学校訪問や大学入試関連イベントに参加し、アドミッション・ポリシーや入試の詳細について説明を行った。さらに、附属図書館においてもリポトリを充実させ、研究成果を積極的に発信した。 第3期中期目標期間においては、次世代育成教育を主導する全国的拠点大学及び広く海外に日本の教育成果を発信する大学となるべく、ターゲットを意識して積極的に情報を公開・発信する。	66 ① 広報戦略室、メディアラボ及び附属図書館を中心として、ウェブサイト、大学ポータル等を活用し、教育・研究活動、現職教員に対する研修活動、社会貢献活動、入試等の関連情報について、積極的に情報公開を行うとともに、受験生、学校、教育委員会、企業等、ターゲットを意識した情報発信を行う。併せて、外国語による情報発信を充実させる。さらに、HATOプロジェクトをはじめとする教育研究プロジェクトにおける次世代育成教育の研究成果を積極的に発信する。	①-1 計画実施済み			
V その他業務運営に関する重要目標 1 施設設備の整備・活用等に関する目標 ① 第2期中期目標期間においては、施設設備委員会を設置してキャンパスマスタープランを策定し、教育研究環境の保持と有効利用に努めてきた。また、全学情報化マスタープランに基づいて、情報環境の整備を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、本学の教育・研究環境にふさわしい施設を整備し、豊かな緑に恵まれた自然環境を有するキャンパスを未来に継承していくとともに、教育研究環境の質的向上を図り、自然環境の保護・保全並びに環境負荷の低減に配慮した施設の老朽化対策及び有効活用を行う。さらに、飛躍的に進展しているICT環境に合わせて、教育研究のための情報環境を改善していく。	67 ①-1 「文部科学省インフラ長寿命化計画」を踏まえ、平成28年度中に行動計画を、平成32年度までに個別施設計画を策定するとともに、本学キャンパスマスタープラン及び設備マスタープランに基づき、教育・研究環境の質的向上、老朽・環境対策の推進、既存施設の有効活用など、計画的な維持管理を行う。さらに、地球温暖化対策に基づき、LED照明や高効率な空調機などの省エネ機器の導入及び節電等により、平成32年度までに本学の温室効果ガス排出量を、東京都温室効果ガス排出総量削減義務による排出上限量(18,715トン)以下とする。また、学芸の森環境機構や地域住民と連携しながら、自然環境の保全を行い良好な緑地を維持する。	①-1-1 計画実施済み			

中期目標	中期計画	年度計画(令和3年度)	担当理事・副学長等	推進本部等	担当課
	68 ①-2 第2期中期目標期間において策定した、施設の利用実態調査を踏まえた施設の有効活用に関する「施設利用計画」に基づき、改修工事やスペースの再配置等による既存施設の有効活用を推進し、新たな全学共通スペース等の創出や、狭あいな施設の解消等を図る。	①-2-1 計画実施済み			
	69 ①-3 情報化の進展に対応した教育・研究環境を整備するため、全学情報化マスタープランに基づき、無線LANの拡充やクラウド化等を検討しつつ、情報処理センターシステムのリプレースなどを行うことにより、教育のICT化の進展に対応し、教育研究の充実を図る。	①-3-1 計画実施済み			
2 安全管理に関する目標	2 安全管理に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、安全・安心な教育研究環境を確保するため、定期的な防災訓練の実施と放射線量の測定、災害時の携帯マニュアルの作成・配付、放射線教育、AEDや非常用コンセントの設置、防災備蓄倉庫の増設などを行ってきた。 第3期中期目標期間においては、学生、教職員の安全に関する意識や防災意識を高めるとともに、第2期中期目標期間に策定した事業継続計画の内容を充実させる。	70 ① 学生、教職員の安全に関する意識と防災意識を高めるため、大学・附属学校において安全教育を行うとともに、定期的に防災訓練を実施し、参加経験のない新規採用教職員の参加を義務付ける。また、事業継続計画の内容を充実させ、災害発生時における大学中枢機能の継続性確保につなげる。	①-1 計画実施済み			
② 第2期中期目標期間においては、個人情報漏えいや不正アクセスによる被害等を防止するため、学外からのアクセス制限、パスワードポリシーの強化、情報セキュリティ研修の実施、ウイルスチェックの実施、非公開情報を記録したUSBメモリ等に関してパスワードロック機能を備えたものを使用するよう定めるなどの対策を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、全学情報化マスタープラン及び情報セキュリティポリシーに基づく学内情報基盤の整備を行い、情報セキュリティを確保するとともに、研修等を実施し、学生・教職員の意識を向上させる。	71 ② 情報セキュリティを確保するため、引き続き脆弱性対策や学外からのアクセス制限等を行い、情報漏えい・不正アクセス防止を強化するとともに、情報セキュリティに関する意識を向上させるため、オリエンテーションや入門セミナー、新規採用職員研修会等を始めとして、学生・教職員を対象とした研修等を年5回以上実施する。	②-1 計画実施済み			
3 法令遵守等に関する目標	3 法令遵守等に関する目標を達成するための措置				
① 第2期中期目標期間においては、研究における不正行為及び研究費の不正使用を防止するため、不正行為への管理・責任体制について、不正防止計画を毎年更新するなど、定期的な検証、改善を行ってきた。 第3期中期目標期間においては、これに加えて本学の研究活動における信認及び科学技術・学術の健全な発展のため、研究倫理教育責任者の下、広く研究活動に関わる者を対象とした研究倫理教育を定期的実施し、研究における不正行為及び研究費不正使用の防止を徹底する。	72 ① 研究における不正行為及び研究費不正使用の防止を徹底するため、不正行為防止に関しては、教職員と大学院生を対象に、eラーニングを利用した研究倫理に関する研修を実施し、倫理意識の向上を図る。不正使用防止に関しては、コンプライアンスに関わる研修会の複数回開催や学内ネットワーク等を活用した情報伝達により、教職員・学生に注意点を伝達する。	①-1 計画実施済み			

(4) 大学の目的

● 学則第1条

東京学芸大学は、人権を尊重し、すべての人々が共生する社会の建設と世界平和の実現に寄与するため、豊かな人間性と科学的精神に立脚した学芸諸般の教育研究活動を通して、高い知識と教養を備えた創造力・実践力に富む有為の教育者を養成することを目的とする。

(5) ミッションの再定義

	東京学芸大学 教員養成分野	
学部等の教育研究組織の名称	教育学部（1065名） 特別支援教育特別専攻科（30名） 教育学研究科（M：279名、P：30名） 連合学校教育学研究科（20名）	
沿革	明治6年（1873年）	東京第一師範学校の前身である東京府小学教則講習所を設置
	明治41年（1908年）	東京第二師範学校の前身である東京府豊島師範学校を設置
	大正9年（1920年）	東京青年師範学校の前身である東京府立農業教員養成所を設置
	昭和13年（1938年）	東京第三師範学校の前身である東京府大泉師範学校を設置
	昭和24年（1949年）	東京学芸大学学芸学部を設置
	昭和41年（1966年）	学芸学部を教育学部に改称 大学院教育学研究科（修士課程）を設置
	昭和48年（1973年）	特殊教育特別専攻科を設置
	昭和63年（1988年）	教育学部に新課程を設置
	平成8年（1996年）	大学院連合学校教育学研究科（博士課程）を設置
	平成9年（1997年）	大学院教育学研究科（修士課程）に夜間大学院（総合教育開発専攻）を設置（現在は昼夜開講制に移行）
	平成19年（2007年）	特殊教育特別専攻科を特別支援教育特別専攻科に改称
	平成20年（2008年）	大学院教育学研究科に教職大学院（教育実践創成専攻）を設置

設置目的等	<p>東京学芸大学の創基は、明治6年に設置された東京府小学教則講習所に遡り、その後、初等学校教員の養成（師範教育）を目的とした東京府（青山）師範学校に引き継がれた。昭和18年に東京府の諸師範学校が国に移管され、東京第一師範学校・同女子部、東京第二師範学校・同女子部、東京第三師範学校、東京青年師範学校となった。</p> <p>昭和24年の新制国立大学の発足時には、これら旧制諸学校を統合し、東京学芸大学学芸学部として承継された。東京学芸大学は、以来一貫して「有為の教育者」の養成を目的とし、今日に至っている。</p> <p>戦後の児童生徒の急増を背景に課程・入学定員が拡充され、昭和41年に教育学部となった。昭和63年に、教員需要の長期的な減少と将来的な変動に対応すべく、教員養成という機能のみにとらわれない新たな教育学部の構築に向けた積極的な改革として、新課程を設置し、教員養成課程の入学定員を縮小した。また、平成22年には、教員需要の増加に伴い、教員養成課程の入学定員を拡大した。</p> <p>また、教育学研究科（修士課程）が昭和41年に設置され、平成9年には専ら夜間において教育を行うため教育学研究科（修士課程）に夜間大学院（総合教育開発専攻）が、平成20年には現代的教育課題に即応できるスクールリーダー等を養成するため教育学研究科に教職大学院（教育実践創成専攻）が設置された。</p> <p>さらに、教科教育学の専門研究者等を養成するため大学院連合学校教育学研究科（博士課程）が平成8年に設置された。</p>
強みや特色、社会的な役割	<p>○ 東京学芸大学は、有為の教育者を養成することを目的として、幼稚園から博士課程までの教育組織を有し、東京都を中心とした広域型の拠点的作用を果たす。すなわち、今日の教育を支える初等中等教育教員の養成を行う。そして初等中等教育諸学校に将来のスクールリーダーたるべき教員を輩出するとともに、教員養成及び学校教育の研究に関する拠点として、学校教員の質の向上に貢献する。</p> <p>これらの機能強化のため、実践的カリキュラムを強化するとともに、グローバル化・情報化・環境問題など今日の学校に求められる新たな教育課題に積極的に取り組み、全教科を俯瞰しつつ、得意分野をもつ小学校教員を養成する。また、授業力だけでなく、生徒指導・学級経営などの力をもつ中学校教員、専門性の高い特別支援教育教員・養護教員と幼稚園教員を養成する。このため、学部を再編するとともに、教員養成の高度化を率先して図るべく教職大学院及び連合学校教育学研究科（博士課程）の充実を図り、修士課程の見直し、高度な実践力を備えたスクールリーダー・学校管理職、教科指導力の高い教員を養成するための教育組織及びカリキュラム改革を行う。改革の工程としては、平成27年度に学部、教職大学院及び連合学校教育学研究科（博士課程）の再編を目指し、第3期中期目標期間中に修士課程の再編を行う。</p> <p>そこで、大学運営においては特に以下の二点について取り組む。</p> <p>i 実践的指導力の育成・強化を図るため、教科教育学等の実践的教育研究に関する優れた能力を有する教員を確保するとともに、現在約18%の学校現場で指導経験のある大学教員を増やす仕組みを整備し、第2期中期目標期間における改革を行いつつ、第3期中期目標期間末には20%以上を確保する。</p> <p>ii これまでの東京都及び地元教育委員会等との会議体を発展させ、大学に教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等が構成員となる常設の諮問会議を設置したうえで、学部や大学院のカリキュラムの検証、養成する人材像、現職教員の再教育の在り方などについて定期的に意見交換を行い、教育への社会の要請を受けとめ、その質の向上を図る。</p> <p>○ 学士課程教育では、東京学芸大学の特色を継承し、英語、国際、情報に加え環境などの今日的教育課題に対応した教育組織に再編する。さらに附属学校や公立の連携協力校等を積極的に活用した観察実習の新設や学校インターンシップの実質化などによる4年間にわたる学校教育現場と往還した実習カリキュラム体制を整備して実践的能力を育成する。また、特別支援教育科目の必修に加え、教科と教職を有機的に結びつけた科目の他、現代的教育課題</p>

に対応する教職科目を強化する体系的なカリキュラムを構築する。これらにより、教科指導力と生徒指導力並びに学級経営能力を備えた初等中等教育諸学校でリーダーとなりうる教員を養成し、全国の教員養成機能の中心的役割を担う。

なお、卒業者に占める教員就職率（臨時的任用を含む）について、現状は73%（進学者を除く）であるが、今後の全国の教員採用需要見通しを踏まえ、第2期中期目標期間に学生定員の見直しを含む改革を行いつつ、第3期中期目標期間中も70%以上を確保する。

さらに、人間社会科学課程、国際理解教育課程、環境総合科学課程、情報教育課程及び芸術スポーツ文化課程については、第2期中期目標期間末までに、規模の縮小とともに社会的要請を踏まえた抜本的な見直しを図り、学校現場と協働する教育支援人材を養成する。

- 教職大学院では、東京都教育委員会等との連携により、学部修了者を対象として、より実践的な指導力・展開力を備え、教員集団や保護者、地域、他機関等と協働して新しい学校づくりの有力な一員となり得る新任教員の養成を行う。また、現職教員や管理職候補者等を対象として、地域や学校における指導的役割を果たし得る確かな指導的理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー及び管理職を養成する。このため実務家教員と研究者教員の協働による授業や学校での実習等と連環する授業科目を充実し、理論と実践を往還・架橋する教育を行う。

なお、修了者（現職教員を除く）の教員就職率は、現状は100%であり、第2期中期目標期間に学生定員増を含む改革を行いつつ、第3期中期目標期間中は、進学者等を除き、引き続き90%以上を確保する。

- 修士課程では、高度の専門性と実践力をもった学校教員の養成と、現職教員の再教育を主な目的とする。学校教員養成においては、我が国の学校教育において必要とする高度な教科指導力と実践的課題解決能力を併せ持つカリキュラムの充実と新たな研究指導体制を構築するとともに、異なる免許種の取得にも道を拓く修士課程の再編を行う。

なお、第3期中期目標期間に改革を行い、学校教員養成系の専攻では教員就職率は60%（進学者を除く）を確保する。

- 連合学校教育学研究科（博士課程）では、教員養成を担う大学教員の養成を目的に、広域科学としての教科教育学の教育と研究を推進し、学位取得と研究者養成に関する高い実績を維持する。また、教員養成系の大学・学部や教職課程を持つ大学・学部では、学校現場での指導経験を有する教員が求められるため、現職教員が入学しやすい体制を整備し、現職経験者に高い研究能力を修得させるシステムを構築する。

- 附属学校等と協働して学校における実践的課題解決に資する研究活動を行うとともに、東アジアをはじめとする海外の教員養成大学と連携し、グローバル化に対応した教員養成プログラムの開発研究を推進する。また、大規模教員養成大学との連携のもと、IR、研修・交流、先導的実践プログラム開発を進めるとともに、教員養成評価の研究を推進して、我が国の教員養成大学・学部の機能強化に寄与する。

- eラーニングを活用した、最大規模かつ全国の教員を対象とした免許状更新講習の実施、教育委員会等が行う現職教員研修のプログラム開発、公開講座や各種研修等の実施により、我が国の教員の資質能力向上に寄与するなど、教員の研究活動等を通じて積極的な社会貢献活動を行う。

(6) 行動規範

● 国立大学法人東京学芸大学行動規範

平成22年3月24日制定

私たち国立大学法人東京学芸大学の役員及び職員は、教員養成を担う大学の一員であることを深く自覚し、次の諸点を行動規範として、自らの行動を厳しく律します。

1. 私たちは、日本の諸法令や本学の諸規程を遵守し、良識に従って行動します。
2. 私たちは、職場や社会において、人権を尊重し、あらゆる差別やハラスメントを許さず、行動します。
3. 私たちは、国民から付託された資産や資金を適正かつ効率的に管理し、経費の不正使用がないようにします。
4. 私たちは、高い倫理観をもって教育研究活動及びそれを支える活動に従事し、教育研究活動上のあらゆる不正行為がないようにします。
5. 私たちは、児童生徒・学生・職員の個人情報適切に保護するとともに、情報の開示に積極的に努めます。
6. 私たちは、本学の児童生徒や学生の教育を受ける権利を保障し、指導責任を果たすように努めます。
7. 私たちは、入学者の選抜を公平・公正かつ厳正に行うと共に、危機管理意識を高めてあらゆる事柄に対処します。
8. 私たちは、さまざまな関係者の意見に真摯に耳を傾け、誠意をもってこれに対応できるように努めます。
9. 私たちは、地域社会や諸機関・諸団体と相互信頼に基づくパートナーシップを築き、積極的に社会貢献できるよう努めます。
10. 私たちは、職場の環境改善に努めるとともに、職場における良好な人間関係を築くように努めます。

(7) 点検評価規程

国立大学法人東京学芸大学点検評価規程

平成22年5月13日
規程第19号

第1章 総則

(趣旨)

第1条 東京学芸大学学則(平成16年学則第2号)第2条に規定する大学が自ら行う点検及び評価(以下「自己点検評価」という。)、学校教育法(昭和22年法律第26号)第109条第2項及び第3項に規定する認証評価(以下「認証評価」という。)並びに国立大学法人法(平成15年法律第112号)第35条において準用する独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第32条及び第34条に規定する各事業年度及び中期目標に係る業務の実績に関する評価(以下「法人評価」という。)の実施等に関し必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(実施体制)

第2条 自己点検評価を実施し、並びに認証評価及び法人評価を受けるために必要な業務は、役員会の求めに応じて、戦略評価推進本部が行う。

第2章 自己点検評価

(自己点検評価の実施)

第3条 自己点検評価は、次に掲げることについて、年度単位で実施するものとする。

- (1) 諸活動等の点検評価(教育活動、研究活動、社会貢献活動、国際交流活動及び大学運営(以下「諸活動等」という。)についての組織的な状況に関する点検及び評価をいう。)
- (2) 教員の総合的業績評価(大学教員及び附属学校教員に係る諸活動等の個人業績について総合的に行う点検及び評価をいう。)

(諸活動等の点検評価)

第4条 諸活動等の点検評価は、戦略評価推進本部が点検評価を行う組織の単位、点検評価の項目、様式、手続きの詳細その他必要な事項を定め、実施する。

- 2 諸活動等の点検評価を行う組織を代表する者は、所定の期日までに自己点検結果を戦略評価推進本部長に提出する。
- 3 戦略評価推進本部は、前項の自己点検結果を整理し学内に公表するとともに、自己点検結果を分析し、学長に報告する。
- 4 学長は、前項の報告に基づき評価結果案を作成し、経営協議会又は教育研究評議会の議を経て、評価結果を決定する。
- 5 前項までの規定のほか、大学院連合学校教育学研究所及び各附属学校にあっては、それぞれの組織において諸活動等の点検評価を実施することができる。
- 6 大学院連合学校教育学研究所又は各附属学校を代表する者は、前項の諸活動等の点検評価を実施し、評価結果を決定したときは、学長に報告しなければならない。

(教員の総合的業績評価)

第5条 教員の総合的業績評価は、常勤の大学教員及び附属学校教員を対象として各学系(教育実践創成講座及びセンターについては、総合教育科学系に含む。ただし、理科教員高度支援センターについては、自然科学系に含む。)又は各附属学校が、実施する。

- 2 前項の教員の総合的業績評価の実施については、役員会が定める指針及び基準等によるほか、必要な事項は、役員会又は各学系若しくは各附属学校において別に定める。

(自己点検評価結果の公表)

第6条 自己点検評価の評価結果は、ウェブサイトの利用その他広く周知を図ることができる方法により学内外に公表するものとする。ただし、教員の総合的業績評価による教員個別の評価

結果は、本人、学長及び学長が必要と認めた者以外に対して公表しない。

(自己点検評価結果の活用)

第7条 学長は、自己点検評価の評価結果に基づき、優れた取り組み及び改善を要する事項に対して所要の措置を講ずるものとする。

(外部評価)

第8条 学長が必要と認めるときは、自己点検評価の結果に基づき、外部評価(自己点検評価の一環として行う学外者による評価及び検証をいう。)を行うことができる。

- 2 外部評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

第3章 認証評価及び法人評価

(認証評価及び法人評価への対応)

第9条 認証評価及び法人評価を受けるにあたっては、評価機関等の示す実施要領等に基づき、戦略評価推進本部が、本学の対応について、その詳細を定めるものとする。

- 2 戦略評価推進本部は、学内の組織に対して、認証評価及び法人評価への対応のために必要な点検及び評価の実施、資料・データの提出等を求めることができる。

(評価結果の公表)

第10条 認証評価及び法人評価の評価結果等は、ウェブサイトの利用その他広く周知を図ることができる方法により学内外に公表するものとする。

(評価結果の活用)

第11条 学長は、認証評価及び法人評価の評価結果に基づき、改善が必要なものについては、その改善に努めなければならない。

第4章 改善措置等

(改善措置の提言)

第12条 戦略評価推進本部は、自己点検評価、認証評価及び法人評価の評価結果に基づき、学長に対し、改善を要する事項等に関する改善措置等の提言を行うことができる。

(監事の監査)

第13条 監事は、自己点検評価、認証評価及び法人評価の評価結果に基づき策定された改善措置の有効性について、監査する。

(本部員等の義務)

第14条 自己点検評価の実施にかかわる戦略評価推進本部員その他の者は、自己点検評価の対象となる者の基本的人権に配慮するとともに、守秘義務を遵守しなければならない。

(評価資料及びデータ)

第15条 自己点検評価、認証評価及び法人評価に当たり収集した資料及びデータは、戦略評価推進本部が適切な方法で管理する。

- 2 前項の資料及びデータについては、役員会の議を経て、大学運営のための基礎資料として活用することができる。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、役員会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成22年5月13日から施行し、平成22年4月1日から適用する。(以下省略)

令和3年度 戦略評価推進本部

本部長	中島 裕昭	理事・副学長（全体統括・総務担当）
本部員	佐々木幸寿	理事・副学長（教育・学生担当）
本部員	濱田 豊彦	副学長（学校教育・学生支援担当）
本部員	小嶋 茂稔	副学長（研究・特命事項担当）
本部員	奥住 秀之	学長補佐
本部員	坂口 謙一	学長補佐
本部員	中野 幸夫	学長補佐
本部員	小森 伸一	学長補佐
本部員	佐藤 節夫	戦略担当課長
本部員	中澤 重夫	学長室長
事務	星名 陽平	学長室員
事務	松本明日香	学長室員
事務	大野 啓子	学長室員

アニュアル・レポート2021

令和3年7月発行

編集 国立大学法人 東京学芸大学
戦略評価推進本部

発行 国立大学法人 東京学芸大学
〒184-8501
東京都小金井市貫井北町4-1-1
電話（042）329-7111（代表）

